

ヲ集合セシメ其ノ席上ニ於テ一同ニ對シ投票ノ勸誘依頼若ハ之カ
斡旋依頼ヲ爲ス行爲ハ個々面接ノ選舉運動ニ該當スルモノトス

【参照】衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル
ノ目的ヲ以テ戶別訪問ヲ爲スコトヲ得ス
何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選
舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人新七ヲ禁錮二月ニ被告人新六ヲ罰金二百圓
ニ處ス被告人新六ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場
ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人新七ハ昭和八年五月二十一日施行セラレタル京都市會議員選舉ニ際シ同市下京區ヨリ立候補シ
タル同議員候補者、被告人新六ハ被告人新七ノ選舉委員タリシトコロ

第一 被告人新七ハ左記一、二ニ互リ犯意ヲ繼續シ
一、當選ヲ得ル目的ヲ以テ

(一) 昭和八年三月八日京都市下京區七條大宮西入料亭泉月樓ニ於テ選舉人北村勘吉 井端賢造
吉川富次郎ニ對シ立候補ノ上ハ自分ノ爲投票シ且投票ヲ蒐集セラレ度キ旨依頼シ其ノ報酬トシ

テ各金三圓九十錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

(二) 同年五月二日被告人新七ノ肩書住居ニ於テ同被告人ノ爲事實上選舉運動ニ從事セントスル
荻野洪ニ對シ右運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シ

(三) 同年五月三日肩書住居ニ於テ相被告人助次郎ニ對シ投票蒐集方依頼ノ趣旨ノ下ニ之カ選舉
運動ノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シ

(四) 同月八日頃前同所ニ於テ自己ノ選舉委員田中憲三ニ對シ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ
金二十圓ヲ供與シ

(五) 同月十八日頃選舉人ナル同區佛光寺通岩上西入吉原山五郎方ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ
下ニ金十圓ヲ供與シ

二、同月三十日肩書住居ニ於テ相被告人助次郎ニ對シ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ
以テ金二十圓ヲ翌三十一日同所ニ於テ選舉人市川豐吉ニ對シ前同目的ヲ以テ金十圓ヲ供與シ

三、被告人新六ト共謀シ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ新六ヲシテ同月二十日肩書大宮佛光寺角ナル
選舉事務所ニ選舉人森山仁三之助等十數名ヲ招致セシメ同人等ニ對シ新七ノ爲投票シ且投票ヲ蒐
集セラレタキ旨依頼セシメ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接シ選舉運動ヲ爲シ

四、右選舉ニ當リ自己ヲ選舉事務長トシテ届出テタル堀川警察署ヲ經由シ京都府知事ニ對シ選舉費

衆議院議員選舉法第九十八條ノ個々面接行爲

用ヲ精算届出ツルニ際シ該費用カ約金千二百圓ナルニ拘ラス被告人新六ヲシテ之カ金九百三十五圓五十二錢ナル旨ノ選舉運動費用精算届ヲ作成セシメ同年六月三日示警察署ニ提出シテ虚偽ノ届出ヲ爲シ

(第二、省略)

第三、被告人新六ハ

一、同月二十日被告人新七ト相謀リ同人ヲシテ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ前第一、三記載ノ如ク連續シテ個々ノ選舉人森山仁三之助等ニ面接シ新七ノ爲投票及其ノ蒐集方ヲ依頼シテ選舉運動ヲ爲シ

二、被告人新七カ堀川警察署ニ選舉運動費用精算届ヲ提出シ京都府知事ニ之カ届出ヲ爲スニ當リ金九百三十五圓五十二錢カ眞實ノ該費用精算額ニ非サルコトヲ知リナカラ眞實同上額ノ費用ヲ支出シタル旨ノ届出ヲ作成シテ被告人新七ノ第一、四ノ虚偽ノ届出ヲ幫助シ

(第四、省略)

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人新七ノ判示所爲中第一、一(一)乃至(五)ノ點ハ市制第四十條衆議院議員選舉法(以下單ニ選舉法ト略稱ス)第百十二條第一號ニ同二ノ點ハ市制第四十條選舉法第百十二條第三號

ニ該當シ以上ハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條第十條ヲ適用シ一罪トシテ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從フヘク同三ノ點ハ刑法第六十條市制第三十九條ノ三第一項市制第三十九條ノ二府縣制準用選舉市區指定令(大正十五年勅令第二百一十一號)第一條(以下單ニ勅令ト略稱ス)選舉法第九十八條第二項市制第四十條前同選舉法第百二十九條ニ同四ノ點ハ市制第三十九條ノ三第三十九條ノ二前同勅令前同選舉法第百六條第一項市制第四十條前同選舉法第百三十五條第二號後段ニ該當シ以上三罪ハ刑法第四十五條前段所定ノ關係ニ在ルヲ以テ各所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ刑法第四十七條本文第十條ヲ適用シ最モ重キ市制第四十條選舉法第百十二條第一號ノ罪ノ刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處シ被告人新六ノ判示所爲中第三、一ノ點ハ刑法第六十條市制第三十九條ノ三第一項第三十九條ノ二前同勅令選舉法第九十八條第二項市制第四十條前同選舉法第百二十九條ニ同二ノ點ハ市制第三十九條ノ三第一項第三十九條ノ二前同勅令前同選舉法第百六條第一項市制第四十條前同選舉法第百三十五條第二號刑法第六十五條第一項第六十二條第一項第六十三條ニ該當スルヲ以テ各所定刑中罰金刑ヲ選擇シ後者ニ付テハ特ニ刑法第六十九條同法第六十八條第四號ヲ適用シ從犯ノ減輕ヲ爲シ以上二罪ハ同法第四十五條前段所定ノ關係ニ在ルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ從ヒ各罪ニ付定メラレタル罰金ノ合算額以下ニ於テ同被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞務役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人岡崎新六上告趣意書原審判決ハ被告岡崎新六ハ昭和八年五月二十一日施行ノ京都市會議員選舉ニ際シ同市下京區ヨリ立候補シタル田中新七ノ選舉委員トナリ選舉事務ニ關係セル内同月二十日相被告田中新七ノ依頼ヲ受ケ同人ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同月同日森山仁三之助外十數名ノ選舉人ヲ個々ニ下京區大宮佛光寺角下ル候補者ノ選舉事務所ニ招致シ面接シ同候補者ノ爲投票シ且投票ヲ蒐集シ吳レ度キ旨ノ依頼ヲ爲シタリトシ并ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ該當スルモノトシテ處罰シタリサレト被告ハ原審判決摘示ノ如ク森山仁三之助外十數名ヲ招致シ候補者ノ爲ニ投票ヲ得セシムル目的ヲ以テ投票セシムヘク挨拶其ノ他意思表示ヲ爲シタルコトハ事實ナルモ此ノ事實ヲシテ直ニ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シタルモノト謂フヲ得サルモノナリ之全ク原審ハ明カニ擬律ヲ誤レル判決ナリトス(御院昭和三年刑事判決錄一五〇頁法律新聞二八四二號一四頁)依テ爰ニ處罰ノ資料トナレル部分材料ヲ摘録スレハ昭和八年六月二十六日檢事玉澤光三郎ノ被告ニ對スル聽取書七即チ五月二十日即チ投票日ノ前日午後三時過頃ノ事田中宅ノ二階選舉事務所テ田中ヨリ同夜少シ人ヲ集メテ貰ヒ依頼ヲシタイカラ集メル様ニシテ貰ヒタイトノ話ヲ聞キマシタ私カ田中ニドノ方面

ノ人ニ集ツテ貰フノカト尋ネマスト同人ハ其ノ名ヲ云ウタノテ一々私ハ紙片ニ書留メ更ニ同人ヨリノ指圖テ午後八時迄ニ事務所ニ來テ吳レト云フ意味ノ呼出ノ文案ヲ作りソレヲ田中ニ示シ同人ノ承諾ヲ得テ約三十枚謄寫版ニヨリ印刷シ内二十四枚封書ニ納メ田中ノ指定シタ人達ニ發送致シマシタ發送ハ山岸外二名ノ人夫ニ配達サセタ様ニ思ヒマス人夫ニ對シテハ急ノモノタカラ推薦狀等ノ様ニ放込ミニセス田中カラタト云ウテ先方ニ手渡シテ叮嚀ニスル様命シテ配達サセマシタ配達シタノハ午後五時カラ六時半頃迄ト記憶シテ居リマス此ノ發送後私ハ田中ニ演說會場ニ行ク前ニ貴方ヨリ依頼ヲスルノカト尋ネタ處田中ハ演說會ニ行カナケレハナラヌカラ君カ代ツテ話ヲシテ吳レト申シ依頼ノ趣旨ハ豫テヨリ御同情御後援ヲ願ウタカ選舉モ明日ニ迫ツテ居ルケレトモ選舉狀勢ハ水平線ヨリ稍下ニアリ油斷ノナラヌ有様テアルカラ皆様ノ持ツテ居ル票ヲ自分ノ爲ニ御投票願ヒタヒ尙御近所ニハ田中ノ評判ヲヨイ様ニシ近所ノ人達ニモ宜敷ク頼ンテ貰ヒタヒ尙他方面ヨリ潛行的運動モアルカモ知レヌカラ其ノ運動ニカカラス様十分注意ヲ拂ツテ頂キ度ヒト斯様ニ私ヨリ集ツタ人々ニ依頼セヨトノ事テシタノテ私モ之ヲ引受ケタ次第テ田中ハ午後七時半頃ヨリ演說會場ニ出テ行キマシタ呼出狀ヲ掛ケタ人達ハ八時半頃ヨリボツノ選舉事務所ノ二階ニ集リ九時半頃ニハ十二三名ノ顔カ揃ヒマシタ集合シタ人テ私ノ記憶ニ殘ツテ居ルノハ大宮佛光寺角森山仁三之助 同下ル兵行善 大宮高辻角高木彌三郎 黒門高辻上ル河合常吉 綾小路猪熊東入石井元治郎 綾小路堀川西入小松甚之助 岩上綾小路下ル田嶋豐三郎

衆議院議員選舉法第九十八條ノ個々面接行爲

四條通り新シ町角中森道三郎 四條岩上西入市川某 綾小路大宮一町西入林源之助等テ此ノ外ニ呼出
 狀ヲ掛ケテ居リマスカ事務所ニ來テ吳レタカトウカ記憶ノナイ人ニ大宮佛光寺下ル森井虎一 猪熊高
 辻下ル林卯之助 同所小林長太郎 猪熊綾小路下ル瀬川某 四條岩上西入加藤市太郎 佛光寺岩上西入吉
 原山五郎 岩上松原上ル井上某等テアリマス以上ノ人達ハ何レモ下京區ノ有權者テ娘カ田中方ニ針子
 ニ行ツテ居ルトカ息子ノ入學ニ田中ニ骨折ツテ貰ツタトカ田中ニ恩義ヲ受ケテ居ル者ヤ特ニ平素ヨリ
 田中ト昵懇ナ關係ノアル人達ハカリテ皆町内ノ相當ナ有力者テアリマス從テ田中ノ爲ニ推薦狀ノ運動
 等ヲ致シテ居ル人テアリマスカ田中カ特ニ其ノ知合先等ニ投票ヲ頼ンテ廻ツテ貰フ様依頼シテアツタ
 カ否ヤハ私ハ少シモ存シマセヌ集ツタ人達ニ對シテハ私ト田中ノ妻ノ弟ノ岩田宥次郎トカ應對シ集ツ
 タ席上テ私ヨリ田中候補ニ代ツテ皆様ニ御願ヒスルト口ヲ切り田中ノ爲ニ後援シテ頂イタノテ割合ニ
 順調ニ來テ居ルカ未タ大丈夫トハ思ハレヌ様テ新聞等ニヨルト田中ハ殆ント問題ニサレテ居ラヌ模様
 テアルカ學區内ノ方面ハ割合ニ同情ヲ受ケ漸ク當選出來ルカ出來ヌカノ水平線附近迄來テ居ル様ニ思
 フカ未タ水平線ヨリ少シ下ニ在リ當落モ僅カノ點ニ在ル様ニ思ハレルカラ何レ明日ノ投票日ニハ皆様
 ノ一票ハ勿論田中ニ入レテアケテ貰ヒタイソレハ今迄ニ皆様ニ御世話ニナツテ居ル事タカラ間違ヒナ
 イト思フカ更ニ皆様ノ近所ニモ田中ヲ吹聴シテ貰ヒタイ殊ニ今夜當リハ他ノ方面ヨリ潜行的ニ運動カ
 アルニ決ツテ居ルカラ其ノ方面ノ警戒モ怠ラヌ様十分注意願ヒタイ投票日ニハ誘ヒ合テ大勢投票ニ行

ク様ニ骨折ヲ願ヒタイ候補者ヨリ御依頼スル答テアツタカ演說會ノ都合テ私ヨリ御依頼スル次第テス
 カ候補者ヨリモ吳々モ宜シク頼ムトノ事テアツタカラ何卒宜シク御願ヒ致シマスト依頼シタノテアリ
 マス集ツタ人達ハ皆承知シテ十一時前後ニ引取ツテ歸リマシタ田中カ之等ノ人達ヲ集メサセ依頼サセ
 タ目的ハ田中ノ言葉ノ内ニモアル通り田中ノ爲ニ夫等ノ人達ノ投票ヲ入レサセ尙相當ノ有力者カ執レ
 モ田中ノ味方トナツテ居ル人達テスカラソノ人達ニ依頼シテ近所ノ人達ニテモ頼ンテ貰ヒ一票テモ多
 ク票ヲ得タイ處カラ致シタモノニ相違ナク私トシテモ左様ナ考テ田中ノ趣旨ヲ一同ニ傳へ同様ニ依頼
 フシ田中ニ投票シテ貰フト計ツタ譯テアリマス昭和九年二月八日原審ニ於ケル公判調書田中新七岡崎
 新六ニ對スル訊問中間被告人ハ投票ヲ得ル目的テ自分ノ選舉委員テアル岡崎新六ヲシテ同月二十日被
 告人ノ選舉事務所ニ於テ森山仁三之助外十數名ヲ招致シテ個々ニ面接セシメ自己ノ爲投票竝ニ投票蒐
 集方ノ依頼ヲ爲サシメタト云フ事テアルカ何ウカ答左様ナコトハアリマセヌ問岡崎新六カ其ノ様ニ云
 ウテ居ルカトウカ答岡崎ハ何ト云ウテ居ルカ知リマセヌカ私ハ其ノ様ナ事ヲ岡崎ニ申シタ事ハアリマ
 セヌ問岡崎ハ森山等ヲ被告人カ指名シタノテ自分ハ之ヲ紙ニ書取リ其ノ人達ヲ呼寄セタ様ニ云ツテ居
 ルカトウカ答私カ森山等ヲ指名シタト云フ様ナコトハアリマセヌ問岡崎ハ呼出ノ文案ヲ作り之ヲ被告
 人ニ示シタ處被告人ハソレテヨイト云ツタノテ岡崎ハ之ヲ謄寫版テ印刷シテ被告人ノ指名シタ者ノ許
 へ人夫ニ持タセテヤツタト云ウテ居ルカトウカ答其ノ様ナ事ハ存シマセヌ問然シ岡崎ハ檢事ニ對シ斯

様ニ陳述シテ居ルカトウカ裁判長ハ此ノ時被告人岡崎新六ニ對スル檢事聽取書第七項記錄五百二十五丁以下ヲ讀ミ聞ケタリ中略裁判長ハ被告人岡崎新六ニ對シ檢事陳述通り被告事件ヲ告知シ問此ノ事實ハ何ウカ答原審判決ノ第一ノ事實ハ其ノ通り相違アリマセヌカ第二ノ事實ハ相違シテ居リマス間之迄刑事上ノ處分ヲ受ケタ事ハナイカ答アリマセヌト記載アリト謂ヒ「被告人田中新七辯護人高山義三上告趣意書第一點原審判決ハ證據ニヨラスシテ事實ヲ認定シタルノ失當アルト共ニ擬律ノ錯誤アリト信ス原審判決ハ判示第一事實ノ三ニ於テ「被告人田中新七ハ岡崎新六ト共謀シ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ新六ヲシテ昭和八年五月二十日肩書大宮佛光寺角ナル選舉事務所ニ選舉人森山仁三之助等十數名ヲ招致セシメ同人等ニ對シ新七ノ爲投票シ且投票ヲ蒐集セシメラレタキ旨依頼セシメ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接シ云々」ト記載シ被告人新七及原審相被告人岡崎新六ノ行爲ニ對シ衆議院議員選舉法第九十八條第二項ヲ適用シ其ノ證據トシテ被告人新六ノ原審公判廷ニ於ケル一ニ判示ノ日田中新七カ自分ニ對シ今夜人ヲ集メテ貰ヒ度イト云ヒ呼出セル人ヲ指名シタノテ自分ハ田中カ云フ通り名前ヲ書キ取りタルニ田中ハ呼寄セル趣旨ハ斯様々々ト云ハレタノテ自分ハ其ノ通り午後八時迄事務所(下京區大宮通佛光寺角)ニ來テ吳レト云フ意味ノ呼出ノ文案ヲ作り田中ニ示シ同人ノ承諾ヲ得テ印刷シ二十四、五枚ヲ田中ノ指定シタ人達ニ發送シタ處其ノ晚選舉人森山仁三之助外十數名カ田中ノ選舉事務所ニ來タノテ自分ハ同所ニ階テ集ツタ人達ニ對シ田中カラ命セラレタ通り田中ノ爲投票シ且投票ヲ

集メテ貰ヒ度イト依頼シタル旨」一「同シク右呼出發送後田中ニ演說會場ニ行ク前ニ貴方ヨリ依頼ヲスルノカト尋ネタ處田中ハ君カ代ツテ話ヲシテ吳レト申シ(中略)皆様ノ持ツテ居ル票ヲ自分ノ爲ニ御投票願ヒ度イ尙ホ御近所ニハ田中ノ評判ヲヨイ様ニシテ近所ノ人達ニモ宜敷ク頼ンテ貰ヒタイ云々ト斯様ニ自分ヨリ集ツタ人々ニ依頼セヨトノ事ナリシ故自分モ之ヲ引受ケタリ呼出狀ヲ掛ケタ人達ハ九時半頃ニハ十二三名揃ヒタルカソレハ森山仁三之助其ノ他テ何レモ下京區ノ有權者ヲ集ツタ席上テ自分ヨリ田中候補ニ代ツテ御願ヒスルト口ヲ切り(中略)何卒明日ノ投票日ニハ皆様ノ御一票ハ勿論田中ニ入レテ上ケテ貰ヒタイ云々更ニ皆様ノ御近所ニモ田中ヲ吹聴シテ貰ヒタイ云々投票日ニハ誘合セテ大勢投票ニ行ク様ニ骨折リヲ願ヒ度イト云々ト依頼シタル旨」ノ供述ヲ援用シタルノミナリ然ルニ右供述ニ依レハ新六ハ新七ニ投票セシムル目的ヲ以テ森山仁三之助外十數名ヲ招致シ且集會者一同ニ對シ一致シテ新七ニ投票ヲセシムヘク挨拶其ノ他ノ意思表示ヲ爲シタル事實ハ之ヲ認ムヘキモ未タ以テ新六カ各別ニ集會者ニ應對シタル事實ヲ認ムヘキ證據ヲ發見スルヲ得サルナリ然ラハ原審判決ハ證據ニヨラスシテ事實ヲ認定シテ判決ヲ爲シタルノ違法アルト共ニ本件ニ於テハ各別ニ集會者ニ應對シタルノ事實ナキ限り衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シタルモノトシテ處罰スルノ不當ナルコトハ既ニ御院ノ認ムル處ニシテ昭和三年三月五日御院第二刑事部ノ判示シタル處ナリ然ラハ原審判決ハ此ノ點ニ於テモ法律ノ適用ヲ誤リタルモノトシテ當然破毀ヲ免

レサルモノト信スト謂フニアリ

按スルニ原判決認定ノ第一ノ三ノ事實ハ被告人新七ハ被告人新六ト共謀シ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ新六ヲシテ昭和八年五月二十日大宮佛光寺角ナル選舉事務所ニ選舉人森山仁三之助等十數名ヲ招致セシメ同人等ニ對シ新七ノ爲投票シ且投票ヲ蒐集セラレタキ旨依頼セシメ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接シ選舉運動ヲ爲シタリト謂ヒ原判決認定ノ第三ノ一ノ事實ハ被告人新六ハ同月二十日被告人新七ト相謀リ同人ヲシテ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ前第一ノ三記載ノ如ク連續シテ個々ノ選舉人森山仁三之助等ニ面接シ新七ノ爲投票及其ノ蒐集方ヲ依頼シテ選舉運動ヲ爲シタリト謂フニ在リテ右判文ニ依リテハ右被告人等カ共謀ノ上連續シテ個々ノ選舉人ニ面接シタルハ如何ナル方法ニ依リタルモノナリヤ稍明瞭ヲ缺クモ該事實認定ノ資料トシテ原判決ニ掲クル證據ニ徴スルニ被告人新六ニ於テ被告人新七カ指名シタル選舉人森山仁三之助外十數名ニ對シ呼出ノ書面ヲ送リテ判示事務所ニ來集セシメ其ノ集合ノ席上ニ於テ一同ニ對シ被告人新七ノ爲ニ投票竝ニ投票ノ蒐集ヲ依頼シタル事實ナルコト明カナリトス然リ而シテ衆議院議員選舉法第九十八條ニ所謂投票ヲ得若ハ得シムル目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接スル行爲ハ二人以上ノ選舉人ニ對シ順次ニ連續シテ個別的ニ應對シ投票ノ勸誘依頼若ハ之カ斡旋依頼等ヲ爲スニ依リテ行ハルルヲ常態トナスモ個別的ニ應接スル意圖ヲ以テ各個ニ認識シタル特定多數ノ選舉人ヲ集合セシメ其ノ席上ニ於テ一同ニ對シ投票ノ勸誘依頼若ハ之カ斡旋依頼ヲ

【要旨】

爲ス場合ハ個別的ニ連續シテ應接スル場合ト其ノ形式方法ヲ異ニスルモ個別的應接ノ要素ヲ具備シ且其ノ實質效果ニ於テ彼此相異ルコトナキヲ以テ等シク連續シタル個々面接ノ行爲ナリト解スヘキモノトス然ラハ前示ノ如ク豫メ認識セル特定ノ選舉人十數名ヲ一々呼出ノ書面ヲ以テ招致シ其ノ集合席上ニ於テ一同ニ對シ投票又ハ投票蒐集ノ依頼ヲ爲シタル本件行爲ハ即チ右ノ個々面接ノ行爲ニ該當スルモノナルコト自ラ明白ナルヲ以テ之ニ對シ原審カ衆議院議員選舉法第九十八條第二項ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ何等擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヲ得ス所論ノ判例(昭和三年(れ)第一〇二號同年三月五日第二刑事部判決)ノ基本タル事實ハ不特定多數ノ黨員會合ノ席上ニ於テ一致シテ同一候補者ニ投票スルコトニ意見ヲ取纏メタルモノニシテ個別的應接ノ要素ヲ缺キ本件事案ト事實關係ヲ異ニスルモノナレハ以テ本件ヲ判斷スルニ付適切ナル前判例トナスヲ得ス而シテ原判決ノ右個々面接ノ行爲ハ原判決學示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認ムルニ足ルモノトス所論ハ畢竟原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ非難シ又ハ個々面接行爲ノ常態ニノミ著眼シ前說示ノ如キ態樣ニ於ケル個々面接行爲ヲ看過シ之カ存在ヲ否定セントスルモノニシテ當院ノ採ラサル所ナリ從テ論旨ハ孰レモ其ノ理由ナキニ歸スルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○詐欺横領被告事件(昭和九年(九)第九五三號
同年十月八日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 原 文 外 一作 辯護人 (益 谷 秀 次
一名 宮 崎 一 次
【第一審】 福山區裁判所 【第二審】 廣島地方裁判所

○判示事項

横領金員預入郵便貯金通帳ノ所持ト準現行犯人ノ共犯者ヲ受取りタル場合ト其ノ司法警察官ノ訊問——辯護人ノ申請ニ基ク記録取寄決定ト其ノ施行

○判決要旨

一横領シタル金銭ヲ郵便貯金ト爲シ其ノ通帳ヲ所持シ犯人ト思料スヘキ場合ハ所謂準現行犯人ナリトス【要旨第一】

二司法警察吏力準現行犯人ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯者ヲ發見シ逃亡ノ虞アリト認め之ヲ逮捕シ準現行犯人ト共ニ司法警察官ニ引渡シタルトキハ司法警察官ハ即時訊問ヲ爲スヘキモノトス

【要旨第二】

三辯護人ノ申請ニ基ク證據決定ニヨリ他ノ刑事事件ノ記録ヲ取寄せ之ヲ法廷ニ顯出シ其ノ被告人ノ他ノ辯護人ニ於テ其ノ中一部ヲ援用シタル場合ニ於テハ其ノ記録ヲ被告人ニ示シ其ノ意見反證ヲ求めサルモ該證據決定ハ完全ニ施行セラレタルモノトス【要旨第三】

【参照】 刑事訴訟法第三百三十條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器臍物其ノ他ノ物ヲ所持シ誰何セラレテ逃走シ犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

同法第二百二十四條 檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラルトキ又ハ

横領金員預入郵便貯金通帳ノ所持ト準現行犯人ノ共犯者ヲ受取りタル場合ト其ノ司法警察官ノ訊問 辯護人ノ申請ニ基ク記録取寄決定ト其ノ施行

第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ
一 檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得

二 司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ
三 司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

同法第二百六條 司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取りタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引渡スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取りタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

同法第二百三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

一 被疑者定マリタル住居ヲ有セサルトキ
二 現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ
四 既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃ビシタルトキ

五 死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ
六 被疑者常習トシテ強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタモノナルトキ

同法第二百七條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取り又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取りタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキ

ハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速クトモ四十八時間内ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ
同法第三百四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人文作同卯一ヲ各懲役十月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中各十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人原文作ハ大同生命保險株式會社尾道監督所主任トシテ備後一圓ノ同會社代理店及外務社員ヲ監督スヘキ任務ヲ有スル者被告人枝廣卯一ハ同會社福山代理店主ナルトコロ

第一 昭和八年九月二日同會社外務社員笹川サイカ保險金詐欺ノ目的ヲ以テ同會社トノ間ニ笹川與太郎ノ名義ヲ冒用シ同人ヲ保險契約者自己ノ三男笹川嘉ヲ被保險者トスル保險金一萬五千圓受取人滿

期ノ場合ハ被保險者本人其ノ死亡ノ場合ハ其ノ相續人保險料半箇年金二百八十二圓九十錢半年掛三

十年滿期ノ特別養老保險契約ヲ締結シ其ノ第一回保險料ヲ拂込ミタル後同年十月三十日被保險者笹川嘉ヲ毒殺シ被告人兩名ニ對シ其ノ情ヲ秘シ嘉ノ遺產相續人笹川幾三二ノ代理人名義ヲ以テ保險金

ノ請求方依頼シタルヨリ被告人兩名ハ之ニ應シ前記保險會社本社ヨリ事實調査ノタメ派遣セラレタ

横領金員預入郵便金通帳ノ所持ト準現行犯人 準現行犯人ノ共犯者ヲ受取
リタル場合ト其ノ司法警察官ノ訊問 辯護人ノ申請ニ基ク記錄取寄決定ト其
ノ施行

ル平井定五郎ト折衝ノ末同年十一月十四日右保險契約ヲ解除シ同會社ヨリ香資料名義ニテ金七千五百圓ヲ受取リタルニ拘ラス被告人兩名共謀ノ上同月十五日福山市笠岡町白川梁一方ニ於テ笹川サイニ對シ内金五千圓ヲ交付シタルノミニテ殘額二千五百圓ヲ交付セス擅ニ被告人兩名之ヲ折半シテ著服横領シ

第二 被告人兩名ハ共謀ノ上保險料拂込名義ノ下ニ金錢ヲ騙取センコトヲ企テ笹川サイニ前記金五千圓ヲ交付シタル直後前同所ニ於テ前顯保險契約ニ基ク第二回保險料ハ最早ヤ之カ拂込ヲ爲スノ要ナキニ至リタルニ拘ラス笹川サイニ對シ之カ拂込ヲ要スルモノノ如ク申許リ因テ其ノ旨同人ヲ誤信セシメ即時第二回保險料名義ノ下ニ金百四十一圓四十五錢ヲ受取リ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示被告人兩名ノ第一ノ所爲ハ刑法第二百五十二條第一項第六十條ニ第二ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第六十條ニ各該當シ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ其ノ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人兩名ヲ各懲役十月ニ處シ原審ニ於ケル未決勾留日數一部ノ通算ニ付同法第二十一條ヲ適用スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告辯護人益谷秀次 宮崎一上告趣意書第一點ハ原判決ハ探證ノ法則ニ違背スルモノナリ原判決ハ枝廣卯一及原文作ニ對スル各司法警察官訊問調書ヲ援用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ本件記録ヲ調査スルニ本件ハ昭和九年三月九日福山警察署詰巡查カ被告人枝廣卯一ヲ詐欺業務横領ノ現行犯人トシテ被告人原文作ヲ同罪ノ非現行犯人トシテ逮捕シ司法警察官ニ引致シ司法警察官ハ同日被疑者トシテ訊問シタルモノナルコトハ記録七丁以下ノ逮捕手續書及前記各訊問調書ニ依リ明ナリトス刑事訴訟法上司法警察官カ被疑者トシテ強制訊問ヲ爲スニハ現行犯人ニ限ラレ居ルモノニシテ非現行犯人ニ對シ被疑者トシテ強制訊問ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ(一)前示逮捕手續書ニ依レハ原文作ハ詐欺横領ノ非現行犯人ナリト謂フニ在ルヲ以テ司法警察官カ被疑者トシテ訊問シタルハ違法ニシテ該訊問調書ハ證據ト爲ルモノニアラス(二)前示逮捕手續書ニ依レハ枝廣卯一ハ詐欺横領ニ依ル贓物タル現金ヲ所持シ居リタルモノニアラスシテ單ニ郵便貯金通帳ヲ所持シ居リタリト云フニ止マルヲ以テ同人モ亦現行犯人ニアラス之ヲ現行犯人トナシ司法警察官カ被疑者トシテ強制訊問ヲ爲シタルハ違法ニシテ該訊問調書モ亦證據ト爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ原判決ハ此ノ點ヲ看過シ右(一)(二)ノ訊問調書ヲ採用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタルハ探證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニアレトモ

横領金員預入郵便貯金通帳ノ所持ト準現行犯人 準現行犯人ノ共犯者ヲ受取リタル場合ト其ノ司法警察官ノ訊問 辯護人ノ申請ニ基ク記録取寄決定ト其ノ施行

【要旨第一】

所論逮捕手續書ニ依レハ司法警察吏ハ被告人卯一カ本件犯行ニヨリ取得セル金員中一千圓ヲ郵便貯金ト爲シ其ノ通帳ヲ所持シ居リテ犯人ト思料スヘキ場合ニ該當シ且逃亡ノ虞アリト認メ刑事訴訟法第三百三條第二項第二百二十四條後段第三號第二百二十六條第一項ノ規定ニヨリ之ヲ逮捕シ司法警察官ニ引渡シタルモノナルコトヲ認メ得ヘク又同逮捕手續書ニ依レハ同警察吏ハ被告人卯一ノ取調ニ因リ被告人文作モ其ノ共犯者ナルコトヲ發見シ且逃亡スル虞アリト認メ同法第二百二十三條第三號第二百二十四條後段第三號第二百二十六條第一項ノ規定ニヨリ之ヲ逮捕シ司法警察官ニ引渡シタルモノナルコトヲ認メ得ヘク斯ル場合ニ於テハ司法警察官ハ同法第二百二十七條ノ規定ニ依リ即時訊問ヲ爲スヘキモノナレハ所論司法警察官カ右兩被告人ヲ被疑者トシテ訊問シタルハ違法ニ非ス從テ其ノ訊問調書ヲ罪證ニ供シ得ヘキモノナレハ原判決ニハ所論ノ如キ探證ノ法則ニ違背シタルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ

【要旨第二】

同第二點ハ原審公判ハ其ノ手續上重大ノ違法アルモノナリ原審公判調書ヲ閱スルニ其ノ第一回公判ニ於テ原審裁判所ハ辯護人ノ申請ニ基キ所轄裁判所ヨリ笹川サイニ對スル刑事事件記録ヲ取寄スヘキ旨ノ證據決定ヲ爲シタリ然ルニ其ノ後ノ公判調書ヲ閱スルニ「裁判長ハ廣島地方裁判所尾道支部ヨリ取寄セタル被告人笹川サイニ對スル刑事事件記録ヲ法廷ニ顯出シタル上云々(記録四九二丁)ト記載シアルノミニシテ右取寄記録ハ之ヲ法廷ニ顯出シタルコトヲ認メ得ルニ止マリ右記録ヲ被告人等ニ展示シテ其ノ意見反證ヲ求メタル事迹ノ徵スヘキモノ存スルトコロナク結局原審ニ於テハ自ラ決定シタル證據調ヲ完全ニ履踐セサルモノニシテ公判手續上重大ノ違法アリ原判決ハ斯カル違法ノ公判ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ破毀スヘキモノト思料スト云フニアレトモ

【要旨第三】

記録ニ徵セハ所論ノ刑事事件記録ハ被告人卯一ノ辯護人ヨリノ申請ニ係リ而モ之ヲ取寄セタル上法廷ニ顯出シ同被告人ノ辯護人ニ於テ其ノ中ノ一部ヲ援用シタルモノトス斯ノ如キ場合ニ於テハ右記録ヲ被告人ニ示シ其ノ意見反證ヲ求ムル要アルコトナク以上ヲ以テ該證據決定ハ完全ニ施行セラレタルモノト謂フヘキモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○竊盜準強盜被告事件 (昭和九年(九)第一〇〇三號 棄却)

【上告人】 被告人 衛藤今朝氣 辯護人 (山口勘仙 司)

第二回以後ノ公判期日ト辯護期間連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條 一罪ヲ組成スル事實ニ付テノ間ノ形式

○判示事項

第二回以後ノ公判期日ト猶豫期間——連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審手續——陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條——一罪ヲ組成スル事實ニ付テノ問ノ形式

○判決要旨

- 一 第二回以後ノ公判期日ニ於ケル召喚ニハ猶豫期間ヲ存スル要ナキモノトス【要旨第一】
- 二 竊盜及準強盜ノ公訴事實カ一個ノ連續犯ヲ構成スルモノトシテ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ被告人ヨリ準強盜ノ公訴事實ノミヲ指示シテ陪審ノ請求アリタルトキト雖竊盜及準強盜ノ公訴事實ヲ含ム事件全體ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトス【要旨第二】
- 三 陪審手續ニ於テハ裁判所證據ト爲スニ足ラスト認メタルモノハ假令刑事訴訟法第三百四十二條所掲ノ書類圖畫ト雖之カ取調ヲ爲スノ要ナキモノトス【要旨第三】

四 一罪ヲ組成スヘキ事實カ數個ノ事實ヨリ成リ且其ノ事實ノ存否カ夫々問題ト爲ルヘキ場合ニ於テモ陪審員ニ對シテハ之ヲ一括シタル問ヲ發スヘク各個ノ事實ニ分別シテ問ヲ爲スヘキモノトス【要旨第四】

【參照】刑事訴訟法第三百二十一條第一項 第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ
 審法第三條 長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス
 法第七十一條 證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ル

同法第七十二條 左ニ掲クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

- 一 公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書
- 二 檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖畫
- 三 公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付公務員ノ作リタル書類
- 四 前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ其ノ眞正ナルコトノ證明アルモノ
- 五 鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫

同法第七十三條 裁判所豫審判事、受命判事受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權

第二回以後ノ公判期日ト猶豫期間——連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條——一罪ヲ組成スル事實ニ付テノ問ノ形式

ヲ有スル官署檢察司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問
調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ
難キトキ

二 被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ
於テ變更シタラトキ

三 被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲ササルトキ

同法第七十四條 前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シ

タル書類又ハ裁判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルト
キ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

同法第七十五條 證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規
定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

刑事訴訟法第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書

類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依
リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ
之ヲ取調ヘサルコトヲ得

陪審法第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上
ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評
議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表
示スルコトヲ得ス

同法第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト
答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノト
ス

補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必
要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ム
ルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

同法第八十九條 評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ

主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

○事實

審原ハ陪審ノ答申ヲ採擇シテ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六年ニ處ス未決
勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ犯意ヲ繼續シテ

第一 昭和七年四月二十日午前二時頃大分縣速見郡龜川町大字内竈矢黑監爾方邸内ニ置キ在リタル同
人長男清一郎所有ノ古木綿縞袴仕着一枚ヲ竊取シ

第二 引續キ同家隣溝部鶴治方臺所箆筒小抽斗ヨリ同人弟溝部源吾所有ノ現金二十五錢在中ノ墓口一

第二回以後ノ公判期日ト猶豫期間 連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審
手續 陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條 一罪ヲ組成ス
ル事實ニ付テノ同ノ形式

個ヲ竊取シテ同家ノ裏戸口ニ出テントスル際鶴治及及源吾ニ發見セラレ逮捕セラレントシタルヨリ之ヲ免レンカ爲ニ同人等ニ「騒ケハ斬ル」旨申向ケ同人等カ恐レテ怯ム隙ニ組付キ居タル源吾ヲ突放シテ同家ヨリ逃去シ途中更ニ源吾等ノ求援ニ依リ附近居住ノ金朴九カ被告人ヲ追跡シ來リシヨリ其ノ逮捕ヲ免レンカ爲ニ附近道路ニ於テ金朴九ニ投石シ尙石ニテ其ノ腰部ヲ打チタルモノナリ尙被告人ハ昭和二年一月二十一日白杵區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ因リ懲役五年ニ處セラレ昭和七年一月二十日其ノ執行ヲ終リタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中竊盜ノ點ハ刑法第二百三十五條ニ準強盜ノ點ハ同法第二百三十八條第二百三十六條ニ該當シ以上ハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用スヘク尙再犯ナルヲ以テ同法第五十七條第十四條ニ依リ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數ノ一部ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ依リ全部被告人ニ於テ負擔スヘキモノトス

原審裁判長カ陪審ニ對シテ爲シタル問ハ左ノ如シ

第一 被告人ハ昭和七年四月二十日午前二時頃縣下速見郡龜川町大字内竈部落矢黑監爾方邸内ニ置キ在リタル同人長男清一郎所有ノ古キ木綿縞袴仕事着一枚ヲ自己ノ物トスル意思ニテ竊取シタリヤ
第二 イ、被告人ハ昭和七年四月二十日午前二時頃縣下速見郡龜川町大字内竈溝部鶴治方臺所竈筒小

抽斗ヨリ同人弟源吾所有ノ現金二十五錢入墓口一個ヲ竊取シテ同家裏戸口ニ出テントスル際鶴治及源吾ニ發見セラレ逮捕セラレントシタルヨリ之ヲ免レンカ爲ニ同人等ニ騒ケハ斬ル旨申向ケ同人等カ恐レテ怯ム隙ニ組付キ居タル源吾ヲ突放シタルヤ

第二 ロ、被告人ハ昭和七年四月二十日午前二時頃縣下速見郡龜川町大字内竈溝部鶴治方臺所竈筒抽斗ヨリ同人弟源吾所有ノ現金二十五錢入墓口一個ヲ竊取シテ同家裏戸口ヨリ逃ケ出ス途中源吾等ノ求援ニヨリ金朴九カ被告人ヲ追跡シ來リシヨリ其ノ逮捕ヲ免レンカ爲ニ金朴九ニ投石シ尙石ニテ其腰部ヲ打等爲シタルヤ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書ノ要旨ハ本件上告理由ニ、公判開廷手續ノ違法昭和九年五月二十一日附ヲ以テ證人トシテ矢黑監爾ヲ喚問ストノ決定アリ同月二十四日刑務官ヨリ其ノ通知書ヲ交付セラレ同月二十五日看守ヨリ同三十日大分地方裁判所刑事部ニ出頭セヨトノ呼出ノ通知アリタルコトヲ告知セラレタルカ何ノ呼出ナリヤ帳簿ニ其ノ名目ノ記載ナシトノコトナリキ病氣ノ爲公判手續停止以來既ニ一年四箇月ニモナル故公判期日ヲ決定スル準備公判カ其ノ他一寸參考事項ニテモ訊ネラルルコトナラント思ヒ別

第二回以後ノ公判期日ト猶豫期間 連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條 一罪ヲ組成スル事實ニ付テ同ノ形式

ニ注意セスニ居リ同月三十日午前八時ニ出頭シタルニ刑事部長ハ本日最早陪審員全部出頭シ居ル故直ニ公判開廷スル故告知スルト云ハレタルカ私ハ寢耳ニ水ニテ實ニ驚キタリ公判ト確知シ居リタランニハ證據調ノ申請其ノ他ニ付種々御願申上ケ度キコトモアリ延期ヲ申請シ身體モ神經モ極度ニ衰弱シ居ル爲一日完全ニ公判廷ニ於テ訴訟上ノ利益ヲ得ルコト出來ス不利益ナリト申上ケタルモ昨日刑務所醫師ノ診斷書ヲ徵シアリ差支ナシ公判開廷スルト云ハレタリ私ノ虛ニ乘シテ公判開廷ヲ爲スモノニシテ不公平ナル裁判ナルコトヲ確實ニ知得シタリ陪審法第三十八條ニハ召喚狀送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日間ノ猶豫期間ヲ存スヘシトアリ然ルニ私カ看守ヨリ召喚ノ通知ノ告知ヲ受ケタルハ同月二十五日ナレハ僅カニ四日間前ニ過キス而カモ公判ナリヤ否ヤ知ラストノコトナリキコレ違法ナリ尤モ公判準備ニアラサルモ以前ニハ一箇月ニ公判期日通知ヲ爲シタルニ比シ餘リニ酷ナリト云フニ在レトモ

記録ヲ査閱スルニ被告人ハ昭和九年五月三十日ノ公判準備期日ニ出頭シテ異議ナク公判準備ノ爲ニスル取調ヲ受ケタルヲ以テ右公判準備期日ト被告人カ其ノ召喚ノ通知ヲ受ケタル時トノ間ニ相當ノ猶豫期間ヲ存セストスルモ上告ノ理由ト爲スニ足ラス又第二回以後ノ公判期日ニ於ケル召喚ニハ猶豫期間ヲ存スル要ナキヲ以テ論旨理由ナシ

四、陪審法ニ該當セサル事件ヲ陪審員ノ評議ニ付シタル違法昭和七年十二月十六日準備公判ニ於テ準

【要旨第一】

強盜被告事件丈ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキコトヲ申請シタルニ因リ之ヲ決定シタルナリ故ニ昭和八年一月九日午後一時本件現場檢證ヲ爲ス召喚狀及通知書又私ノ爲シタル證據調申請ニ對スル決定書モ全部準強盜被告事件丈ニシテ尙又昭和九年二月十七日カ準強盜被告事件ノ公判期日ニシテ同月十八日カ竊盜被告事件ノ公判期日ト確定シ其ノ通知ヲ受ケタルナリ然ルニ昭和九年五月三十日及同月三十一日ノ兩日公判廷ニ於テハ竊盜被告事件ヲ第一番ニ陪審員ノ評議ニ付シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ豫審請求書及豫審終結決定書ニ依レハ原判示第一ノ竊盜行爲第二ノ準強盜行爲ハ一個ノ連續犯ヲ構成スルモノトシテ公訴ヲ提起セラレ且ツ公判ニ付セラレタルモノニシテ連續犯トシテハ其ノ最モ重キ犯罪行爲タル準強盜ニ付定メタル刑ニ從ヒ處斷スヘキモノナルヲ以テ右第一第二ノ公訴事實ハ其ノ所定刑タル五年以上ノ有期懲役ニ該ル一個ノ事件トシテ公判ニ繫屬スルモノト云ハサルヘカラス從ツテ陪審法第三條ニ依リ被告人ヨリ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキ旨ノ請求アリタルトキハ假令被告人ニ於テ特ニ竊盜ノ點ヲ除キ準強盜ノ公訴事實ノミヲ指示シテ其ノ請求ヲ爲シタリトスルモ右竊盜及準強盜ノ公訴事實ヲ含メタル事件全體ヲ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スヘキモノニシテ竊盜ノ公訴事實ニ付テハ通常ノ手續ニ依リテ審理シ準強盜ノ公訴事實ノミヲ陪審ノ評議ニ付シテ審議スルカ如キハ之ヲ許スヘキモノニ非サレハ原審ニ於テ當初陪審手續トシテ竊盜ノ點ヲ除ク準強盜事件ノミニ付公判準備手續ヲ行ヒ陪審公判期日ト竊盜事件公判期日トヲ各別ニ定メタルハ手續不當ナレトモ其ノ後事件

【要旨第二】

第二回以後ノ公判期日ト猶豫期間ト連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條一罪ヲ組成スル事實ニ付テノ間ノ形式

全體ニ付陪審手續ヲ行ヒタルモノニシテ原審ニハ所論ノ如ク陪審法ニ該當セサル事件ヲ陪審ノ評議ニ付シタル違法アルモノト云フヲ得ス論旨理由ナシ

五、變造ノ圖面ヲ公判廷ニ揭示シ以テ裁判長カ陪審員ニ對シテ屢之ヲ說示シタルコト審理ヲ開始シタル時裁判長カ私ニ對シ溝部源吾家及矢黒監爾家ノ位置ヲ策ヲ以テ指示シ大略此ノ圖面通ナラント問ヒ私ハ一寸注視シタルモ家ノ位置ハ大シタ相違ナキ如ク思ヒタリ然ルニ其ノ圖面テ陪審員ニ對シテ屢說明スルヲ聞キ誠ニ驚キ且ツ奇怪ニ思ヒタリ圖面(上告趣意書添付ノ第二號公判廷ニ揭示シ說示ヲ爲シタル變造ノ圖面模寫)要所々々ニハ大略ノ說明ヲ加ヘタル通り矢黒監爾宅前ヨリ西方ノ直線上ヨリ道路ニ通スル路ハ誠ニ狹キ間道ナル上構造モ全ク違ヘリ榮次宅ノ横①ノ所モ相違アリ道路ヲ變造シタル所アリ裁判長カ說示シタル要領ハ圖面ニ明記シタリ熟覽セラレ度シ斯ル變造ノ圖面ヲ巧妙ニ說示シ以テ陪審員ニ對シテ事實ヲ誤認セシメタルハ違反ニシテ陪審法第四百條第一項第六號ニ該當スルト云フニ在レトモ

原審公判調書ニ依レハ原審裁判長ハ公判ニ於テ豫審判事ノ檢證調書附屬見取圖(第一、二圖)ヲ示シテ被告人ヲ訊問シ又同調書附屬見取圖(第一、二、三圖)裁判所ノ檢證調書附屬見取圖(二葉)ヲ展示シテ之カ證據調ヲ爲シタルニ止マリ所論ノ如キ變造ノ圖面ヲ公判廷ニ掲ケテ之ヲ被告人ニ示シ又之ニ基キ陪審員ニ說示シタル事跡ハ毫モ之ヲ認ムルニ由ナキヲ以テ原審公判手續ニハ所論ノ如キ法律上

證據ト爲スコトヲ得サルモノヲ證據トシテ說示シタル違法アルモノト云フヲ得ス論旨理由ナシ

六、公判廷ニ於テノ證據調ノ違反昭和八年十一月九日裁判所ヨリ本件現場ノ檢證ヲ爲シタル際寫眞ヲ五枚撮影シタルナリ然ルニ公判廷ニ於テ陪審員ニ本件犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル證據圖畫トシテ寫眞十枚許交付シタルカ其ノ寫眞ヲ私ニハ一枚モ見セサルハ違反ナリ私ハ五枚撮影シタルコトハ見テ居ルモ其ノ他ハ知ラサルノミナラス五枚ノ分モ如何ニ撮リタルカヲ知ラス其ノ他ノ分ハ尙知ラス辯論ノ爲大ニ不利益ナリキコレ刑事訴訟法第三百四十一條ニ違反ス本件準強盜被告事件ハ其ノ根本ハ無ナルモ今日ノ如ク捏造ノ告訴事件ニ依リ犯罪構成事實ヲ肯定シタルモノナルカ私ノ方ニモ拘束ノ身ニテ不自由ナルモ事實ノ證據物件及證據書類可成アルモ公判廷ニ於テ取調及其ノ證據書類ノ朗讀ヲ申請シテモ裁判長ハ之ヲ爲サスコレ刑事訴訟法第三百四十二條ニ違反ス如何程訴訟記録中ニ據ルヘキ證據書類アルモ之ヲ朗讀セサレハ陪審員ハ本件成立ノ真相ヲ知ラス判斷ヲ誤リタルモノト云フニ在レトモ

裁判所ノ檢證調書及附屬圖面及寫眞竝ニ原審公判調書ニ依レハ檢證ニハ寫眞十五葉(第一號乃至第十五號)ヲ撮影シタルモノニシテ公判ニ於テハ被告人ニ對シテ右寫眞十五葉ヲ展示シテ意見ノ有無ヲ問ヒ適式ニ證據調ヲ爲シタルコト明白ナルヲ以テ陪審ノ評議ニ際シ所論ノ如ク之ヲ陪審ニ交付シタリトスルモ刑事訴訟法第三百四十一條ニ違反スル違法アルモノト認ムルヲ得ス又記録ニ依レハ被告人カ原

第二回以後ノ公判期日ト稱豫期間、連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條、一罪ヲ組成スル事實ニ付テ同ノ形式

審公判ニ於テ特ニ證據物件及證據書類ヲ摘示シテ其ノ取調及朗讀ヲ請求シタルニ拘ラス裁判長故ナク其ノ證據調ヲ爲スコトヲ沮ミタル事跡存スルコトナシ只原審ハ公判期日前公判準備手續ニ於テ被告人ノ請求ニ因リ證據調ノ決定ヲ爲シタル證人藤岡新太郎ヲ訊問シナカラ公判ニ於テ證據トシテ其ノ訊問調書ノ取調ヲ爲ササリシモ陪審手續ニ於テハ證據ハ裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ルヲ原則トシ別段ノ定アル場合ニ於テ例外トシテ一定ノ書類圖畫ヲ以テ證據ト爲スコトヲ得ルニ過キサルカ故ニ別段ノ定アル場合ニ於テ裁判所職權ヲ以テ又ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ其ノ書類圖畫ヲ證據ト爲ス必要アルモノト認メタルトキニ限リ該書類圖畫ニ付證據調ヲ爲スヘキモノナルモ證據ト爲スニ足ラスト認メタルモノハ假令刑事訴訟法第三百四十二條所掲ノ書類圖畫ト雖之カ取調ヲ爲スノ要ナキモノトス蓋シ陪審手續ニ於テハ刑事訴訟法第三百四十二條ノ規定ハ絃上ノ範圍ニ於テ其ノ適用ヲ排除セラルルモノト解スルヲ相當トスルカ故ナリサレハ公判期日前公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書ト雖不必要ト認ムルモノハ之ヲ原審ノ陪審公廷ニ於テ取調ヲ爲ササレハトテ刑事訴訟法第三百四十二條ニ背反スル違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ

辯護人篠崎仙司 山口勘吾上告趣意書第三點原審ノ陪審ニ對スル問ノ主旨ハ事實ヲ紛更シ曲匿ノ答申ニ陥ル虞アル不當ノ問ナリ(一) 被告人ハ公訴第一事實ニ付領得意思ヲ否認シ其ノ他ヲ認ムルコト記録ニヨリ明ナリ裁判長ノ問第一ノ趣旨ハ(イ) 領得意思ノ有無(ロ) 盜取行爲ノ有無ノ兩者ヲ包含シ

【要旨第三】

タルモノニシテ(イ)ノミヲ問フノ趣旨ニアラス而シテ之ニ對スル答者ノ見ハ(イ)ノミヲ然リト答フヘキヤ(イ)ヲ前提トシテ(ロ)ヲ然リト答フヘキヤ又ハ只單ニ(ロ)ノミヲ然リト答フヘキヤ種々ニ當惑スルヲ常トス然レトモ如何セン答申ノ法則ハ法律ニ限定セラレ「然リ」又ハ「然ラス」ノ一途アルノミニシテ「一部然リ一部然ラス」ト答フルヲ許サス然ラハ事案ノ場合ノ二個ノ疑問ヲ包含スル問ノ全部ニ對シ只「然リ」ト答ヘサルヘカラサルニ歸ス何トナレハ被告ノ盜取行爲ハ自認スル所ナレハ之ヲシモ「然ラス」ト答フヘカラス又「一部然ラス」トモ答フヘカラス從テ止ムヲ得ス全部ニ對シ「然リ」ト曲答セサルヘカラサルヲ以テナリ即チ本問第一ハ事實ヲ強制スル不當ノ問ナリ(ニ) 原審裁判長ノ陪審ニ對スル問ノ第二ハ(イ) 被告ニ盜行爲アリタリヤ(ろ) 逮捕ヲ免ルル爲ノ脅迫又ハ暴行アリタリヤノ兩疑問ヲ包含ス而シテ被告人ノ陳述ハ暫ラク措キ各證人ノ證言ヲ採ルトスルモ被告人カ盜行爲ヲ爲シタリト見ルヘキ確證ナシ只脅迫ニ似タル言ヲ用ヒ暴行ニ似タル行爲アリタルヤハ多少疑問ヲ加フヘキ餘地アリ而モ右脅迫暴行類似行爲ハ必スシモ盜行爲ヲ必然的前提トスルモノト見サルヘカラサルニアラス却テ深夜醉餘途ニ迷ヒタル折盜賊ト誤認サレテ鶴治ヨリ泥棒ト呼ハレ鶴治源吾 朴九等ニ暴行セラレ之ヲ免ルル爲ノ苦叫反抗トモ見得ヘカラサルニアラス若シ夫レ源吾ノ財布ノ如キハ被告人カ竊取シタルモノトスル確的ナル證據何處ニモ見當ラサルモノナリ然ラハ即チ公訴第一二事實ニ付テハ(イ) 盜行爲アリタリヤ(ロ) 脅迫又ハ暴行行爲アリタリヤ(ハ) 脅迫暴行行爲ハ

第二回以後ノ公判期日ト猶豫期間 連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審ノ手續 陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條 一罪ヲ組成スル事實ニ付テテノ形式

逮捕ヲ免ルル爲ナリシヤ(ニ)逮捕ヲ免ルル爲トハ盜行爲アリタルニ因ルモノナリシヤノ四點ノ疑問アリ之ニ付テノ裁判長ノ問モ亦右四點ヲ區別シ各々明確ニ答ヘ得ヘキモノタラサルヘカラス然ルニ原審裁判長ノ問第二ハ(甲)被告人ハ昭和七年四月二十日午前二時頃縣下速見郡龜川町大字内竈溝部鶴治方臺所竈筒小抽斗ヨリ同人弟源吾所有ノ現金二十五錢入墓口一箇ヲ竊取シテ同家裏戸口ニ出テントスル際鶴治及源吾ニ發見セラレ逮捕セラレントシタルニヨリ之ヲ免レンカ爲ニ同人等ニ「騒ケハ斬ル」旨申向ケ同人等カ恐レテ怯ム隙ニ組付キ居タル源吾ヲ突放シタルヤ(乙)被告人ハ昭和七年四月二十日午前二時頃縣下速見郡龜川町大字内竈溝部鶴治方臺所竈筒小抽斗ヨリ同人弟源吾所有ノ現金二十五錢入墓口一個ヲ竊取シテ同家裏戸口ヨリ逃ケ出ス途中源吾等ノ求援ニヨリ金朴九カ被告人ヲ追跡シ來リシヨリ其ノ逮捕ヲ免レンカ爲ニ金朴九ニ投石シ尙石ニテ其ノ腰部ヲ打等爲シタルヤトアリテ何レモ前記四個ノ疑問ヲ混更紛雜シタルモノニシテ答者ハ正確ニ答ヘントスルモ法律ヲ以テ答法ヲ制限セラレアル以上止ムヲ得ス包括的ニ然リ又ハ然ラスト答ヘサルヘカラス從テ陪審員ハ各證言中脅迫暴行類似行爲アリタルヤヲ疑フニ足ルモノアリシヲ採リ盜行爲ニ付確的證言ナキニ拘ラス裁判長ノ問ニ對シ包括的ニ「然リ」ト答フル外無カリシモノナラン故ニ原審陪審ニ對スル裁判長ノ問ハ事實ヲ曲答セシムル不當ノモノナリト云フニ在レトモ

裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘキモノニシテ一個

【要旨第四】

ノ犯罪事實カ數個ノ事實ニ依リテ構成セラレ且其ノ事實ノ存否カ夫々問題ト爲ルヘキ場合ニ於テモ之ヲ一括シテ不可分のナル一個ノ問ヲ發スヘク各個ノ事實ヲ分別シテ該事實ノ有無ヲ一々評議答申セシムヘキモノニ非ス此ノ事タル陪審法第七十九條第八十九條ニ於テ主問ト補問トヲ區別シ主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲シ補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトシテ主問ト補問トノ順序ヲ定メ又犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘキモノトシテ本問ト別問トヲ區別シタル律意ニ徴シ洵ニ明白ナリトスサレハ原審裁判長カ主問トシテ第一、第二イ及ロノ三問ヲ以テ夫々所論ノ如ク數個ノ問題ト爲ルヘキ事實ヲ包括シタル一個ノ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒタルハ相當ニシテ一個ノ問ニ於ケル犯罪構成事實全體ノ存在ヲ肯定スルトキニハ然リノ語ヲ以テ答申スヘキモノ一部ニテモ否定スルトキハ然ラストノ語ヲ以テ答申スヘキモノナルコト洵ニ略易キ道理ナルヲ以テ所論ノ如ク其ノ問ノ主旨カ事實ヲ紛更シ曲匿ノ答申ニ陥ル虞アル不當ノモノナリト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松坂廣政關與

第二回以後ノ公判期日ト猶豫期間、連續犯ノ一部ニ對スル陪審ノ請求ト陪審手續、陪審手續ニ於ケル證據調ト刑事訴訟法第三百四十二條、一罪ヲ組成スル事實ニ付テノ問ノ形式

○治安維持法違反被告事件

(昭和九年(己)第九九八號 棄却)
同年十月八日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 田田知治 辯護人 (赤山貞幸 夫)

【第一審】 山口地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

裁判所構成法第一百五條ト傳來的日本語

○判決要旨

裁判所構成法ノ要求スル日本語トハ必スシモ純粹固有ノ日本語ニ
限ルノ意味ニアラサルヲ以テ傳來的日本語ヲ使用スルモ敢テ不當
ニアラス

【參照】 裁判所構成法第十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ
當事者證人又ハ鑑定人ノ日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通
事ヲ用ケルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三年ニ處ス但シ原審未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
日本共產黨ハ國際共產黨ノ日本支部ニシテ革命的手段ニ因リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ「プロレタリアート」ノ獨裁ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル秘密結社ニシテ日本共產主義同盟ハ國際共產主義青年同盟ノ日本支部ニシテ青年獨自ノ立場ニ於テ革命的手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ「プロレタリアート」ノ獨裁ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル秘密結社ナルカ被告人ハ裕福ナル家庭ニ生レ昭和二年三月山口縣立柳井中學校ヲ卒業シテ直ニ早稻田第一高等學院理科ニ入學シ昭和七年三月第三學年在學中同學院ヲ中途退學シ昭和四年頃ヨリ社會科學ニ興味ヲ覺エ其ノ研究ニ志シ昭和五年四月頃學友ト共ニ同學院内ニ戰旗讀書會ヲ組織シ或ハモツブル班ノ活動ヲ策スル等實踐運動ニ進出スルニ從ヒ漸次共產主義思想ニ共鳴スルニ至リ同年十月頃友人秋元愛助ト共ニ郷里柳井町地方ニ於ケル將來左翼運動ノ地盤ヲ確立

センカ爲先ツ戰旗支部ヲ設立センコトヲ企畫シ秋元愛助 高田美次外數名ヲシテ左翼文藝同人雜誌「明色」ヲ發行セシメ次テ昭和六年一月休暇歸省中同様同支部ヲ設立センコトヲ策シツツアリシ平井丈夫等ト共ニ戰旗柳井支部ヲ設立シ自ラ其ノ配付係ヲ擔當シ一般左翼意識ノ向上ニ努メ同年五、六月頃東京ノ戰旗本社ニ入社シテ其ノ組織部員ト爲リタルカ其ノ間ニ於テ各種ノ左翼文獻ヲ涉獵繙讀スルニ及ヒ日本共產黨及日本共產青年同盟カ夫々冒頭記載ノ如キ目的ヲ有スル結社ニシテ赤旗第二無產者新聞及レニン青年無產青年カ夫々黨及同盟ノ主義政策ヲ宣傳煽動スル機關紙ナルコトヲ知りナカラ其ノ目的綱領ニ共鳴シ之ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ランコトヲ決意シ

(一) 昭和六年十月頃東京市芝區琴平町某材木店ニ於テ日本共產青年同盟ノ東京地方第三地區オルグ 高橋弘之ヨリ同盟加入方勸誘ヲ受クルヤ之ヲ承諾シテ同盟ニ加入シ右地區委員會ノアデプロ部員トナリ同年十一月初旬頃北部地區委員會アデプロ部員ニ轉シ同年十二月頃迄ノ間東京市内ニ於テ數回ニアデプロ部會ニ出席シテ各種カンパニアニ關スルビラ傳單ノ作成撒布及同盟細胞ノ教育活動等ニ付協議決定ヲ遂ケ同年十一月ノロシヤ革命記念日カンパニ際シテハ所屬委員會署名ノ數種ノビラ傳單數千枚ヲ作成シ行動隊ヲシテ右ビラヲ撒布セシメタル外各種文獻資料ノ蒐集工場調査ヲ爲ス等諸般ノ活動ニ從事シ

(二) 同年九月頃ヨリ十二月頃迄ノ間東京市ヨリ山口縣柳井町秋元愛助 高田美次等ニ對シ「無產青

年「第二無産者新聞」其ノ他ノ左翼出版物數部ヲ數回郵送シテ其ノ閱讀ニ供シ

(三) 同年十二月初旬柳井町ニ歸省スルヤ右秋元 高田等ヲ指導シテ同地方ニ「無産青年」ノ讀者網ヲ確立センコトヲ協議シ翌昭和七年一月中旬頃周東無産青年友ノ會準備會名義ニテ「周東地方ノ一般勤勞青年學生諸君ニ檄ス」ト題シ無産青年讀者網タル友ノ會ノ目的任務ヲ説明セル檄文二、三十枚ヲ二回作成シテ舊戰旗支局ノメンバー等ニ配付シ其ノ頃同志ヲ糾合シテ周東無産青年友ノ會ヲ結成シ秋元愛助ヲ其ノ責任者ト爲シ次テ同會ニ同盟細胞ヲ確立スル爲同年二月初旬頃先ツ秋元愛助ヲ同盟員トシテ上部ニ推薦シテ同盟ニ加入セシメ一方友ノ會結成ト同時ニ文化サークルヲ通シテ黨及同盟ノ影響ヲ大衆ニ浸透セシムル目的ヲ以テ平井丈夫 高田美次 山本光代等ヲシテ周東文化協會ヲ組織セシメ高田ヲ同協會内ニ於ケル友ノ會ノフラクシヨントシテ活動セシメ尙當時東京ヨリ持歸リ居リタル「無産青年」「第二次無産者新聞」「レーニン青年」其ノ他ノ左翼印刷物ヲ右秋元 高田其ノ他ノ者ニ配布シテ其ノ閱讀ニ供シ

(四) 昭和七年二月十日頃東京市本郷區本郷座附近ニ於テ日本共產黨東京市委員會北部地區オルグ中野某ヨリ同地區委員會アチプロ部プリンターノ手傳ヲ命セラレテ之ヲ承諾シ其ノ頃ヨリ同月十七、八日頃迄ノ間連日同人及同アチプロ部部員奥田某ト連絡シテ同委員會署名ノ選舉闘争ニ關スル十數種ノビラ傳單數百部宛作成シ之ヲ行動隊員ニ交付シテ撒布セシメ

以テ日本共產主義青年同盟ニ加入シ同同盟並日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中國體變革ヲ目的トスル結社ニ加入シ且其ノ目的遂行行爲ヲ爲シタル點ハ治安維持法第一條第一項後段ニ私有財産制度否認ヲ目的トスル結社ニ加入シ且其ノ目的遂行行爲ヲ爲シタル點ハ同法第一條第二項ニ各該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ前者ノ刑ニ從ヒ尙有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期限内ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處スヘク但シ同法第二十一條ニ則リ原審未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人赤井幸夫上告趣意書第三點原判決ハ其ノ事實理由中「日本共產黨ハ(中略)プロレタリアイトノ獨裁ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル秘密結社ニシテ云々被告人ハ云々昭和六年十一月初頃同北部地區委員會アチプロ部員ニ轉シ云々昭和七年一月中旬頃周東無産青年友

ノ會準備會名義ニシテ周東地方一般勤勞青年學生諸君ニ檄スト題シ無產青年讀者網タル友ノ會ノ目的任務ヲ説明セル檄文ニ、三十枚ヲ作成シテ舊戰旗支局ノメンバー等ニ配付シ云々一方友ノ會結成ト同時ニ文化サークルヲ通シテ黨及同盟ノ影響ヲ大衆ニ浸透セシムル目的ヲ以テ平井丈夫 高田美次 山本光代等ヲシテ周東文化協會ヲ組織セシメ高田ヲ同協會内ニ於ケル友ノ會ノフラクシヨントシテ活動セシメ云々昭和七年二月十日頃日本共產黨東京市委員會北部地區オルグ中野某ヨリ同地委員會アデプロ部プリンターノ手傳ヲ命セラレ云々ト判示シタリ然レトモ右判示ノ用語中「プロレタリアート」「アデプロ」「メンバー」「サークル」「フラクシヨン」「オルグ」「プリンター」等ハ孰レモ日本語ニアラス殊ニ「プロレタリアート」「メンバー」「サークル」「フラクシヨン」「プリンター」ノ如キハ原判決ニ於テ表示セントスル趣旨ヲ何等ノ疑義ナク日本語ヲ以テ言ヒ表ハシ得ヘキ場合ナルコトハ判文上極メテ明ニシテ故ラニ斯ル外國語ヲ用ユルノ要ナキモノナリ而シテ裁判所構成法ノ規定ニ依レハ「裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ」ヘキモノニシテ唯「外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及ヒ其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得」ヘキモ斯ル場合ニ於テモ「其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル」ヘキモノナリ果シテ然ラハ原判決ハ裁判所構成法ノ規定ニ違反セルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニアレトモ

言語ハ時代ニ伴フテ變遷スルモノニシテ生活感情ノ複雑トナルニ從ヒ從來ノ用語ニテハ充分端の之ヲ表明シ得サルコトアリテ幾多ノ新語造語ノ續出スルハ免レ難キ現象ナリトス所論援用ノ原判決ノ用語ハ純粹固有ノ日本語ニアラスト雖現代人ノ感覺ニ於テハ之等ノ用語ニ適當スル正確ナル漢字若クハ國語ナシトシ是等ノ用語ソノモノハ直ニ以テ生活感情ヲ表明スルニ足ルトナスノ傾向アリ若シ數年前ニ於テ是等ノ語ヲ用ヒンカ日本語ニアラストノ批難ヲ甘受セサルヲ得サルヘキモ今ヤ慣熟セラレテ殆ント普通ノ新日本語トシテ常用セラルト云フモ不可ナキノ状態ニアリ本件記録ヲ按スルニ是等ノ用語ハ隨所ニ散見シ問者答者共ニ何等ノ註釋ヲ用フルコトナクシテ應酬シ本件ノ全貌紙上ニ躍如タルモノアリ是レ案件ノ本質上正ニ然ルヘキ所ナリト雖亦以テ是等ノ語カ日本語化シタル傍證トナスニ足ルヘシ惟フニ將來用語ノ進展ト共ニ或ハ極メテ正確ナル熟語ノ現出スル時機ハ到來スルコトアルヘシト雖過渡期トシテノ現代ニ於テハ是等ノ用語ヲ以テ日本語トシテ使用スルコト蓋シ已ムヲ得サルヘシ裁判所構成法ノ要求スル日本語トハ必スシモ純粹固有ノ日本語ニ限ルノ意味ニアラサルヲ以テ是等ノ傳來的新日本語ヲ使用シタル原判決ハ敢テ不當ナリト謂フヘキニアラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○竊盜詐欺橫領被告事件 (昭和九年(九)第九一三號 棄却)

(昭和九年十月十日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 上林 傳七 辯護人 (若林駒之助 大塚春富)

【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○判示事項

辯論終結後ノ證據調ノ請求

○判決要旨

辯論終結後ノ證據調ノ請求ニ對シテハ裁判ヲ爲スノ要ナシ

【参照】 刑事訴訟法第三百三十八條第三項 被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

○事實

第二審公判調書ニ依レハ昭和九年五月三十一日辯論ヲ終結シ同年六月十四日判決ノ宣告アリタルモノニシテ記録中同年六月十四日受付印ノ押捺セラレタル辯論再開ノ申請ナル書面存在シ同書ニ井上治兵衛其ノ他數名ノ證人鑑定人ノ訊問ヲ請求スル旨記載シアリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人若林駒之助上告趣意書第四點原審ハ證據調ノ請求ニ對シ却下ノ決定ヲナサスシテ直チニ判決シタル違法アリ原審辯護人ハ昭和九年六月十四日附公判再開ノ申請ナル書面ヲ提出シテ證人井上治兵衛眞繼治三郎 小泉加津ノ證據調ヲ請求シタルニ原審ハ此請求ニ對シ何等ノ決定ヲモナサス直チニ判決ヲ言渡シタルハ刑事訴訟法第三百四十四條ニ違背セルモノナリト云フニ在レトモ

辯論ヲ再開スルト否トハ裁判所ノ自由ナル意見ニ基キ決定スヘキモノニシテ法律ハ訴訟關係人ニ之カ請求ヲ權利トシテ認メサルカ故ニ裁判所ハ其ノ請求ニ付何等決定ヲ與ヘサルモ敢テ不法ニ非ス又公判ニ於ケル審理手續ハ刑事訴訟法第三百四十五條第三百四十九條ノ順序ニ從ヒ辯論ヲ終結スルヲ通例トナスカ故ニ證據調ノ請求ハ公判廷ノ内外ヲ問ハストスルモ必スヤ適當ノ時期ニ於テ之ヲ爲スヲ要シ辯

辯論終結後ノ證據調ノ請求

論終結後ニ於テ請求アルモ裁判所ハ之ニ其キ證據調ヲ爲スニ由ナシ然レハ斯ル請求ハ訴訟上何等ノ效
 果ヲ齎スコトナキヲ以テ之ニ對シ裁判所ハ其ノ許否ヲ決定スルノ要ナキモノト謂ハサルヘカラス記録
 ヲ檢スルニ原審ニ於テハ昭和九年五月三十一日辯論ヲ終結シ所論申請書ハ同年六月十四日原裁判所ニ
 提出セラレタルモノナルコト明ナレハ原審カ該申請ニ付何等決定ヲ爲ササリシハ叙上ノ理由ニ依リ毫
 モ違法ニ非ス從テ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事棚町丈四郎關與

○贓物故買被告事件

(昭和九年(レ)第一〇二〇號 棄却)
 同年十月十一日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 中島福太郎 辯護人 太田金次郎
 【第一審】 東京區裁判所【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

贓物故買罪ノ判示方

○判決要旨

當該物件カ贓物ニシテ且被告人カ贓物タルノ情ヲ知レルコトヲ判
 示シタル以上ハ本犯ノ時場所等ヲ判示セサルモ贓物故買罪ノ判示
 トシテ理由不備ト爲スニ足ラス

【參照】 刑法第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 贓物ノ運搬、寄藏、故賣又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金
 ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ徵役十月及罰金五百圓ニ處ス被告人ニ於
 テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ百日間勞役場ニ留置ス押收ニ係ル昭和八年押第一〇二八號ノ
 一六八ハ被害者ニ還付ス當審ニ於ケル訴訟費用(證人守清一ニ對シテ支給シタル分)ハ之ヲ三分シ其
 ノ一ヲ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人中島福太郎ハ昭和六年十二月上旬頃ヨリ昭和七年五月七日頃迄ノ間數十回ニ互リ東京市淺草區

茅町一丁目四番地ナル當時ノ被告人居宅等ニ於テ朝鮮人通稱大野事某 山本事某 小林事某 西口事某 木村事某等ヨリ同人等若クハ其ノ一味鮮人等カ他ヨリ竊取シ來リタル金側懷中時計金鎖其ノ他ノ貴金屬類合計約五百數十點ヲ其ノ贓物タルノ情ヲ知リ乍ラ代金合計約一萬三千二百十餘圓ニテ買受ケ(昭和八年押第一〇二八號ノ一六八ハ右大野事某ヨリ買受ケタル贓品ノ一ナリ)以テ贓品ノ故買ヲ爲シタルモノニシテ被告人ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十六條第二項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期及金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月及罰金五百圓ニ處シ被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ被告人ヲ百日間勞役場ニ留置スヘク押收ニ係ル昭和八年押第一〇二八號ノ一六八ハ被告人ノ判示行爲ニ因リ得タル贓物ニシテ被害者松角勇ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條ニ則リ之ヲ被害者ニ還付スヘク當審ニ於ケル訴訟費用(證人守清一ニ對シテ支給シタルモノ)ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ之ヲ三分シ被告人ヲシテ其ノ一ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人太田金次郎上告趣意書第三原判決ニハ理由不備ノ違法アリ原判決ニ依レハ「被告ハ朝鮮人通稱大野事某 山本事某 小林事某 西口事某 木村事某等ヨリ同人等若クハ其ノ一味朝鮮人等カ他ヨリ竊取シ來リタル金側懷中時計金鎖其ノ他ノ貴金屬類合計約五百數十點ヲ其ノ贓品タルノ情ヲ知リ乍ラ云々」ト判示シ被告カ贓品タルノ認識アリタリト爲シ是レカ證據トシテ「通稱大野 山本 小林 西口 木村ノ五人ノ朝鮮人ヨリ金鎖附時計約五百八十七點ヲ價格合計一萬三千二百十四圓ニテ買受ケタコトハ相違ナシ而シテ右ノ品ハ大野 山本 小林ノ三名ハ同人等ノ知合ナル朝鮮人ノ拘摸犯人ヨリ買受ケテ來タモノト申シテ自分ニ賣リタルモノナルカ西口 木村ノ兩名ハ各自分テ拘摸取ツテ來タ品ナルノ情ヲ明カニシテ自分ニ賣リタルナリ」トノ供述ヲ以テセリ由是觀之被告人カ贓品ナリトノ認識ヲ有スルニ至レルハ全ク前記五名ヨリノ言葉ニヨルモノニシテ今假ニ被告カ彼等ノ言ヲ信シタリトセンモ被害者ノ何人ナルカ犯罪ノ時場所等竊盜行爲ノ具體的事實ノ認識ヲ有スルニ至ラザリシハ明ナリ凡ソ贓物故買罪ハ我刑法上ハ獨立罪トナセトモ所謂事後從犯ノ一場合タルヲ失ハス而シテ本罪ハ其ノ主要ナル關係ヨリ觀察スレハ財產侵害者ノ爲ニ其ノ領得財產ニ對スル利益ヲ確保シテ被害者ノ利益ヲ一層不安固ナラシメ次テ間接ニ財產權ヲ侵害スルモノニシテ財產ニ對スル罪ノ一種ナルコト疑ナシ果シテ然ラハ贓物故買罪ニ於テ被害者ノ知レサル場合ハ被害者ノ返還請求權ヲ保護セントスル本罪ノ趣旨ハ沒却セラハルヘク即チ斯ル場合贓物故買罪ノ適用ヲ見ルノ要ナシト云ハサルヘカラス又認識ノ點ヨリスルモ故買

者ニ於テ被害者其ノ他犯罪ノ具體的事實ノ認識ヲ要シ唯單ニ贓物ナリトノ認識ヲ以テ足レリト云フヘカラス今假ニ百歩ヲ讓リ被告ニ於テ贓物ニ關スル認識ヲ有シ且該認識ヲ以テ足り被害者其ノ他具體的犯罪事實ノ認識ヲ要セスト爲スモ故買品カ客觀的ニ贓品ナル事ハ故買罪ノ絶體的要件ニシテ判決ニ之ヲ明示セサルヘカラス贓品ナリトノ被告ノ主觀的認識ハ客觀的贓物ヲ作出セサルハ言ヲ俟タス今此ノ點ニ付原判決ヲ檢スルニ判示事實ニ依リテハ未タ犯人犯罪ノ時、場所、被害者等何等竊盜罪ノ具體的表示ヲ爲シタリト云フヘカラス換言スレハ原判決ハ被告ハ贓品ナリトノ認識ヲ以テ之ヲ故買シタリト云フノミニテ果シテ客觀的ニ贓物ナリヤ否ヤニ付判示セス即チ贓物故買罪ニ於ケル主要ナル一要件ニ付判斷ヲ示ササルモノニシテ理由不備若ハ審理不盡ノ違法アリト云フヘク破毀ヲ免レサルモノト信ス以上ノ理由ニヨリ上告ヲ提起シタルモノナリ御明鑑ヲ賜リ度ク茲ニ上告趣意書提出仕候ト云フニ在レトモ

【要旨】

贓物故買罪ハ贓物タルノ事實ヲ認識シテ之ヲ故買スルニ因リテ成立スルモノニシテ該贓物カ何人ノ被害ニ係ルモノナリヤ又本犯ノ時、場所等ノ如キ詳細ナル事實ハ逐一之ヲ了知セサルモ同罪ノ成立ヲ妨クルモノニアラス原判示ニ依レハ被告人ハ朝鮮人通稱大野事某 山本事某 小林事某 西口事某 木村事某等ヨリ同人等若クハ其ノ一味鮮人等カ他ヨリ竊取シ來リタル金側懷中時計金鎖其ノ他貴金屬類合計約五百數十點ヲ其ノ贓物タル情ヲ知リナカラ代金合計約一萬三千二百十餘圓ニテ買受ケ以テ贓物ノ故

買ヲ爲シタリト云フニ在リテ被告人カ被害者ノ何人ナリヤ又本犯ノ時、場所等ヲ了知シタルコトハ之ヲ判示セサルモ右物件カ贓物ニシテ且被告人ハ贓物タルノ情ヲ知レルコトヲ判示シタルモノナレハ原判決及原審ニハ所論ノ如ク理由不備若クハ審理不盡ノ違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス) 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス 檢事松坂廣政關與

○醫師法違反被告事件 (昭和九年(レ)第九四五號 棄却)

(同年十月十三日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 平島金五郎 辯護人 青柳 孝

【第一審】 甲府區裁判所 【第二審】 甲府地方裁判所

○判示事項

賣藥ト無免許醫業

賣藥ト無免許醫業

○判決要旨

免許ヲ受ケスシテ藥物ヲ用キテ疾病治療ノ行爲ヲ反覆繼續スルニ於テハ其ノ藥力賣藥ナルト又其ノ賣藥力自己ノ免許ヲ受ケタルモノナルト否トニ拘ラス無免許醫業ヲ爲シタルモノトス

【参照】醫師法第十一條 免許ヲ受ケズシテ醫業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者醫師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモノナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ醫師ノ免許ナキニ拘ラス昭和八年十一月一日ヨリ同年十二月末ニ至ル迄ノ間當時ノ住居タル山梨縣西山梨郡里垣村布田ノ自宅ニ於テ甲府市境町三十二番地吉田力作外二名ノ眼疾患者ニ對シ數十回ニ亙リ自己發賣ニ係ル目藥ノ點眼及食鹽水ニ依ル眼ノ洗滌等ノ治療行爲ヲ爲シ以テ醫業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ昭和八年法律第四十五號ヲ以テ改正ノ醫師法第十一條ニ該當スルヲ

以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人青柳孝上告趣意書第一點原審ハ罪トナラサル事實ニ對シ科刑ヲ爲シタル違法アリ原判決ニ依レハ「里垣村布田ノ自宅ニ於テ甲府市境町三十二番地吉田力作外二名ノ眼疾患者ニ對シ數十回ニ亙リ自己發賣ニ係ル目藥ノ點眼及食鹽水ニヨル眼ノ洗滌等ノ治療行爲ヲ爲シ以テ醫業ヲ爲シタルモノナリ」ト判示シ醫師法違反トシテ被告人ヲ罰金百圓ニ處シタリ然レトモ被告人ハ自己發賣ニ係ル目藥戰勝水ノ販賣免許ヲ受ケ居ルコトハ明瞭ナルモノナリ凡ソ物ノ發賣ヲ許可セラレタルモノハ其ノ用法ヲモ併セテ許容セラレ居ルコトハ自然ノ理ト謂フヘク即チ其ノ物ノ通常ノ用法ニ依ル使用ヲ包含スルコトハ當然ナレハナリ抑モ醫業トハ醫師ノ修習シタル學術ト經驗トニヨリ疾病ニ對シ自由ニ裁量シ處置スヘキ高尚ナル業務ニシテ單純ナル器械的行爲ヲ指稱スルニアラサルコトハ論ヲ俟タサル處ナリ然ラハ醫業ノ分類タル診察、手術、投藥、治療等ノ行爲ハ孰レモ醫師ノ特殊技能ニ屬スルモノナルコトモ亦明瞭

ナリ然リ而シテ本件ノ點眼及食鹽水ニヨル眼ノ洗滌カ果シテ高尚ニシテ深遠ナル醫師ノ特殊技能ニ屬スルモノトハ吾人ノ實驗上之ヲ首肯スル能ハス今之ヲ詳ニ檢スレハ點眼トハ目藥ヲ眼疾ノ個所ニ點々注入スルコトニシテ敢テ特別ノ技能ヲ要スルモノニアラス若シ敢テ之ヲ特別技能ニヨル行爲ト稱スルハ牽強附會ノ言ト謂ハサルヘカラス眼藥ヲ疾部ニ注入スルコトハ自然ノ使用方法ニシテ特ニ醫師ニアラスト雖通常人ニ於テ容易ニ之ヲ爲シ得ヘク又之ヲ爲ササレハ眼藥ノ使用ハ其ノ目的ヲ達スル能ハサルモノナリ又眼藥ヲ眼疾部ニ注入スルニ當リ眼ノ洗滌ヲ爲スコトモ亦必要ニシテ食鹽水カ藥品ニアラサルコトモ明カナレハ是又醫業ノ範圍ニ屬セサルモノニシテ寧ロ目藥ノ使用方法中ニ包含セラレ居ルモノト認ムルコトニヨリテ一層免許ノ趣旨ヲ全ウスルヲ得ヘシ御院ニ於テハ嘗テ紅療法ヲ爲スコトハ醫療ノ行爲ニ該當セストシテ無罪ノ御判決アリタル所以ノモノハ此ノ種輕微ナル行爲ハ之ニ因リテ何等疾患部ニ對シ影響ヲ及ホササルカタメナリ然ラハ之ヲ本件ニ就テ按スルモ同様ニシテ目藥ヲ眼疾部ニ點眼注入シ又ハ食鹽水ヲ以テ眼ノ洗滌ヲ爲スカ如キハ毫モ眼疾ニ對シ支障ヲ來スモノニアラス單ニ目藥ヲ其ノ定メラレタル用法ニ於テ器械的ニ使用スル行爲ハ醫業ト稱スヘキニアラサルコトハ論ナシ然ラハ原審ハ罪トナラサル事實ニ對シ刑ヲ科シタル違法アルモノナリト云ヒ『第二點原審ハ重要ナル證據ノ取調ヲ爲ササル違法アリ被告人ハ眼藥戰勝水ノ免許ヲ出願スルニ際シ其ノ使用方法ヲモ併セテ免許セラレ免許證ニハ其ノ事項カ記載セラレ居リト辯疏シ原審辯護人ハ右免許ニ關スル書類ヲ山梨縣

衛生課ヨリ取寄アラントヲ申請セリ其ノ趣旨トスル處ハ目藥發賣免許ノ中ニハ其ノ通常ノ用法ヲモ包含スルモノナルコトヲ條理ノミナラス事實上ニ於テモ明確ニスヘキモノナルコト寔ニ明ナリ右ハ本件事實ニ最モ重要ナル證據ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ右事實ヲ輕視シ點眼及食鹽水ニヨル洗滌カ目藥發賣免許以外ノ醫療行爲ナリト斷シ其ノ證據調ヲ爲ササルハ刑事訴訟法第四百十條第十三ニ該當シ被告人ニ對シ免許シアル目藥戰勝水ノ發賣許可カ如何ナル範圍ニ迄及ヒ居ルヤヲ究メスシテ濫リニ事實ヲ確定シタル違法アリト稱セサルヘカラスト云フニ在レトモ

【要旨】

凡ソ醫業トハ反覆繼續ノ意思ヲ以テ醫行爲ニ從事スルヲ謂ヒ其ノ醫行爲ト謂フハ疾病治療ノ目的ヲ以テ診察投藥等ノ行爲ヲ爲スコトニ在リテ必シモ所論ノ如ク特殊ノ技能ニ屬スルモノナルコトヲ必要トセス然レハ苟クモ免許ヲ受ケスシテ敍上ノ目的ヲ以テ投藥行爲ヲ反覆繼續スルニ於テハ無免許醫業ヲ爲シタルモノト謂フヘク其ノ藥カ賣藥ナルト否ト又其ノ賣藥カ自己ノ免許ヲ受ケタルモノナルト否トハ毫モ右犯罪ノ成立ニ消長ヲ來スモノニ非ス原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人ハ醫師ノ免許ナキニ拘ラス昭和八年十一月一日ヨリ同年十二月末ニ至ル迄ノ間當時ノ住居タル山梨縣西山梨郡里垣村布田ノ自宅ニ於テ甲府市境町三十二番地吉田力作外二名ノ眼疾患者ニ對シ數十回ニ互リ自己發賣ニ係ル目藥ノ點眼及食鹽水ニ依ル眼ノ洗滌等ノ治療行爲ヲ爲シタリト謂フニ在ルヲ以テ醫師法第十一條ニ該當スルヤ疑ナキ所ニシテ賣藥ノ免許ヲ受ケタル以上使用方法ヲモ併セ免許セラレタルモノナリト云フニ至

リテハ一個ノ詭辯ニシテ採用ノ限ニ在ラス且又原判決ニハ法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ヲ取調ヘサリシ違法存在セス論旨ハ孰レモ理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事柴碩文關與

○賣藥法違反被告事件 (昭和九年(九)第一〇三一號 棄却)
同年十月十五日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 岡本幾太郎 辯護人 西本輪一 三浦八郎 一
【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

賣藥ノ範圍

○判決要旨

賣藥法第二條ニ所謂賣藥ハ藥品ノ化合物藥品ト藥品以外ノモノトノ混合物ニ限ラス又其ノ原料品ハ日本藥局方ニ記載スルモノニ限ラサルモノトス

【參照】 賣藥法第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者ヲ謂フ
原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ調製ト看做ス
同法第二條 賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名、原料品名及其ノ分量、調製ノ方法、用法、用量並効能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ其ノ見本品ヲ提出スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ五十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ賣藥營業者ナルトコロ肺結核、肋膜炎治療ノ效能アリトシ一般公衆ノ需要ニ應スルカ爲大阪市西區梅本町六十一番地ニ於テ岡本直子名義ヲ用ヒ右治病ニ效驗アル藥物類ノ贍ヲ真正類ノ贍ト表示

シ其ノ分量及之カ服用日數ヲ印刷記載シタル紙製袋ニ入レ之ニ其ノ一回分服用量見本一包在中ノ小袋
竝前記效能及右癩ノ膽ハ之ヲ粉末トシ一回分目方ヲ一日三回食間ニ水又微温湯ニテ服用スヘキ旨ノ用
法用量ヲ印刷記載シタル肺結核、肋膜炎天惠合理療法又ハ全快ノ案ト題スル書面ヲ添附シ該賣藥發賣
ノ免許ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス昭和五年頃ヨリ昭和八年十一月末頃迄ノ間宮崎縣油津町見生かめ子外
約二百名ニ對シ之ヲ販賣シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ賣藥法第二條第一項第十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額範圍
内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處スヘク刑法第十八條ニ依リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告
人ヲ五十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人三輪壽壯 敦澤八郎 上告趣意書第一點ハ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ原判決ハ其ノ事實理由ニ
於テ「被告人ハ賣藥營業者ナルトコロ肺結核、肋膜炎治療ノ效能アリトシ一般公衆ノ需用ニ應スル爲
大阪市西區梅本町六十一番地ニ於テ岡本直子名義ヲ用ヒ右治病ニ效驗アル藥物癩ノ膽ヲ眞正癩ノ膽ト
表示シ其ノ用法用量ヲ印刷記載シタル肺結核、肋膜炎天惠合理療法又ハ全快ノ案ト題スル書面ヲ添附

シ該賣藥發賣ノ免許ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス昭和五年頃ヨリ昭和八年十一月末頃迄ノ間宮崎縣油津町
見生かめ子外約二百名ニ對シ之ヲ販賣シタルモノナリ」ト認定シ被告人ヲ賣藥法第二條第一項ノ違反
罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ賣藥法第二條第一項ニハ「賣藥營業者カ賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方
名ノ原料品目及其ノ分量調製ノ方法、用法、用量並效能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免
許ヲ受クヘシ」ト規定シアリテ賣藥トハ藥品ノ化合物藥品ト藥品以外ノ物トノ混合物トヲ稱スルモノ
ナルコトハ右法條ニ照シ明カニシテ癩ノ膽ノ如キハ一種ノ民間藥ニシテ前示法條ニ賣藥ト稱スルコト
ヲ得サルモノトス現ニ昭和三年九月癩ノ乾燥肝臟其ノ儘ヲ賣藥トシテ許可スヘキヤ否ヤノ島根縣知事
ノ伺ニ對シ内務省衛生局長ヨリ衛第五〇四二號ヲ以テ「癩ノ乾燥肝臟其ノ儘單味トシテハ賣藥トシテ
許可スヘキモノニアラス」ト通牒シ居リ被告人ノ發賣シタル癩ノ膽ハ何物ヲモ混合セス膽其ノ儘之ヲ
販賣シタルモノナルコトハ押收證第一號ニ照シ明カニシテ賣藥法ニ所謂賣藥ニアラサルナリ然ルニ原
判決ハ此ノ點ヲ看過シ被告人ヲ前示法條ニ問擬處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノト信ス抑賣藥法
等ノ適用ヲ受ケサル所謂民間藥トシテ衆知ノ如ク蚯蚓ノ干物臘肭臍ノ肉ノ干物熊ノ胃(原物ノ儘)犀
角等ノ如ク主治效能及服用ノ分量、用法等ヲ説明シ販賣セルモノアリ其ノ他新製劑トシテ販賣セル「サ
ロミン」「エビオス錠」「わかもと」カ何等賣藥ノ許可ヲ受ケサルニ拘ラス賣藥法ニ牴觸セサル事實ニ
鑑ミルトキ本件癩ノ膽カ賣藥法ニ所謂賣藥ニ非サルハ論ヲ俟タサル所ナリ而モ癩ノ膽ニ付テ内務省衛

生局ハ之ヲ賣藥トシテ許可スヘカラストシ大阪府警察部ハ賣藥トシテ許可ヲ受クヘキモノトシ行政官
應ノ見解區々ニシテ民ソノ歸趨ニ迷フニ當リ特ニ御院ノ權威アル御判斷ヲ仰カントスル次第ナリト云
フニアレトモ

【要旨】

賣藥法第二條ニ所謂賣藥ハ所論ノ如キ藥品ノ化合物藥品ト藥品以外ノモノトノ混合物ニ限ラサルコト
同法第一條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ヘク又其ノ原料品ハ日本藥局方ニ記載スルモノニ限
ラサルコトハ同法第二條第二項ノ規定ニヨリ之ヲ知ルヲ得ヘシ而シテ賣藥法第二條ニ於テ賣藥ヲ發賣
セムトスル者ハ其ノ所定ノ事項ヲ記載シ所轄地方長官ノ免許ヲ受クヘキ旨規定シタル所以ハ衛生警察
上ノ必要ニ基クモノニシテ當ニ積極的危險ノミナラス賣藥トスル價値ナキモノヲ賣藥トシテ發賣スル
コトヲモ取締ラムカ爲ナリ從テ所論ノ如キ一種ノ民間藥ト稱スルモノト雖地方長官ノ免許ヲ受ケサル
限リ賣藥トシテ發賣スルヲ得サルコト論ヲ俟タヌ原判決ノ判示事實ハ辯護人西本寬一上告趣意書第一
點ニ對スル判決理由中ニ掲ケタル如クニシテ其ノ事實ニ依レハ被告人ハ所轄地方長官ノ免許ヲ受ケサ
ルニ拘ラス藥物類ノ贖ヲ判示ノ如キ方法ニヨリ賣藥トシテ發賣シタルモノナレハ之ニ對シ賣藥法第二
條第十五條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理
由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○詐欺私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使被告事件

(昭和九年(九)第一〇五八號 棄却)
同年十月二十二日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 石川忠五郎 辯護人 大橋 蒔

【第一審】 福井地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

印鑑簿ノ性質——印鑑簿ト印鑑簿中ノ印鑑ノ偽造

○判決要旨

一 印鑑簿ハ私人ノ任意届出テタル印鑑ヲ順次簿册ニ貼附又ハ編綴
シタルモノニ係リ私文書ノ集合ニ過キスシテ一個獨立ノ文書ト

印鑑簿ノ性質 印鑑簿ト印鑑簿中ノ印鑑ノ偽造

請フヲ得ス【要旨第一】

二印鑑簿ハ公務所ノ用ニ供スル文書ナルモ印鑑簿中ノ各個ノ印鑑ノ偽造ハ公文書ノ偽造ニアラス【要旨第二】

【參照】

刑法第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ

第一 昭和六年二月七日頃福井縣大野郡北郷村東野石川安左衛門トノ間ニ大阪市南區内安堂寺町二丁目四十番地ニ居住スル實弟石川義隆所有ノ東野地籍二十八番場四十番田二反二畝三步外三筆ノ土地ヲ擔保トシテ金一千圓ヲ借受クルコトヲ約シ該抵當權設定登記ノ爲同日右北郷村役場ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ石川義隆ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ自己ノ古印願(證第二十八號)ヲ押捺シ以テ同名義ノ改印鑑届及印鑑證明願ノ被告人宛委任狀(證第二十三號)同改印鑑届(證第二十二號)並同印鑑證明願(證第二十四號)各一通ヲ偽造シタル上之ヲ同役場ニ一括シテ提出行使シ同村長ヲシテ右義隆ニ對スル印鑑證明書一通ヲ下附セシメ次テ同月九日同郡勝山町下元祿第十三號九番地司法代書人田村由松方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ義隆ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ右古印願ヲ押捺シ以テ同人所有ノ前記土地ニ對スル同名義ノ被告人宛抵當權設定登記申請委任狀(證第三十四號ノ二)及同人ヲ連帶借主兼抵當權設定者被告人ヲ連帶借主トセル金一千圓ノ安左衛門ノ弟石川康正宛ノ抵當權設定金子借用證書(證第三十九號)各一通並義隆ノ代理資格ヲ詐リ被告人ヲ義隆ノ代理人トシタル抵當權設定登記申請書(證第三十四號ノ一)一通ヲ各偽造シ同月十日之ヲ真正ナル文書トシテ右義隆ノ印鑑證明書ト共ニ大野區裁判所勝山出張所ニ一括シテ提出行使シ因テ右虛偽ノ申立ニ依リ同登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本(證第四十八號ノ一乃至四ハ其ノ謄本)ニ右趣旨ノ不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ

第二 同年二月十日右安左衛門ト實父石川末吉所有ノ居村東野地籍二十八字番場二十九番山林一畝九步外土地十五筆建物一筆ヲ擔保トシテ金一千圓ヲ借受クルコトヲ約シ該抵當權設定ノ爲同日北鄉村役場ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ右末吉ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ其ノ頃福井市佐佳枝上町印刷業天谷繁師方ニ於テ買求メタル印願(證第二十九號)ヲ押捺シ以テ同人名義ノ改印鑑届及印鑑證明願ノ被告宛委任狀(證第二十七號)同改印鑑届(證第二十五號)及同印鑑證明願(證第二十六號)各一通ヲ偽造シ之ヲ同役場ニ一括シテ提出行使シ因テ同村長ヲシテ右末吉ニ對スル印鑑證明書一通ヲ下附セシメ同月二十三日前記田村代書人方ニ於テ右金一千圓ヲ借受クルニ付更ニ安左衛門トノ間ニ實父石川末吉所有ノ居村東野地籍二字際谷五番山林五町一反六畝十一步外二十六筆ノ共有土地全所有權ノ百十二分ノ一ノ權利ヲモ讓渡スヘキコトヲ約シ行使ノ目的ヲ以テ末吉ノ署名ヲ冒用シ其ノ名下ニ右印願ヲ押捺シ以テ同人ヲ連帶借主抵當權設定者被告人ヲ連帶借主トセル安左衛門ノ妹石川八重子宛ノ抵當權設定金子借用證書(證第四十號)末吉名義ノ被告人宛抵當權設定登記申請委任狀(證第三十五號ノ二)末吉ヲ賣主石川康正ヲ買主トセル右持分ニ付テノ不動産賣渡證書(證第四十三號)及末吉名義ノ被告人宛同所有權移轉登記申請委任狀各一通ヲ偽造シ更ニ同月二十六日前記田村代書人方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ末吉ノ代理資格ヲ詐リ被告人ヲ末吉ノ代理人トシタル抵當權設定登記申請書(證第三十五號ノ一)及所有權移轉登記申請書各一通ヲ偽造シ以上六通ノ偽造文書ヲ真正ナル

ル文書トシテ右末吉ノ印鑑證明書ト共ニ右勝山出張所ニ一括シテ提出行使シ因テ右虛偽ノ申立ニ依リ同登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本(證第四十八號ノ五乃至二十一ハ其ノ謄本ノ一部)ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ

第三 福井市不動貯金銀行福井支店ニ於ケル給付金一萬圓口ノニコニコ貯金ニ加入シ居タルトコロ舊盆節季ノ支拂金ヲ要スル爲同銀行ヨリ金五千圓ヲ借入ルルニ付保證人ノ必要アルヨリ同年八月十二日頃居字田中音松ニ其ノ保證人タルコトノ依頼ヲ爲シタルモ拒絕セラルルヤ同月十四日北鄉村役場ニ於テ音松ノ妻こんヨリ音松ノ印鑑證明書(證第三十二號ノ一中)一通交付ヲ受ケ其ノ際行使ノ目的ヲ以テ擅ニ同人ノ印ヲ委任狀ノ用紙ニ押捺シ自宅ニ於テ其ノ音松ノ印影ノ上部ニ同人ノ署名ヲ冒書シ更ニ石川末吉ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ前掲買入印(證第二十九號)ヲ押捺シ以テ同月十八日右兩名名義ノ杉本甚作宛公正證書作成ノ委任狀(證第三十二號ノ四)一通ノ偽造ヲ完成シ同日右甚作ヲシテ福井市佐佳枝下町八十五番地公證人野村定次役場ニ於テ之ヲ真正ナル文書トシテ右音松ノ印鑑證明書ト共ニ提出行使セシメ右音松及末吉ニ於テ被告人カ右銀行ヨリ金五千圓ヲ借受クルニ付保證債務ヲ負擔スル旨虛偽ノ申立ヲ爲サシメ同公證人ヲシテ公正證書ノ原本(證第三十二號ノ一中)ニ其ノ旨ノ不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ因テ同日同行員杉本甚作ヲ欺罔シ右支店ニ於テ金五千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第四 同年十一月頃前記安左衛門トノ間ニ工場織機等ヲ擔保ニ供シ金一千圓ヲ借入ルルコトヲ約シ田中音松ニ其ノ保證人タランコトヲ依頼シ之ヲ拒絕セラレタルモ福井無盡株式會社ヨリ無盡ノ給付金ヲ受クルニ付音松ヨリ其ノ保證人タルコトノ承諾ヲ得同月二十一日之ニ要スル印鑑證明書ノ交付ヲ受クル爲音松ノ印類ヲ託サレタルヲ奇貨トシ北郷村役場ニ於テ同村長ノ音松ニ對スル印鑑證明書二通ノ交付ヲ受ケ且行使ノ目的ヲ以テ同所ニ於テ同人ノ印ヲ金員借用證書用紙及公正證書作成委任狀用紙ニ盜捺シタル上自宅ニ於テ右借用證書ノ音松ノ印影ノ上部ニ同人ノ署名ヲ冒書シ被告人ヲ借主音松ヲ保證人トシタル金一千圓ノ借用證書(證第二號)一通又同年十二月五日前記野村公證人役場ニ於テ右委任狀ノ音松ノ印影ノ上部ニ同人ノ署名ヲ冒書シ以テ音松名義ノ被告人宛公正證書作成委任狀(證第三十三號ノ二中)一通ノ各偽造ヲ完成シ即日右印鑑證明書(證第三十三號ノ一中)ト共ニ之ヲ真正ナル文書トシテ同公證人ニ一括シテ提出行使シ同公證人ニ對シ右音松カ金一千圓ノ債務ヲ保證スル旨ノ虛偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ノ原本(證第三十三號ノ一中)ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シタルモ安左衛門ニ於テ金員ヲ交付セシテ曩ニ抵當權ヲ設定シタル石川義隆及石川末吉所有ノ土地建物ノ所有權ヲ讓渡セハ金員ヲ交付スハシト要求スルヤ之ヲ諾シ同月九日前記田村代書人方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ石川義隆ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ前記印類(證第二十八號)ヲ押捺シテ同人名義ノ被告人宛不動産所有權移轉登記申請委任狀(證第三十

六號ノ三)義隆ヲ賣主石川康正ヲ買主トスル不動産賣渡證書(證第四十二號)各一通並義隆ノ代理資格ヲ詐リ被告人ヲ義隆ノ代理人トシタル所有權移轉登記申請書(證第三十六號ノ一)一通ヲ各偽造シ又行使ノ目的ヲ以テ石川末吉ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ前掲印類(證第二十九號)ヲ押捺シ以テ同人名義ノ被告人宛所有權移轉登記申請委任狀(證第三十七號ノ三)及賣主ヲ石川末吉買主ヲ石川康正トスル不動産賣渡證書(證第四十四號)各一通並右末吉ノ代理資格ヲ詐リ被告人ヲ代理人トシタル所有權移轉登記申請書(證第三十七號ノ一)一通ヲ各偽造シ翌十日以上六通ノ偽造文書ヲ真正ナル文書トシテ大野區裁判所勝山出張所ニ一括シテ提出シテ行使シ因テ右虛偽ノ申立ニ依リ同登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本(證第四十八號ノ一乃至十九ハ其ノ謄本)ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ以テ安左衛門ヲ欺罔シ同日同代書人方ニ於テ金二百三十圓餘ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第五 昭和七年二月ノ節季ニ工場ノ新築織機等代金ノ支拂ノ爲曩ニ加入シ居リタル不動貯金銀行福井支店ノ一萬圓口ニコニコ貯金契約ニ基キ更ニ五千圓ヲ借受クル爲田中音松田中房吉石川金松ヲ其ノ保證人ニ立テントシタルモ同人等ニ於テ保證ヲ肯ンセサルヘキヲ察知シ其ノ印章ヲ偽造シテ印鑑證明書ヲ入手シ之ヲ使用シテ擅ニ同人等ヲ保證人ト爲シタル借用證書ヲ差入レ以テ金員ヲ騙取セントシ昭和六年十二月末頃情ヲ知ラサル前記印判業天谷繁師ニ音松ノ古證文ノ印影ヲ提供シテ音松ノ

印願ヲ彫刻セシメテ偽造シ昭和七年一月五日北郷村役場ニ赴キ行使ノ目的ヲ以テ同役場吏員ノ隙ニ乘シ助役ノ机上ニ在リタル北郷村役場備付ノ印鑑簿中ノ音松ノ印鑑(證第十一號)上ニ右偽造印ヲ押捺シ以テ音松ノ印鑑一通ヲ偽造シ即時之ヲ同役場ニ備付ケシメテ行使シ且同所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ音松ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ右偽造印ヲ押捺シ以テ音松名義ノ被告人宛印鑑證明願委任狀(證第十號)及右音松ノ印鑑證明願(證第九號)各一通ヲ偽造シ之ヲ一括シテ同役場ニ提出行使シ音松ノ印鑑證明書(證第一號)一通ノ下附ヲ受ケ更ニ同月七日頃前同様ニシテ房吉及金松ノ印願各一個(證第十七號證第十九號)ヲ彫刻セシメテ偽造シ同月十二日北郷村役場ニ到リ行使ノ目的ヲ以テ吏員ノ隙ヲ窺ヒ助役ノ机上ニ置カレタル同村役場備付ノ印鑑簿中ノ房吉ノ印鑑(證第二十一號)上ニ右房吉ノ偽造印(證第十七號)ヲ押捺シ以テ房吉ノ印鑑一通ヲ偽造シ即時之ヲ同役場ニ備付ケシメテ行使シ尙其ノ場ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ房吉及金松ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ右偽造印ヲ押捺シ以テ房吉名義ノ被告人宛印鑑證明願委任狀(證第十三號)金松名義ノ被告人宛同委任狀(證第十五號)各一通及右兩名ノ代理資格ヲ詐リ被告人ヲ房吉ノ代理人トシタル印鑑證明願(證第十二號)被告人ヲ金松ノ代理人トシタル同證明願(證第十四號)各一通ヲ偽造シ以上四通ノ偽造文書ヲ同役場ニ一括シテ提出行使シ房吉及金松ノ印鑑證明書各一通(房吉ノ分ハ證第十六號)ノ交付ヲ受ケタモノナリ而シテ敍上私文書ノ各偽造其ノ各行使登記簿及公正證書原本ノ各不實記載同各行使並各ル

詐欺ハ孰レモ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中判示第一ノ改印鑑届及印鑑證明願ノ委任狀、改印鑑届、印鑑證明願、抵當權設定登記申請委任狀、抵當權設定金子借用證書、抵當權設定登記申請書ノ各偽造、判示第二ノ改印鑑届及印鑑證明願ノ委任狀、改印鑑届、印鑑證明願、抵當權設定金子借用證書、抵當權設定登記申請委任狀、不動產賣渡證書、所有權移轉登記申請委任狀、抵當權設定登記申請書、所有權移轉登記申請書ノ各偽造、判示第三ノ公正證書作成委任狀ノ偽造、判示第四ノ借用證書、公正證書作成委任狀、石川義隆名義所有權移轉登記申請委任狀、同人名義不動產賣渡證書、同所有權移轉登記申請書、石川末吉名義所有權移轉登記申請委任狀、同人名義不動產賣渡證書、同所有權移轉登記申請書ノ各偽造、判示第五ノ各印鑑、各印鑑證明願委任狀、各印鑑證明願ノ偽造ノ點ハ刑法第五百九條第五十五條ニ其ノ各行使ノ點ハ夫々同法第六十一條第一項第五十九條第一項判示第一、第二、第四ノ各登記簿原本不實記載及判示第三、第四ノ各公正證書原本不實記載ノ點ハ同法第五百七條第一項第五十五條ニ其ノ各行使ノ點ハ同法第五百八條第一項第五十七條第一項第五十五條ニ判示第三、第四ノ各詐欺ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ偽造ニ係ル(イ)判示第一ノ改印鑑届印鑑證明願ノ委任狀、改印鑑届、印鑑證明願ノ各行使(ロ)判示第一ノ抵當權設定登記申請委任狀、抵當權設定金子借用證書、抵當權設定登記申請書ノ各行使(ハ)判示第二ノ改印鑑届及印鑑證明願ノ委

任狀、改印鑑届、印鑑證明願ノ各行使(ニ)判示第二ノ抵當權設定金子借用證書、抵當權設定登記申請委任狀、不動産賣渡證書、所有權移轉登記申請委任狀、抵當權設定登記申請書、所有權移轉登記申請書ノ各行使(ホ)判示第四ノ借用證書、公正證書作成委任狀ノ各行使(ヘ)判示第四ノ石川義隆名義所有權移轉登記申請委任狀、同人名義不動産賣渡證書、同所有權移轉登記申請書、石川末吉名義所有權移轉登記申請委任狀、同人名義不動産賣渡證書、同所有權移轉登記申請書ノ各行使(ト)判示第五ノ各印鑑證明願委任狀、各印鑑證明願ノ各行使ハ夫々一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ各重キ(イ)(ロ)(ハ)(ホ)ニ付テハ各偽造委任狀ヲ行使シタル罪ノ刑(ニ)ニ付テハ偽造不動産賣渡證書ヲ行使シタル罪ノ刑(ヘ)ニ付テハ偽造ニ係ル石川義隆名義不動産賣渡證書ヲ行使シタル罪ノ刑(ト)ニ付テハ偽造ニ係ル田中爲吉名義印鑑證明願ヲ行使シタル罪ノ刑ニ從ヒ尙判示各偽造私文書ノ行使ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シテ一罪ト爲スヘク右私文書偽造其ノ行使、公正證書原本不實記載其ノ行使及詐欺トノ間ニハ夫々順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收物件中證第十七號同第十九號同第二十八號同第二十九號ノ各印章ハ孰レモ本件私文書偽造罪ノ用ニ供シタルモノニシテ犯人以外ノモノニ屬セス又爾餘ノ主文掲記ノ物件中ノ各偽造部

分ハ孰レモ本件私文書偽造罪ヨリ生シタルモノニシテ何人ノ所有ニモ屬スヘカラサルモノナルヲ以テ前者ニ付テハ同法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ後者ニ付テハ同法第一項第三號第二項ニ依リ各之ヲ沒收シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大橋茹上告趣意書第一點一、原判決ハ判示第五ノ事實ニ付左ノ如ク法條ヲ適用シタリ「判示第五ノ各印鑑各印鑑證明願委任狀各印鑑證明願ノ偽造ノ點ハ刑法第五百十九條第一項第五十五條其ノ各行使ノ點ハ夫々同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ」ト判示シ印鑑ト印鑑證明願及其ノ委任狀トヲ區別スルコトナク刑法第五百十九條同第五十五條並ニ第六十一條ヲ適用シタリ二、然レトモ判示第五ノ事實ハ(昭和七年一月五日北郷村役場ニ赴キ行使ノ目的ヲ以テ同役場吏員ノ隙ニ乘シ助役ノ机上ニ在リタル北郷村役場備付ノ印鑑簿中ノ音松ノ印鑑(證第十一號)上ニ右偽造印ヲ押捺シ以テ音松ノ印鑑一通ヲ偽造シ即時之ヲ同役場ニ備付ケシメテ行使シ(原判決引用)タル事案ニテ印鑑ノ偽造ニ付テハ刑法第五十五條第三項ヲ適用スヘキモノナリ蓋シ右音松ノ印鑑ハ北郷村役場備付ノ印

鑑簿中に在ルモノニテ印鑑ノ届出ハ音松ヨリナシタレトモ届出後ハ役場吏員ニ於テ印鑑簿ニ貼用シ既ニ印鑑簿ノ一部トシテ組成セラレタルモノナリ從ツテ音松ノ私有印鑑ノ偽造ニ非スシテ公務員ノ作成シタル印鑑簿ノ變造ナルヲ以テ刑法第六十九條ノ適用ヲ受クヘキニ非スシテ第五十五條第三項ヲ適用セラルヘキモノナリ三、原判決ヲ精細ニ調査シ第一審判決ト比較スルニ主文ハ勿論事實竝ニ證據ノ認定ニ聊モ變ル處ナク單ニ前陳第五ノ事實ニ對スル法令ノ適用ニ付差異アルノミ而モ原判決ハ其ノ末尾ニ「控訴理由アリ」ト記載シ第一審判決ト異ナル處アルヲ明確ニセリ即チ之ニヨツテ第一審判決ト其ノ第五ノ事實ニ對スル法令ノ適用ニ關シ見解ノ相違スルコトヲ明ニセリ然ラハ原判決ハ前陳役場備付印鑑ノ性質ヲ誤認シタルカ將又法令ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在リ

按スルニ村役場備付ノ印鑑簿ハ一人カ自己ノ印鑑ノ證明ヲ求ムル手段トシテ各自村役場ニ届出テタル印鑑ヲ村役場ニ於テ順次簿冊ニ貼附又ハ編綴シタルモノニシテ此等ノ印鑑ハ各個獨立ノ私文書タルノ性質ヲ有シ其ノ集合ニ因リ性質ヲ變スルモノニ非ス加之證明ノ用ニ供セラルルモノハ個々ノ印鑑ニシテ印鑑簿ニ非サルカ故ニ印鑑簿ヲ以テ公務員又ハ公務所ノ名義ヲ以テ作成セラルヘキ一個獨立ノ文書ト謂フヲ得サルモノトス又固ヨリ印鑑簿ノ内容ヲ成ス各印鑑ハ村長ニ於テ印鑑證明ヲ爲スニ當リ基本トシテ使用スルモノナルヲ以テ刑法第二百五十八條ニ所謂公務所ノ用ニ供スル文書タルコト明白ナ

【要旨】

リト雖其ノ作成名義ハ一人カニ係ルモノナレハ之ヲ偽造變造スルモ公文書ノ偽造變造タルヲ得サルコト勿論ナリトス然リ而シテ原判示第五ノ事實ハ所論ノ如クニシテ被告人カ判示北郷村役場備付ノ印鑑簿中ノ田中音松ノ印鑑ノ上ニ判示偽造ノ印章ヲ重ネテ押捺シタル行爲ハ偽印ノ影出ニ依リ音松ノ印鑑ヲ偽造シタルモノニ外ナラサルヲ以テ原判決カ之ニ對シ刑法第五十九條第一項ヲ適用シ該偽造印鑑ノ行使ニ對シ同法第六十一條第一項第五十九條第一項ヲ適用シタルハ敍上ノ趣旨ニ照シ正當ナリトス所論ハ印鑑簿ヲ以テ役場吏員ノ作成スル獨立ノ公文書ト爲シ印鑑ハ之ヲ組成スル一部分ニシテ之ヲ偽作スルハ印鑑簿ノ變造ナリトスル獨自ノ見解ニ基キ原判決ノ擬律ヲ非議論難スルモノニシテ採用スルヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美 關與

○業務妨害暴力行為等處罰ニ關スル法律違反家宅侵入強要被告事件

(昭和九年(九)第一一四五號
同年十月二十九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 吉井 政市 辯護人 和田正平
外二名 山崎澤六
【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪—他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

○判決要旨

一多衆ノ威力ヲ示シテ株式會社ノ取締役等ヲ威迫シ因テ該株主總會ノ開催ヲ不能ナラシムル目的ヲ以テ同會社ニ立入ルトキハ其ノ會社ノ共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セストスルモ不法侵入罪ノ成立ニ影響ナキモノトス【要旨第一】

二他人ノ爲シタル暴行脅迫ノ結果ニ乘シ且其ノ他人ノ爲シ居ル脅迫状態ヲ利用シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタルトキハ所謂強要罪成立スルモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其ノ場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定證據ノ説明竝法律ノ適用ヲ爲シ被告人政市ヲ懲役六月ニ同勘治ヲ懲役四月ニ處ス但シ政市ニ對シテハ三年間勘治ニ對シテハ二年間各右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人哲二ヲ罰金六十圓ニ處ス但シ同被告人ニ對シテハ原審未決勾留日數中三十日ヲ一日ニ付金二圓ノ割合ヲ以テ換算シ右罰金刑ニ算入ス訴訟費用中原審ニ於テ支給シタル分ハ被告人政市哲二ノ連帶負擔トシ當審ニ於

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪 一三八一 (二三)

テ支給シタル分ハ之ヲ二分シ其ノ一分ハ被告人政市哲二ノ連帶負擔トシ其ノ他ハ被告人勘治ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人吉井政市ハ兵庫縣會議員ノ職ニ在ルモノニシテ豫テ神戸市兵庫區下澤通六丁目所在大同燐寸株式會社社長瀧川儀作及其ノ先代辨三ノ恩顧ヲ蒙レルモノ被告人小野田勘治ハ明石市ニ於テ燐寸製造業ヲ營メルモノニシテ豫テ同業ノ先覺者トシテ瀧川儀作ニ私淑スルトコロアリ被告人濱田哲二ハ右瀧川家ニ恩誼アリ且吉井政市方附近ニ居住シ同人方ヘハ平素親シク出入シ居ルモノナルトコロ

右大同燐寸株式會社ハ昭和二年九月頃日瑞兩國系均等ノ出資ニ依リテ創立セラレ雙方ノ資本ヲ代表スル取締役中ヨリ各一名ノ代表取締役ヲ選ヒ之等二名ノ代表取締役カ共同シテ會社ヲ代表スル制度ト爲シ瀧川儀作ハ同社創立當時ヨリ邦人側ノ代表取締役トナリ併セテ同會社社長ノ地位ニ在リタルトコロ創業以來業績振ハス瑞典系ヨリ多額ノ融資ヲ迎フルニ及ヒ前記出資ノ均等ニ破綻ヲ生シ漸次瑞典系資本ノ強大ヲ來シタル結果遂ニ瀧川儀作ヲ社長ノ職ヨリ退カシメ之ニ代フルニ瑞典系ノ外人社長ヲ迎フル爲昭和七年二月十三日ノ同社重役會議ニ於テ從來ノ取締役十四名以內監查役六名以內ヲ各半減スルト共ニ一名ノ會社代表取締役ヲシテ會社ヲ代表セシムル趣旨ニ定款ノ規定ヲ變更スヘキ議案上程セララルヤ同案ハ瀧川儀作一味役員ノ反對ニ拘ラス多數決ニヨリ可決セラレ次テ同年三月一日午前十時同會社ニ於ケル株主總會ニ同案ヲ付議採決スルコトトナリタルカ右株主總會ニ於テハ瑞典人株主及

邦人株主ニシテ取締役ナル井上重藏 千原三郎 市村一郎 加藤通文 木村淳等過半数ノ株主ノ支持ニヨリ同案ハ可決セラレ其ノ結果瀧川儀作ハ代表取締役社長タル地位ヲ失フノ外ナキ情勢ニ立至リタルトコロ

第一 被告人吉井政市ハ同年二月中旬右瀧川儀作及其ノ子同清一ヨリ敍上ノ情勢ヲ聞知シ痛ク瀧川儀作ニ同情シ同人ノ地位ヲ保全センコトヲ希求シ右株主總會ニ際シ多數ノ人々ヲ同社事務所内ニ階株主總會場ニ通スル階段廊下等ニ集メ株主總會ニ臨マントスル前記邦人重役ノ入場ヲ阻止シ又喧嘩ヲ逞フシ多衆ノ威力ヲ示シテ同人等ヲ威迫シ因テ右株主總會ノ開催ヲ不能ナラシメテ之ヲ流會ノ止ムナキニ至ラシメ前記ノ目的ヲ達セント企圖シ同年二月二十五日頃原審相被告人西川好男ヲ肩書自宅ニ招キ内外エレベーター株式會社ノ職工約二十名ノ雇入手配方ヲ依頼シ以テ同月二十九日夜同所ニ於テ好男等ニ對シ右計畫ヲ告ケ雇入レタル職工ト共ニ翌一日現場ニ臨ンテ之カ實行方ヲ命シ尙ホ同夜被告人濱田哲二原審相被告人玉田一雄 武本八十吉 岡田新次郎ヲ同所ニ招キ前同様ノ計畫ヲ告ケテ之カ贊同ヲ求メタルニ右濱田哲二等ハ政市ノ計畫ヲ了知ノ上其ノ依頼ヲ承諾シ

西川好男ハ同年三月一日午前七時頃内外エレベーター株式會社ニ豫テ計畫實行ノ爲雇入レ置キタル原審相被告人北山健二 藤原清次郎 佐野榮三郎 山本勘之助外十數名ト參集シ政市ノ意ヲ承ケ右ノ者等ニ冷酒ヲ飲用セシメテ氣勢ヲ煽リ

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

右政市哲二等約二十數名ハ相前後シテ同日午前九時過頃迄前示目的達成ノ爲擅ニ右株主總會場又ハ其ノ附近廊下ニ侵入シ

被告人吉井政市ハ株主瀧川儀作 井上重造 市村一郎 木村淳等カ著席シ將ニ株主總會ノ開會セラレントセル右會場ニ立入り突如市村一郎ノ身邊ニ迫リ所携ノ洋杖ヲ以テ床板ヲ衝キ同人ニ對シ「オイ市村君瀧川社長ヲ追出ストハ怪シカラヌテハナイカ」ト詰問シ

被告人濱田哲二ハ多衆ト共ニ右會場及其ノ附近ニ出入徘徊シテ氣勢ヲ示シ原審相被告人玉田一雄ノ如キハ勢ノ赴クトコロ遂ニ殺到セル多衆ニ壓迫セラレ外人技師長室ニ逃入ラントセル千原三郎ノ右頬ヲ毆打シ次テ同室内ニ闖入シ同所ニ居合セタル井上重造ノ前襟ヲ掴ンテ小突廻シ又ハ之ヲ毆打シ又原審相被告人西川好男ハ井上重造等ニ對シ「日本人ナラ何故日本ノ爲ニ盡サヌカ毛唐ノ走狗奴賣國奴」ト怒號シ原審相被告人山本勘之助ハ「ソウダソウダ」ト之ニ雷同シ其ノ他原審相被告人等ハ多衆ト共ニ右會場及其ノ附近ニ出入徘徊シ或ハ市村一郎ノ身邊ニ迫リ又ハ千原三郎 井上重造ノ身邊ニ追隨シテ之ヲ惡罵難詰スル等被告人井上政市 濱田哲二ハ被告人小野田勘治ヲ除キタル前記原審相被告人等ト共ニ多衆ノ威力ヲ藉リ右會社重役ヲ脅迫シ右議場ノ内外ヲ混亂ニ陥入レ會議遂行ヲ不能ナラシメタル結果遂ニ千原三郎 市村一郎等ノ同社重役ヲシテ右株主總會ヲ流會スルノ止ムナキニ至ラシメ以テ右會社ノ業務ヲ妨害シ

第二 被告人小野田勘治ハ昭和七年二月二十五日頃新聞紙ニヨリ瀧川儀作カ同年三月一日ノ前記株主總會ノ結果社長ノ地位ヲ除カルル形勢ナルコトヲ知り若シ同人カ排斥セラルルコトアラハ邦人燐寸業者ハ益々他ノ壓迫ヲ蒙ルニ至ルヲ以テ瀧川排斥ノ大同燐寸株式會社重役ヲ説得シテ其ノ意思ヲ籲ヘセシメンコトヲ決意シ同年三月一日午前九時半頃自宅ヲ出テ右會社ニ赴キタルニ同社内株主總會場ニ定メラレタル會議室内及室外廊下ニ於テ多衆群集ノ爲井上重造 加藤通文 市村一郎 千原三郎カ暴行又ハ威迫ヲ受ケ恐怖シ居レルニ乘シ原審相被告人武本八十吉ト共ニ犯意繼續ノ上同人等ニ強要シ同所又ハ同會社社長室ニ於テ右四名ニ順次「爾後瀧川社長ト提携シ燐寸工業ノ發展ニ努ムヘキ」旨ノ誓約書ヲ認メシメ以テ同人等ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタルモノナリ

證據ヲ按スルニ

冒頭摘示ノ各被告人ノ身分被告人政市 勘治及哲二ト瀧川儀作トノ關係竝被告人政市ト同哲二ノ關係ハ各被告人ノ當公廷ニ於ケル夫々判示同旨ノ供述ニヨリ大同燐寸株式會社ノ創立ヨリ判示株主總會召集ニ至ル迄ノ會社機關ノ組織、成立、變更竝右株主總會召集ニ至リタル經緯ニ付テハ被告人政市ノ當公判廷ニ於ケル判示照應ノ供述ニ依リ各之ヲ認メ

示第一ノ事實ハ

一 被告人政市ニ對スル第一回豫審訊問調書中昭和七年二月二十二、三日頃瀧川清一ヨリ同月中旬大

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

同燐寸株式會社ノ重役會ヲ開キタル際瑞典人ノ重役及同派ニ味方セル者ヨリ同會社ノ制度ヲ取締役半減單獨代表制ニ改ムル議案ヲ出サレ父及自分ノ反對ニ拘ラス其ノ議案ノ多數決ニテ可決セラレ右議案ヲ三月一日午前十時會社ニテ開カルル株主總會ニ諮ララルコトナリ居リ優勢ナル瑞典派ノ爲父儀作ハ重役及社長タル地位ヲ失フヘキ旨聞キ又其ノ翌日頃瀧川儀作ヨリ自分ハ先日ノ重役會議ニ於テ反對派ノ爲ニ單獨代表等ニ關スル議案カ可決セラレタルトキ先代辨三及自分ノ顔ニ啖唾ヲ吐キ掛ケラレタル如キ思シタル旨申聞ケラレ右燐寸株式會社内ニ於ケル大勢ハ瀧川儀作ヲ離レ居ルコトヲ知ルト共ニ同人ニ對スル同情ノ念ニ堪ヘス外人ト提携シテ瀧川ヲ排斥セントスル邦人重役ハ洵ニ不都合ナル故同人ヲ排斥セシメヌ様ニ爲シ瀧川家ニ對シ恩ヲ報セント思ヒタリ故ニ私ハ三月一日ノ株主總會ニ人ヲ差向ケ總會場ニ通スル階段及廊下ニ於テ瀧川排斥派ノ重役ノ通行ヲ妨ケ會場ニ入レヌ様ニスルトキハ勢ヒ其ノ株主總會ハ流會ニ歸シ瀧川社長ハ排斥ノ決議ヲ受クルコトヲ免ルルモノト思ヒ二月二十五、六日頃西川好男ヲ自宅ニ招キ三月一日ニエレベーター株式會社ノ職工中ヨリ十五人ノ手ヲ揃ヘ吳レ度旨申シタルニ同人ハ之ヲ承諾シ其ノ後同人ヨリ十五人餘ノ手ヲ揃ヘル手筈カ出來タトノ話アリシ同月二十九日午後六、七時頃武本八十吉ニ株主總會ヲ流會セシムル私ノ計畫ヲ告ケテ大同燐寸株式會社ニ差向ケ職工ノ監督ヲ頼ミタリ翌三月一日右會社ニ行キタルニ社内ニハ差向ケタル西川好男等ノ職工カ三々五々十五、六名居リタルカ私ハ重役市村一郎ニ會フ爲營業室等

ヲ見廻リタルモ見エサリシ故西川等ニ對シ二階ニ上ルヤウ話シタルニ同人等ハ總會場ノアル二階ニ上リ行キタリ夫レヨリ私ハ技師長室營業所ヲ經テ二階ノ總會室南入口ヨリ入リタルカ開會ヲ待テ居タル市村一郎ニ對シ瀧川ヲ排斥セヌ様話シ其ノ室ヲ出タリ尙ホ二月二十九日宅ニテ岡田新次郎玉田一雄濱田哲二ニ對シテモ明日午前十時ヨリ大同燐寸株式會社ニ於テ株主總會ヲ開キ瀧川社長排斥ノ決議ヲスルコトニテ自分ハ總會ヲ流會セシムル爲ニ人ヲ連レテ出向クカ君等モ午前十時頃迄ニ同會社ニ來テ吳レ度旨申聞ケタルトコロ孰レモ之ヲ承諾シタル旨ノ供述記載

一 被告人濱田哲二ニ對スル第二回豫審訊問調書中私ハ昭和七年二月二十九日吉井政市方ニ參リタルニ同家八疊座敷ニハ政市玉田一雄岡田新次郎等カ居リ「大和魂ヲ發揮セヨ」「瑞魔ヲ葬レ」等ノ文字ヲ記載シタルポスターヲ乾シ居タル故私モ手傳ヒタルカ私ハ翌三月一日瀧川儀作ノ社長タル大同燐寸株式會社ニ於テ株主總會ヲ開キ瑞典派ノ株主ト邦人株主重役千原三郎等カ提携シテ瀧川社長排斥ノ決議ヲ爲スコトニナリ居ルコトヲ聞キ及ヒ其ノ事實及吉井カ從來瀧川家ノ世話ニナリ居ルコトヲ思ヒ合セ吉井ハ其ノポスターヲ會社附近ニ貼付シテ瀧川排斥ノ氣勢ヲ殺キ明日ノ株主總會ヲ流會セシメ様ト企テ居ルモノト察シタリ翌三月一日玉田及岡田カ誘ヒニ來タル故右會社ニ赴キ正門ヨリ會社内ニ入り二階ニ上リ南階段ヨリ階下ニ降り事務室ノ外ヤ會社ノ邊ヲウロウロシ居タルカ尙ホ三月上旬吉井秀信カ金二圓ヲヤルト申シ吳レタルヨリ其ノ金ヲ受取りタルカ右金圓ハ吉井政市ヨリ吳

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

レタルモノカト思フ旨ノ供述記載

一 原審相被告人西川好男ニ對スル第二回豫審訊問調書中昭和七年二月二十五日頃吉井政市方ニ參リタルニ三月一日二十人程ノ手カ要ル故職工ヲ集メテ吳レ日當ハ三圓位ナリト申スニ付之ヲ承諾シ同月二十九日エレベーター株式會社ニ居合セタル北山建二山本勘之助ヲ伴ヒ吉井方ニ行キタルトコロ同人ハ大同燐寸會社ニテハ明朝十時ヨリ株主總會ヲ開キ瀧川社長ヲ排斥セントシ居ル故右總會ヲ流會セシムル爲オ前等ヲ雇入レタルカオ前等ハ明朝同會社ニ行キ廊下ニテ「ワツシヨイワツシヨイ」ト騒キ外人側ノ重役ヤ株主ヲ其ノ株主總會場ニ入ラセヌ様邪魔ヲスレハ結局其ノ總會ハ流會ニナリ瀧川社長ヲ排斥シ得ナイコトトナルト申シタルヲ以テ私等カ右會社ニ赴キ爲ス仕事ヲ知り之ヲ承諾シタルカ吉井ハ明朝會社ハ出掛クル時ニハ一杯ヤツテ勢ヲ付ケテ行カネハナラヌカラ自分ノ名ニテ片山ヨリ酒ヲ取り一同ニ飲マセト云ヒ五圓札一枚ヲ出シタリ翌日午前七時頃エレベーター會社ニテ北山建二藤原清次郎 佐野榮三郎 山本勘之助等十六、七名ノ職工及臨時雇入ト合計二十名ノ手ヲ揃ヘ會社ノ筋向ナル片山酒店ニテ清酒五升ヲ冷酒ノ儘飲ミ元氣ヲ付ケ私ハ右職工等ニ大同燐寸株式會社株主總會ヲ流會セシムル爲會社ノ廊下ニテ騒キ外人側ノ重役ヤ株主ヲ總會場ニ入レヌ様爲シ吳レ度キ旨申シ右會社ニ差向ケタリ私ハ會社ニ行キ二階ニ上リ廊下ヨリ社長室其ノ他各室ヲ見タルカ二階廊下北詰邊ニテ同社重役千原三郎カ毆ラレ居リタル旨ノ供述記載

一 原審相被告人玉田一雄ニ對スル第二回豫審訊問調書中昭和七年二月二十九日私ハ吉井方ヘ參リタルカ同人ノ依頼ニヨリ岡野謹惠カ模造紙約二十枚ニ吉井ノ原稿ニヨルボスターヲ書キ了ヘタル後其ノ際來合セタル岡田新次郎 濱田哲二ト自分ニ對シ吉井ハ「明日午前十時ヨリ大同燐寸株式會社ニ於テ株主總會ヲ開キ瀧川社長ヲ排斥ノ決議ヲスルコトトナリ居ル故其ノ總會ヲ開カセヌ様ニシナケレハナラヌ又君等ハ明日會社ニ行キ社長ヲ排斥派ノ重役千原 井上 加藤等カ株主總會ニ入ルコトカ出來ヌ様會社ノ玄關カラ二階ノ總會場ニ到ル階段ヤ廊下ニ於テ右排斥派ノ重役ヲ捉ヘテ糾問シ同人等ヲ取卷キワイワイ云フテ怖レサセ總會場ニ入レヌ様ニシテ吳レサヘスレハ其ノ中時間モ經テ總會ハ流會ニナルニ相違ナイト申シタル故私 岡田 濱田ノ三名ハ夫レヲ承諾シタリ翌一日私ハ岡田及濱田ヲ誘ヒ一緒ニ大同燐寸株式會社ノ正門ヨリ社内ニ入り事務所ノ南階段二階ニ上リタル旨ノ供述記載

一 原審相被告人山本勘之助ニ對スル第二回豫審訊問調書中私ハ昭和七年三月一日午前十時近ク大同燐寸株式會社ニ赴キ株主總會場ニ宛テラレタル會議室ニ入りタルニエレベーター株式會社ヨリ出掛ケタル職工等澤山入込ミ騒キ立テ居リタルカ其ノ際西川好男ハ吉井ト話込ミ居ル和服ヲ著タル重役ヲシキ者ニ向ヒ「オ前等ハ毛唐ノ味方ヲシテ日本人ヲ困ラスノカ日本人ナラ日本人ヲ助ケル様ニセヨ」ト聲高ク怒鳴リ付ケタル故私ハ大聲ニテ「ソウダソウダ」ト相槌ヲ打テタル旨ノ供述記載

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

一 證人市村一郎ニ對スル豫審訊問調書中昭和七年三月一日大同燐寸株式會社階上會議室ニテ臨時株主總會ヲ開キ定款變更ニ關スル會議ヲ開クコトニナリ居タル故私ハ同日午前八時頃出社シ九時頃營業室ヲ出テ事務所南側階段ヨリ階上ニ上リタルカ階段ノ上リ口ニハ見馴レヌカーキ色等ノ菜葉服ヲ著タル職工風ノ者十名位立チ居タリ私ハ變ニ思ヒナカラ階上株主總會場ニ至リタルカ間モナク取締役木村淳 井上重造 加藤通文社長瀧川儀作取締役瀧川清一カ相次テ入場シタル後吉井政市ハ南側入口ヨリ入場シテ私ノ右側ノ椅子ニ著席シ所携ノステッキヲ床板ニコツントツキ落シ私ニ向ヒ「オイ市村君三十年來燐寸ヲヤツテ居ル瀧川ヲ追ヒ出ストハ洵ニ怪シカラステハナイカ」ト言葉モ荒々シク怒氣ヲ含ミテ云ヒタリ私ハ意外ニ驚キタルカ「決議ハ之カラノ事テアリ總會ヲ開イテ見ネハ判ラヌ」ト答ヘタルニ「夫レハ腹ノ中テ決メテ居ルタラウ」ト云ヒタルカ私ハ默シテ相手ニセサリシ故其ノ場ヲ立チ會場ヲ去リタリ其ノ當時株主總會場ノ北隣ナル技術室ニ於テ怒鳴ル聲カ頻リニ致シ又株主總會場ノ西側廊下上ニハ菜葉服ヲ著タル職工ヲシキ者カ澤山右往左往シ騒々シク私ハ不安ニ感シタリ間モナク廊下ノ北方ニ立廻リヲ爲シ居ルカ如キ音カシ其ノ儘捨テ置ク譯ニハ行カヌ故警察ニ電話ヲカケサセタルカ瀧川社長ハ私等株主ニ對シ「之テハ總會ヲ開クコトカ出來ヌカラ流會ニスル」ト云ヒタル故一同之ニ贊成シタル旨ノ供述記載

一 證人井上重造ニ對スル豫審訊問調書中昭和七年三月一日私ハ株主總會ニ臨ム心算ニテ大同燐寸株式會社技術室ヨリ廊下ニ出テタルトコロ其ノ廊下ニハ菜葉服ヲ著タル者着物ノ者等二、三十名モ居リ其ノ中ノ三、四名カ私ヲ見ルヨリ「アイツカ井上タ賣國奴タ」ト云ヒナカラ直ニ手ニテ私ヲ毆リ其ノ場ヘ倒シ其ノ連中カ私ノ頭部、顔面部、腹部、大腿部ヲ所嫌ハス毆リ踏ミ蹴リ到底抵抗出來サル故暴漢ノ爲スニ任セタリ暴行ヲ受ケタル後外人技師室ニ逃込ミ千原三郎モ同室内ニ逃込ミ來レルカ暴漢等ハ扉ノ硝子ヲ毀シ室内ニ押入り私ト千原トヲ別々ニ取圍ミ私ニ對シ賣國奴トカ毛唐ノ走狗トカ口々ニ罵詈雑言タルカ御示シノ玉田一雄カ技術室入口ヲ出タル廊下ニテ私ヲ毆リ更ニ外人技師室ニ於テモ私ヲ毆リ小突キ廻シツツ他ノ暴漢等ト共ニ株主總會場ニ連レ込ミタル旨ノ供述記載

一 證人千原三郎ニ對スル豫審訊問調書中昭和七年三月一日午前九時四十分頃私ハ同社營業室ヨリ重役室ニ入り書類ヲ整理シ右重役室ト株主總會場トノ中間廊下ニ出タルニ菜葉服著ノ職工風ノ男六、七人カ南ヨリ北ニ參リタル故變ニ思ヒツツ外人技師長室ニ入りタルニ職工風ノ者等ハ私ヲ追ヒ來リ「アレカ千原タ謀反ノ主謀者タ毛唐ノ走狗タ賣國奴タ」ト罵詈雑言シタリ私ハ次テ廊下ニ出テタル際菜葉服ノ者脊廣服ノ男合計十六、七名カ私ヲ取卷キ前同様ノ惡口ヲ浴ビセタル故技術室ニ入り其レヨリ外人技師室ニ入ラント廊下北詰迄走リタルニ廊下ニハ菜葉服ノ男脊廣服ノ男和服ノ男等カ立竝ヒ居リ其ノ者等及技師室ヨリ追掛ケ來タル職工風ノ者等カ私ヲ取卷キ内三十歳前後ノ男カ平手ニテ私ノ右頬ヲ毆リタルヲキツカケニ暴漢ハ所嫌ハス頭部、顔面、肩等ヲ毆リ私ハ其ノ場ニ亡リ倒レ

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅

タルトコロ暴漢ハヨリ以上ニ頭部、肩等ヲ毆リタリ私ハ辛ウシテ立上リ外人技師室ニ逃ケ入り自分等ノ手ニテ暴漢ヲ取鎮メルコト不可能ナル故警察官ノ出張ヲ乞フ旨社員ニ電話ヲ掛ケサセタルカ其ノ間外部ヨリ硝子ヲ打破リ扉カ開クヤ七、八名ノ暴漢カ室内ニ侵入シ次ヲ續々暴漢カ侵入シ井上重役ヲ取卷キ又自分ノ身邊ニ迫リ口々ニ賣國奴毛唐ノ走狗ト叫ヒ立テタリ其ノ間瀧川儀作カ參リタレハ私ハ同人ノ左腕ヲ捉ヘ同人ト共ニ株主總會場ニ入りタルトコロ會場内ニモ葉葉服ヤ脊廣服ヲ著タル者數名居リカカル現狀ニテハ到底株主總會ヲ開クコト能ハサル故致シ方ナク社長ト諮リ一同ノ同意ヲ得流會スルコトトナリタルカ御示シノ玉田一雄カ會社ノ廊下ニ於テ最初ニ私ノ頬ヲ毆リ之ヲキツカケニ暴漢ハ私ヲ所嫌ハス毆リタルモノナル旨ノ供述記載

一 前記證人千原三郎ノ當公庭ニ於ケル私ハ昭和七年三月一日大同燐寸株式會社技術室ニ避難シタル際追掛ケ來レル十六、七名ノ見知ラヌ人ノ内ニハ右會社職工ハ加ハリ居ラヌ夫レハ同職工ノ服裝ノ上ヨリ又私ハ職工ノ顔ヲ見知り居レル點ヨリ判リシナリ次ニ右職工ハ初メハ株主總會場ニ入り居ラス流會宣告後右會社女工等同室ヘ入りタルモノニシテ會社ノ職工ノミナレハ私カ慰撫スレハ總會ヲヤリ得ルモ其ノ時ハ外部ノ人カ一杯來テ居リ總會ヲ指揮スヘキ私自身其ノ情勢ニテハ總會ハ出來ヌト思ヒタル旨ノ供述

ヲ綜合シテ之ヲ認定シ

判示第二事實ハ

一 被告人小野田勘治ニ對スル第一回豫審訊問調書中昭和七年二月二十四、五日頃大同燐寸株式會社社長瀧川儀作カ新聞紙上ニテ自分ハ是迄日瑞合資ノ下ニ大同燐寸ノ社長トシテ燐寸業ノタメニ盡シ來レルカ今度或重役ノ賣國的行爲ニヨリ會社ハ從來ノ共同代表制ヲ改メ單獨代表制ト爲スコトナリタル故自分ハ社長ノ地位ヲ除カルコトトナリ三月一日ニ其ノ株主總會カ開カル旨ノ聲明ヲ見私ハ瀧川カ大同燐寸ノ社長トシテ其ノ地位ヲ保チ居ルナラハ傾キカケ居ル燐寸工業モ幾分將來ニ望ミヲ繫キ得ルカ若シ同人カ排斥セララルコトアラハヨリ以上ニ吾々邦人燐寸業者ハ壓迫ヲ受ケ結局自滅スルコトトナル故瀧川排斥ノ重役ニ對シ同人排斥ノ意見ヲ籲サシメント思ヒ同年三月一日午前九時半頃自宅ヲ出テ大同燐寸株式會社ニ參リスク二階ノ社長室ニ入りタルモ社長ハ居ラサリシ故同室北奥ノ臨時株主總會場ニ入りタルニ右會議室内及室外廊下ニテハ瀧川反對派ノ重役ニ對シ暴言ヲ吐キ騒キ居タルカ井上ト稱スル重役ハ非常ニ恐怖シ居リ職工等ニ其ノ場ニ引張り來ラレタルカ如何ト云ヒ井上ハ同感ナル旨答ヘタルトコロ周圍ノ職工風ノ者ノ中ヨリ一應其ノ事ヲ書ケト云ヒ私モ井上ニ對シ其ノ旨ヲ書ケト云ヒタリト思フ其ノ内ニ誰カ燐寸包裝用紙ヲ机上ニ出シ誓約書ヲ書ケト云ヒタルモ井上ハ手カ震フテ書ケヌト申シタルトコロ私ト卓子ヲ挾ミ居リタル男ハ其ノ包裝紙ニ

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反サセル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

誓約書ヲ書キ右書面ニ井上カ署名捺印シタリ次テ井上ヲ階下ニ送り出シ再ヒ階上ノ會議室ニテ加藤通文 市村一郎ニ右同趣旨ノ誓約書ヲ書カシメ場所ハ判然覺エサルモ千原三郎ニモ私ヨリ話シ前同様ノ誓約書ヲ書カセタルカ同人等ニ對シ右ノ如キ誓約書ヲ強要スル權利ナキ旨ノ供述記載

一 原審相被告人武本八十吉ニ對スル第一回豫審訊問調書中井上重造 市村一郎 加藤通文 千原三郎ハ大同燐寸株式會社ノ重役ニシテ瀧川社長ヲ排斥シ居タル者ナルカ小野田カ今後ハ瀧川社長ヲ排斥セヌ様スル爲瀧川ト提携シテ燐寸工業ノ爲ニ盡ス旨誓約セシメタリ其ノ當時會場内外ニ於テ重役中ニ毆ラレタル者モアリ重役ヲ罵倒スル者モアリ机上ニ土足ニテ上リ灰皿ヲ投クル等暴行アリタル故瀧川反對派ノ右重役カ若シ瀧川等ト提携スルヲ得スト小野田ノ右話ヲ斷ルトキハ小野田ノ爲如何様ナル亂暴ヲセラルルヤモ判ラヌト思ヒ右誓約書ヲ書キタルモノニシテ充分得心ノ上自發的ニ書キタルモノニアラス私ハ反對派ノ重役ニ斯クノ如ク瀧川ト提携シ將來燐寸工業ニ盡ス旨誓約セシムルコトハ良キコトト思ヒ小野田カ其ノ後市村 加藤 千原ニモ誓約書ヲ書カシムルコトニ共鳴シタル旨ノ供述記載

一 證人井上重造ニ對スル豫審訊問調書中私カ右株主總會場ニテ暴漢ノ爲小突キ廻サレテ連レ込マレ卓子ノ西側略々中央部ノ椅子ニ腰掛ケタル際暴漢カ口々ニ私ヲ罵詈訾居ル故賣國の行爲ヲ爲シタル覺エナシト辯明シタルトコロ傍ノ洋服ノ男カ私ニ自分ハ小野田ナルカ瀧川社長ト提携セヨ而シテ其ノ誓約書ヲ書ケト命令スル如ク云ヒ私ハ其ノ様ナル誓約書ヲ書ク必要ナク心ヨリ得心シ居ラサリシモ周圍ニハ暴漢カ迫リ居リ小野田ハ壓制的ニ言フ故若シ之ヲ肯カサルトキハ如何ナル危險ヲ受クルヤモ知レヌト思ヒ小野田ニ對シ「好キ様ニ書イテ呉レ自分ハ手カ震フテ書ケヌ」ト申シタルトコロ同人ハ洋服ヲ著タル男ト誓約書ノ文句ニ付相談シ同人等ノ口授ニテ別ノ男カ黃色ノ紙ニ書キ其ノ書面ヲ差付ケタル故私ハ之ニ署名捺印シタル旨ノ供述記載

一 證人加藤通文ニ對スル豫審訊問調書中井上カ署名ヲ了シタル後小野田 武本ハ私ニ對シ井上同様ノ誓約書ヲ書ケト云ヒ井上重造ノ署名セル誓約書ヲ示シタリ私ハ左様ナル誓約書ハ兩人ヨリ話アルニシテモ之ニ應スヘキ理由ナシト思ヒタルモ其ノ場ノ情景ニ於テ之ヲ拒絕スルトキハ右兩人等ヨリハ詰問ヲ受ケ身邊ニ迫レル者ヨリハ暴行ヲ受クルコト明ナリシ故小野田ノ差出シタル紙ニ大同燐寸ノ紛糾ニ關シテハ出來ルタケノ努力ヲ以テ瀧川氏ト共ニ之ヲ治メ燐寸業ノ爲ニ努ムル旨ヲ書キタル旨ノ供述記載

一 證人市村一郎ニ對スル豫審訊問調書中株主總會ニ於ケル卓子ノ西側北寄りノ所ニ私カ行クヤ否ヤ小野田勘治ハ私ニ對シ井上 加藤兩重役ニ對シテモ此ノ通り瀧川社長ト提携シテ行クト云フ誓約書ヲ書カセタル故君モコノ通りニ書ケト云ヒ井上 加藤ノ署名捺印アル各書面ヲ見セタリ其ノ際私ノ目前ニハ毀レタ灰皿カ飛ヒ來リ小野田カ要求スルカ如キ誓約書ヲ作ル必要ナシト思ヒタルモ其ノ場

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅 一三九五 (一六一)

ノ情景カ右ノ通りニテ書カヌ時ハ如何ナル亂暴ヲセラルルモ判ラヌト思ヒタル故不本意ナカラ小野田ノ云フコトヲ承諾シ會社ノ改善ニ付瀧川氏等ト共ニ考慮シタキ旨ヲ書キ後小野田ノ意ニ從ヒ瀧川氏ト共ニ會社ノ發展ヲ考慮シ國家的ニ事業ヲ進ムル旨ヲ書キ署名シタル旨ノ供述記載

一 證人千原三郎ニ對スル豫審訊問調書中判示株主總會後社長室ニテ小野田ハ私ニ此處ニ見本アル故書面ヲ書ケト申シ井上 加藤 市村ノ各署名アル書面ヲ示シタルカ私ハカカル誓約書ヲ與フヘキ理由ナシト思ヒタルモ小野田ニ尾イテ多衆ノ暴漢カ詰メ居リ書カネハ同人等ヨリ如何様ナルコトヲ云ハレ右暴漢等ハ再ヒ私ニ如何様ナル亂暴ヲスルカモ知レヌト思ヒ餘議ナク大同燐寸株式會社ノ紛糾ニ關シテハ瀧川社長等ト共ニ國家的ニ努力スル旨記載シテ署名シタル旨ノ供述記載

一 前示第一事實引用ノ井上 千原及市村各證人ノ各豫審訊問調書ノ供述記載ヲ綜合シテ之ヲ認メ

犯意繼續ノ點ハ短期間ニ同種行為ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認ム
仍テ判示事實ノ證明十分ナリトス

法律ニ照スニ被告人政市 哲二ノ判示所爲中家宅侵入ノ點ハ刑法第三百三十條ニ多衆ノ威力ヲ示シテ脅迫シタル點ハ暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ業務妨害ノ點ハ刑法第二百三十四條第二項三十三條ニ各該當スルトコロ右家宅侵入罪暴力行為等處罰ニ關スル法律違反罪業務妨害罪ニハ其ノ間

順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニヨリ重キ右業務妨害罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中被告人政市ニ對シテハ懲役刑ヲ選擇シテ懲役六月ニ處シ被告人哲二ニ對シテハ罰金刑ヲ選擇シテ罰金六十圓ニ處シ被告人勘治ノ所爲ハ刑法第二百二十三條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ同條所定期範圍内ニ於テ懲役四月ニ處スヘキトコロ被告人政市 勘治ニ對シテハ情狀ニヨリ同法第二十五條ニ則リ前者ニ對シ三年間後者ニ對シ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ尙ホ同法第二十一條ニ從ヒ被告人哲二ニ對シテハ原審未決勾留日數中三十日ヲ一日ニ付金二圓ノ割合ヲ以テ換算シ右罰金刑ニ算入スヘク訴訟費用中原審ニ於テ支給シタル分當審ニ於テ支給シタル分ノ二分ノ一ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二三十八條ヲ適用シテ被告人政市 哲二ノ連帶負擔トシ其ノ他ノ分ハ同法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人勘治ノ負擔トスヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人哲二辯護人和田正平上告趣意書第二點ハ原判決ハ被告人濱田哲二ヲ家宅侵入罪ヲ以テ處罰セラレタリ然レトモ刑法第三百三十條ハ家宅侵入罪構成ノ要件トシテ「故ナク侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其ノ場所ヨリ退去セサルコト」ヲ必要トセリ然ルニ原判決ノ證據トシテ舉示セラレタルトコロヲ見ルモ特

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

ニ濱田哲二カ故ナク侵入シ又ハ要求ヲ受ケナカラ其ノ場所ヨリ退去セサリシコトヲ明記シタルトコロ何等存セサルノミナラス原審公判調書ヲ見ルニ濱田哲二ハ「初メ行ツタ際同所ニ無用ノ者入ルヘカラストト揭示シテアツタノテ私ハ中ヘ入ラスシテ外ニ居リ夫レカラ相當時間ヲ經過シテ其ノ揭示カナクナツタノテ二階ニ上ツテ行ツタノテス」(記録二五五五)ト記載セラレ又第一審公判調書ヲ見ルニ「私ハ其ノ時吉井ニ隨イテ中ヘハ這入ラス門ノ外テ大分永イ間居リマシタカ其ノ間ニハ岡田 中村以外ニ澤山ノ人達カ正門ヲ出入シ其ノ邊ヲ迂路々々シテ居リマシタ夫レカラ十時頃ニナツタト思フ時分事務所ノ二階カ騒カシクナリ誰カカ毆ツタトカ毆ラレタト云フテ居リマシタノテ南側階段カラ二階ヘ上ツテ行ツテ見マシタ處二階ノ廊下ニハ男女職工テ澤山ナ人テアリマシタ」問 其ノ時會社ノ社員カ誰レカカ會社ニ用ノナイ人ハ其處ニ立ツテ居ツテ貫ラツテハ困ルカラ彼方ヘ行ツテ吳レト云ハレタノテハナイカ 答 其ノ様ナコトハ云ハレマセヌテシタト記載セラレ別ニ大同燐寸會社社長等ノ意思ニ反スル意思ヲ以テ會社ニ立入りタルモノニアラサルノミナラス又退去ヲ求メラレタルコトモ無キコト明ラカナレハ何等之ニヨリテ家宅侵入罪ヲ構成スヘキモノニ非サレハナリ強テ論セハ特ニ出入ヲ許サレタル舉證ナキヲ以テ故ナク侵入シタリト見ルモ亦妨ケナシト云フニアランモ吉井政市ハ社長瀧川儀作トハ懇意ノ間柄ニテ常ニ自由ニ同會社ニ出入シ居リタルモノナレハマサカ社長ノ意思ニ反シテ出入シ居ルモノト考ヘサリシヤ勿論ナリ然ルニ突然二階ニ於テ騒カシクナリ毆ツタトカ毆ラレタトカ云フ言葉聞エ

シ爲メ恩顧アル瀧川社長並吉井政市氏ノ身ヲ案シ萬一ノ事アラハ其ノ急ヲ救ハンカ爲會社内ヘ入り其ノ様子ヲ見タルニ別ニ左程ノ事ナカリシ爲其ノ儘見物シ居リタルノミニシテ決シテ會社員ノ意思ニ反スルコトヲ知リテ尙且會社内ニ入りシモノニ非ス又原判決ノ判示スルカ如ク若シ被告人等カ瀧川社長ノ意ニヨリ此ノ計畫ヲ敢テシタルモノトセハ瀧川社長ハ寧ロ被告人等カ會社ニ入り來ル事ヲ歡迎スル筈ナレハ被告等カ會社ニ出入スルコトヲ禁スルノ理ナキコトモ亦當然ニシテ而カモ會社ニハ普通何人ト雖何カ用事アレハ一々其ノ許諾ヲ得ルノ要ナク自由ニ出入シ居リシモノニシテ之等ノ事情ヲ綜合シテ考察スルモ他ニ確タル反證ナキ限りハ之ヲ以テ直チニ家宅侵入ノ罪トシテ處斷スルハ聊カ早計ニ失スルモノナレハナリ故ニ原判決ハ結局審理不盡又ハ事實誤認ノ違法アリト謂ハサルヲ得スト云フニ在レトモ

【要旨第一】

原判決判示冒頭ノ事實並判示第一事實ニ依レハ判示株式會社カ創業以來業績振ハス從テ取締役監査役ヲ各半減シ代表取締役ヲ一名トスル爲定款ヲ變更セムトセル株主總會ヲ開催セムトスルニ當リ右會社ニ關係ナキ被告人等カ一派ノ重役ノ入場ヲ阻止シ又ハ喧嘩ヲ逞フシ多衆ノ威力ヲ示シテ其ノ重役等ヲ威迫シ因テ該株主總會ノ開催ヲ不能ナラシメ之ヲ流會スルノ止ムナキニ至ラシムル目的ヲ以テ同會社ニ立入りタルモノナレハ其ノ行爲ハ刑法第三百三十條ニ所謂故ナク侵入シタル者ニ該當スルモノト謂フヘク右株主總會ヲ流會セシムルコトカ被告人ノ恩誼アル同會社ノ共同代表者タル取締役瀧川儀作ノ地

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

位ヲ維持セシムカ爲ニシテ從テ儀作ノ意思ニ反セサルモノトスルモ开ハ個人的關係タルニ止マリ固ヨリ會社ノ意思ニ反スルコト明白ナレハ儀作ノ意思如何ハ該罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス而シテ該判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ認ムルヲ得ヘク記錄ニ徵スルモ審理不盡ノ點アルコトナク又原審ノ事實認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フルニ足ルヘキ事由アルコトナシ論旨理由ナシ被告勘治辯護人山崎佐六上告趣意書第一點ハ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ第一被告人吉井政市濱田哲二等約二十數名ハ相前後シテ同日午前九時過頃前示目的達成ノ爲擅ニ大同燐寸株式會社株主總會場又ハ其ノ附近廊下ニ侵入シ被告人吉井政市ハ株主瀧川儀作井上重造市村一郎木村淳等カ既ニ著席シ將ニ株主總會ノ開會セラレントセル右會場ニ立入り突如市村一郎ノ身邊ニ迫リ所携ノ洋杖ヲ以テ床板ヲ衝キ同人ニ對シ「オイ市村君瀧川社長ヲ追出ストハ怪シカラヌテハナイカ」ト詰問シ被告人濱田哲二ハ多衆ト共ニ右會場及其ノ附近ニ出入徘徊シテ氣勢ヲ示シ原審相被告人玉田一雄ノ如キハ勢ノ赴クトコロ遂ニ殺到セル多衆ニ壓迫セラレ外人技師長室ニ逃入ラントセル千原三郎ノ右頬ヲ毆打シ次テ同室内ニ闖入シ同所ニ居合セタル井上重造ノ前襟ヲ掴テ小突廻シ又之ヲ毆打シ又原審相被告人西川好男ハ井上重造等ニ對シ「日本人ナラ何故日本ノ爲ニ盡サヌカ毛唐ノ走狗奴賣國奴」ト怒號シ原審相被告人山本勘之助ハ「サウダサウダ」ト之ニ雷同シ其ノ他ノ原審相被告人等ハ多衆ト共ニ右會場及其ノ附近ニ出入徘徊シ或ハ市村一郎ノ身邊ニ迫リ又ハ千原三郎井上

重造ノ身邊ニ追隨シテ之ヲ惡罵難詰スル等被告人政市濱田哲二ハ被告人小野田勘治ヲ除キタル前記原審相被告人等ト共ニ多衆ノ威力ヲ藉リ右會社ノ重役ヲ脅迫シ右議場ノ内外ヲ混亂ニ陥レ會議遂行ヲ不能ナラシメタル結果遂ニ千原三郎市村一郎等ノ同社重役ヲシテ右株主總會ヲ流會スルノ止ムナキニ至ラシメ以テ右會社ノ業務ヲ妨害シ第二被告人小野田勘治ハ昭和七年二月二十五日頃新聞紙ニ依リ瀧川儀作カ同年三月一日ノ前記株主總會ノ結果社長ノ地位ヲ除カルル形勢ナルコトヲ知り若シ同人カ排斥セララルコトアラハ邦人燐寸業者ハ益々他ノ壓迫ヲ蒙ルルニ至ルヲ以テ瀧川排斥ノ大同燐寸株式會社重役ヲ説得シテ其ノ意思ヲ變ヘシメンコトヲ決意シ同年三月一日午前九時半頃自宅ヲ出テ右會社ニ赴キタルニ同社内株主總會場ニ定メラレタル會議室内及室外廊下ニ於テ多衆群衆ノ爲井上重造加藤通文市村一郎千原三郎カ暴行又ハ威迫ヲ受ケ恐怖シ居レルニ乘シ原審相被告人武本八十吉ト共ニ犯意繼續ノ上同人等ニ強要シ同所又ハ同會社社長室ニ於テ右四名ニ順次「爾後瀧川社長ト提携シ燐寸工業ノ發展ニ努ムヘキ」旨ノ誓約書ヲ認メシメ以テ同人等ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタルモノナリト説明シ以テ吉井等ニ對シテハ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條刑法第三百十條(家宅侵入)及刑法第二百三十三條第二百三十四條(業務妨害)ヲ又小野田勘治ニ對シテハ強要罪トシテ刑法第二百二十三條ヲ夫々適用處罰シタル後更ニ進ンテ小野田勘治カ吉井正市等ト共同シテ會社重役ニ脅迫ヲ加ヘ株主總會場ノ内外ヲ混亂ニ陥レ同會社ノ業務ヲ妨害シタル旨ノ公訴事實ハ孰レモ之ヲ認ムヘキ犯罪

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

ノ證明ナキ旨判示シタリ故上ノ判示ニヨルトキハ大同燐寸株式會社ニ擅ニ侵入シ多衆ノ威力ヲ示シテ會社重役ヲ脅迫シテ之ヲ畏怖セシメタルモノハ吉井政市等ニシテ小野田勘治ハ該脅迫ニ何等ノ關係ナキコト極メテ明ナリ即チ同被告人ハ右脅迫アリタル後ニ於テ會社重役ニ交渉シテ「爾後瀧川社長ト提携シ燐寸工業ノ發展ニ努ムヘキ旨」ノ誓約書ヲ徵シタル關係ニ過キサレモノニシテ其ノ事實ハ原審公判廷ニ於ケル被害者タル證人木谷彌一郎ノ「小野田ハ加藤重役ニ對シ無禮ノ言語動作ハ絶體ニ無キ」旨同千原三郎ノ「小野田ハ私ニ對シテ暴言又ハ暴行ヲ爲シタルコトハアリマセヌ同人ハ寧ロ私ニ對シテハ敬語ヲ使ツテ居タル」旨同市村一郎ノ「小野田丈ケテアツタラ別ニ恐ロシクハナク又同人ハ書ケト言ツタ丈ケテ別ニ嚴ルヤウナ態度ハ示サザリシ」旨ノ各供述ニ依リテ一點疑ナキ所ナリトス如斯被告人小野田勘治ハ自ら暴行又ハ脅迫シタルコトナク又他人ノ斯ル行爲ニ關與シタル事實ナキヲ以テ刑法第二百二十三條ノ強要罪ヲ構成セサルコト論ヲ要セサル所ナルニ拘ラス原判決カ同條ヲ以テ問擬シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノト思料スト云フニアレトモ

原判決ノ判示事實ハ其ノ用語簡ニ失スル憾アルニ止マリ其ノ引用證據ヲ參照スルトキハ被告人勘治ハ昭和七年二月二十五日頃新聞紙ニ依リ瀧川儀作カ同年三月一日ノ判示會社株主總會ノ結果社長ノ地位ヲ除カルル形勢ナルコトヲ知り若同人カ排斥セラルルコトアラハ邦人燐寸業者ハ益々他ノ壓迫ヲ蒙ルニ至ルヲ以テ瀧川排斥ノ同會社重役ヲ説得シテ其ノ意思ヲ諷ヘシメムコトヲ決意シ右三月一日午前九

時半頃自宅ヲ出テ右會社ニ赴キタルニ判示第一ノ如ク同會社内株主總會場ニ定メラレタル會議室内及室外廊下ニ於テ多衆ノ爲同會社取締役井上重造 加藤通文 市村一郎 千原三郎カ暴行又ハ脅迫ヲ受ケ恐怖シ居ルノミナラス其ノ多衆カ被告人勘治ニ追隨シ若右四名ノ取締役カ被告人ノ言ヲ聽カサレハ其ノ多衆カ如何ナル暴行ヲ爲スヤモ計リ難キ情勢ナルヲ利用シ第一審相被告人武本八十吉ト共ニ犯意繼續ノ上右四名ノ取締役ニ強要シ同所又ハ同會社社長室ニ於テ右四名ニ順次「爾後瀧川社長ト提携シ燐寸工業ノ發展ニ努ムヘキ旨」ノ誓約書ヲ認メシメ以テ同人等ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタルモノナレハ被告人ハ刑法第二百二十三條第一項所定ノ罪責ヲ免レス蓋シ被告人ハ前記ノ如ク多衆ノ爲シタル暴行脅迫ノ結果ニ乘シ且又被告人ノ言ヲ聽カサレハ其ノ多衆カ如何ナル暴行ヲモ爲スヤモ計リ難キ情勢即チ脅迫狀態ヲ利用シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメタルモノナレハナリサレハ原判決ニハ所論ノ如キ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事柴碩文關與

【要旨第二】

共同代表ノ一人タル取締役個人ノ意思ニ反セサル場合ト不法侵入罪 他人ノ脅迫ヲ利用スル強要罪

○收賄竝傷害教唆被告事件

(昭和九年(九)第六四四號
同年九月十四日第三刑事部判決)

棄却

【上告人】 被告人 大貝龜吉 辯護人

外一名

永富貞平
清瀨太郎
北村金太郎
大塚孫富
野上孫富

【第一審】 福岡地方裁判所飯塚支部 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

町營上水道事業ニ關スル水道委員ト公務員ト水道委員ノ職務ト收賄罪ノ構成

○判決要旨

一 町村制第六十九條第八十二條ニ依リ町營ノ上水道事業ノ諮問機關トシテ町村會ニ於テ選定セラレタル水道委員ハ公務員ナリト

町營上水道事業ニ關スル水道委員ト公務員 水道委員ノ職務ト收賄罪ノ構成

ス【要旨第一】

二諮問機關タル水道委員カ町營ニ係ル上水道事業ノ實施ニ際シ工
事用鐵管ニ付鋼鐵管ノ採用盡力方ノ請託ヲ受ケ之ニ對スル謝金
ヲ要求シ約束シ收受スルカ如キ又ハ鋼鐵管附屬品ノ納入竝配水
鋼管埋設工事ノ請負方ヲ斡旋シ之ニ對スル謝金ヲ要求シ收受ス
ルカ如キ又ハ一旦納入シタル鋼鐵管ノ肉厚ニ關スル紛議ニ立入
リ納入者ノ爲ニ斡旋ヲ爲シ納入者ニ對シ謝金ヲ要求シ又ハ之ヲ
收受スルカ如キハ孰レモ收賄罪ヲ構成ス【要旨第二】

【參照】 町村制第六十九條

町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會議員又ハ町村民中選舉權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦

ニ依リ町村會之ヲ定ム但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之

ニ充ツ

第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ委員ニ之ヲ準用ス

委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

同法第八十二條

委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委
託ヲ受ケタル町村ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

刑法第九十七條

公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ク

ハ約東シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲
ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スル
コト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人大貝龜吉ヲ懲役六月ニ處シ第一審未決勾留
日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ金千四百二十八圓三十三錢ヲ追徴ス被告人古野淺平ヲ懲役二年六月ニ
處シ第一審未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用中證人行正周藏 本副ツルエニ支給シタ
ル分ハ被告人淺平ノ負擔トシ金九百七十八圓三十三錢ヲ追徴ス被告人龜吉ノ傷害教唆ノ點ハ無罪トス
ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一、被告人古野淺平同大貝龜吉原審相被告人大野金之助ハ共ニ遠賀郡中間町町會議員ニシテ昭和五
年九月頃ヨリ同町ニ於テ上水道敷設ノ議起ルヤ舉ケラレテ水道調査委員トナリ昭和六年六、七月頃
同町町會ニ於テ右上水道敷設ノ件確定シ該工事實施ニ關スル事務處辨ノ爲水道委員會設置セラ
ルヤ選任セラレテ其ノ委員トナリシカ右委員會ハ被告人等其ノ他合計九名ヨリ成リ百圓以上ノ經費支
出其ノ他一般水道重要事務ニ關スル町長ノ諮問機關ニシテ兼テ工用材料ノ檢收ニ立會シ工事實況
監督ノ職責ヲ有スル者ナル處右被告人等ハ其ノ職務ニ關シ

町營上水道事業ニ關スル水道委員ト公務員 水道委員ノ職務ト收賄罪ノ構成

一、日本鋼管株式會社代理店ナル原審相被告人吉永禎介ヨリ水道用鐵管トシテ鋼鐵管ノ採用盡力方懇請セラルルヤ共謀ノ上謝金名義ニヨリ利得センコトヲ企テ昭和六年十月頃小倉市延命寺町某料亭ニ於テ禎介ト會合シ被告人龜吉ハ被告人淺平等ヲ代表シ禎介ニ對シ鋼鐵管採用方盡力スヘク採用實現ノ上ハ謝金トシテ三名ニ對シ該納入金額ノ五分ニ相當スル金額ヲ交付スヘク又他ノ二名ニ祕シ別ニ自己一人ニ同一分餘ノ謝金ヲ交付スヘク要求シ禎介ノ承諾ヲ得被告人淺平同龜吉ノ兩名ハ同月二十六日遠賀郡折尾町省線折尾驛前某カフェニ於テ禎介ヨリ前記約旨ニ依リ被告人等三名ノ爲ニ金千六百圓ヲ受取り收賄シ尙其ノ際淺平龜吉ノ兩名ハ禎介ヨリ別途ニ謝金四百圓ヲ受取り收賄シ右四百圓ハ淺平龜吉兩名ニ於テ折半取得シ千六百圓ハ内五百九十圓ヲ金之助内五百八十圓ヲ龜吉内四百三十圓ヲ淺平ニ於テ夫々取得シ

被告人龜吉ハ單獨ニテ更ニ同月二十八、九日頃小倉市京町ナル原審相被告人禎介方ニ至リ同人ニ對シ前記謝金一分餘ノ約定ノ履行ヲ迫リ同人ヨリ金三百圓ヲ受取り收賄シ

二、更ニ被告人等三名ハ共謀ノ上禎介ニ對シ該鋼管附屬品ノ納入竝上水道配水鋼管埋設工事ヲ斡旋シ以テ利得センコトヲ企テ禎介ニ對シ鋼管附屬品ノ納入ヲ爲サシムヘク又配水鋼管埋設工事ノ利得ヲ得セシムヘク盡力スヘキ旨稱シテ謝金ノ要求ヲ爲シ昭和七年二月二日ヨリ同年四月七日迄ノ間數回ニ亙リ小倉市京町ナル禎介方其ノ他ニ於テ謝金等ノ名義ノ下ニ合計金七百九十五圓餘ヲ同人ヨリ受取り收賄シ

三、原審相被告人禎介ト中間町當局間ニ締結セラレタル鋼鐵管納入契約中該鐵管ノ肉厚ニ付明確ナル協定ナカリシ爲昭和七年二月頃ヨリ右肉厚ノ分率ニ付中間町當局ト禎介トノ間ニ紛争ヲ惹起スルニ至リタルカ被告人等ハ共謀ノ上右紛争解決ノ斡旋ヲ爲シ禎介ヨリ謝金ヲ得ンコトヲ企テ昭和七年四月十一日被告人龜吉方ニ於テ禎介ニ對シ肉厚問題ヲ有利ニ解決シ遣ルヘキニ依リ運動費トシテ金五百圓ヲ提供セヨト要求シ同人ヨリ同所ニ於テ即日金百圓翌五月四日被告人龜吉方ニ於テ禎介ノ店員小山銀市ノ手ヲ經テ金百五十圓ヲ受取り收賄シ

タルモノニシテ右被告人等ノ所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ出テタルモノトス

第二、被告人淺平ハ昭和三年九月ヨリ遠賀郡中間町信用組合ノ常務理事トシテ就任昭和六年度末ニ於ケル役員賞與金分配ニ關スル他ノ理事ノ爲シタル決議カ著シク自己ニ不利ナルヲ知り不滿ノ念禁シ難ク原審相被告人金之助等ヲ語ラヒ組合總會ニ於テ右賞與金割當額ヲ有利ニ變更シタルニ組合長岡部龍太郎ハ淺平ノ態度ヲ快シトセス其ノ職ヲ辭シタルモ其ノ後周圍ノ勸告ニ從ヒ再ヒ組合長ニ就任シ被告人淺平ハ引續キ在職シ居リタル處昭和七年八月頃ニ至リ周圍ニ於テ自己ノ在職ヲ非難スル者アルヲ聞知スルヤ一應岡部ノ真意ヲ確メムト思惟シ金之助龜吉ヲシテ岡部ノ意ヲ探ラシメタルニ岡部ハ淺平ノ在職ヲ不可トスル旨稱シタルニ依リ止ムナク同年八月末頃辭表ヲ提出シ一面金之助

龜吉ヲシテ組合理事會ニ對シ留任取計ヒ方ヲ勸說セシメタルモ其ノ效ナク同年九月上旬ノ組合理事會ニ於テ淺平ノ辭表ヲ承認シ遂ニ被告人淺平ハ其ノ職ヲ辭スルノ止ムナキニ至ルヤ畢竟組合長タル岡部龍太郎ノ策動ニ因ルモノト思惟シ痛ク龍太郎ヲ恨ムト共ニ豫テ町政問題等ニ關シ被告人淺平ト互ニ提携シ居リタル大野金之助モ亦右岡部龍太郎ノ心情ニ慊ラス茲ニ被告人淺平金之助ノ兩名ハ、意思共通ノ下ニ金之助ノ輩下ヲ使喚シテ岡部龍太郎ニ對シ危害ヲ加ヘ以テ其ノ鬱憤ヲ霽サンコトヲ企テ同月二十日頃金之助ハ中間町ノ自宅ニ原審相被告人永露勇ヲ招致シ同人ニ對シ「自分ノ男カ立タスカラ落付イタ者ヲ選ヒ岡部カ役場ニ出勤ノ途中ヲ待受ケ刀ヲ以テ同人ノ腕ヲ斬ラセヨ」ト命シテ同人ヲ教唆シタル爲永露勇ハ更ニ同日頃肩書自宅ニ於テ同居中ノ原審相被告人永露政夫ニ對シ「オ前ハ義ノ爲自分ニ代ツテ岡部龍太郎ノ腕又ハ足ヲ斬ラスカ」ト申向ケテ教唆シタルニ因リ右永露政夫ハ岡部傷害ノ意ヲ決シ永露勇ヨリ指示セラレテ岡部ヲ見覺エ置キ同月二十四日岡部龍太郎カ役場ニ出勤セントスルヲ目撃シ竊カニ同人ヲ尾行シ中間町大根土炭坑附近ノ路上ニ於テ突如岡部ノ背後ヨリ所携ノ日本刀ヲ以テ同人ニ斬付ケ因テ其ノ右上膊部ニ長サ約十四糎幅六糎骨膜ニ達スル割創竝右前膊部ニ長サ約十四糎幅約四糎撓骨ヲ切斷スル切創ヲ蒙ラシメ以テ全治約三箇月ヲ要スルニ至ラシメ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人淺平 龜吉ノ所爲中其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタル點ハ各刑法第九十七條第一項前段第五十五條第六十條(被告人龜吉カ判示三百圓ヲ收賄シタル點ニ付テハ第六十條ヲ適用セス)ニ該當シ被告人淺平カ傷害教唆者ヲ教唆シタル點ハ同法第六十一條第二百四條懲役刑ニ該當シ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ最モ重キ右傷害罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ右被告人兩名ニ對シテハ夫々其ノ刑期範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク尙被告人等ニ對シテハ各同法第二十一條ニ從ヒ主文掲記ノ如ク夫々未決勾留日數ノ一部ヲ各其ノ本刑ニ算入シ訴訟費用中主文特記ノ分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ主文記載ノ如ク被告人淺平ヲシテ之ヲ負擔セシム可ク而シテ被告人淺平及龜吉カ收受シタル判示ノ賄賂ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ各刑法第九十七條第二項後段ニ從ヒ被告人淺平ヨリ金二百圓(四百圓ノ二分ノ一)金四百三十圓(千六百圓中ノ分配額)金二百六十五圓(七百九十五圓餘ノ三分ノ一)金八十三圓三十三錢(二百五十圓ノ三分ノ一)以上四口合計金九百七十八圓三十三錢ヲ被告人龜吉ヨリ金二百圓(四百圓ノ二分ノ一)金五百八十圓(千六百圓ノ分配額)金三百圓(單獨收受ノ分)金二百六十五圓(七百九十五圓餘ノ三分ノ一)金八十三圓三十三錢(二百五十圓ノ三分ノ一)以上五口合計金千四百二十八圓三十三錢ヲ夫々追徴スヘキモノトス

被告人龜吉カ判示第二ノ被告人淺平及原審相被告人大野金之助ノ岡部龍太郎ニ對スル傷害教唆ノ所爲

ニ付共謀加擔シタリトノ公訴事實ハ犯罪ノ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人大貝龜吉辯護人永富貞平上告趣意書第一點原判決ハ罪ト爲ルヘキ事實ニ付理由不備ノ違法アリ即チ原判決ハ其ノ冒頭ニ於テ「被告人等ハ中間町町會議員ニシテ昭和五年九月頃ヨリ同町ニ於テ上水道敷設ノ議起ルヤ舉ケラレテ水道調査委員トナリ昭和六年六、七月頃同町町會ニ於テ右水道敷設ノ件確定シ該工事實施ニ關スル事務處辨ノ爲水道委員會設置セラルルヤ選任セラレテ其ノ委員トナリシカ右委員會ハ被告人等其ノ他合計九名ヨリ成リ百圓以上ノ經費支出其ノ他一般水道重要事務ニ關スル町長ノ諮問機關ニシテ兼テ工用材料ノ檢收ニ立會シ工事實況監督ノ職責ヲ有スルモノナル處」トシ被告ノ公務員タル資格トシテ中間町町會議員タルコト水道調査委員ヨリ次テ水道委員會設置後ハ其ノ委員タルコトヲ舉ケタル後委員會ハ云云町長ノ諮問機關ニシテ兼テ云云ノ職責ヲ有スルモノトシ委員會ノ職務權限ヲ舉ケ居ルモ委員ノ職務權限ヲ舉ケス而シテ委員會ノ職務權限ト之ヲ構成スル委員ノ職務權限トハ固ヨリ別ニシテ必スシモ一致スルモノニ非サルヲ以テ委員會ノ職務權限ハ直ニ委員ノ職務權

【要旨第一】

限ナリト云フヲ得ス左レハ委員トシテノ職務權限ハ之ヲ舉ケス又被告ノ中間町町會議員タルコトハ舉ケアルモ議員ハ町ノ議決機關タル町會組織員ニシテ町務ノ執行機關ニ非サルヲ以テ町ノ事業其ノ物ノ遂行ハ勿論其ノ監督等ノ職務權限ナキモノナレハ假ニ町ノ事業タル水道事業ニ關シ原判決後記ノ如ク金員ヲ收受シタリトスルモ其ノ金員收受カ被告ノ公務員タル職務ニ關スルモノタルコトヲ明ニセサル以上ハ瀆職罪トシテ罰スルヲ得サルヲ論ヲ俟タス尤モ原判決ハ前示判文ノ次ニ「右被告人等ハ其ノ職務ニ關シ」ナル文詞ヲ加ヘアルモ這ハ單ニ法律語ヲ加ヘシ止マリ以テ瀆職罪構成ノ理由ト爲スニ足ラス苟モ該罪ヲ認メントスルニハ具體的ニ其ノ職務ニ關スルコトヲ明ニスルニ非サレハ果シテ罪ト爲ルヤ否ヤ不明ナレハ罪ト爲ルヘキ理由ヲ附シタルモノト謂フヲ得ス加之原判決ハ被告等カ金員ヲ收受セシ事實ニ付テモ理由不備ヲ免レス即原判決ハ前示判文ノ次ニ(一)(二)(三)ノ三項ニ分チ具體的ニ犯行ヲ舉ケアルモ其ノ(一)ニハ「日本鋼管株式會社代理店ナル原審相被告人吉永禎介ヨリ水道用ノ鐵管トシテ鋼鐵管ノ採用盡力方懇請セラルルヤ共謀ノ上謝金名義ニヨリ利得センコトヲ企テ」トシ次テ吉永禎介ニ對シ鋼鐵管採用方盡力スヘク實現ノ上ハ謝金交付ノコトヲ承諾セシメタル末金員ヲ收受セルコトヲ舉ケ其ノ(二)ニハ同禎介ニ對シ被告人等カ鋼管附屬品ノ納入並上水道配水鋼管埋設工事ヲ斡旋盡力スヘキ旨申向ケ謝金ノ要求ヲ爲シ數回ニ互リ禎介ヨリ金員ヲ受取り收賄シタル事ヲ舉ケアルモ禎介ニ對シ申向ケ又ハ金員ヲ收受シタルコトハ(一)何レノ水道用鐵管ナルヤ(二)モ何處ノ鋼管

【要旨第二】

町營上水道事業ニ關スル水道委員ト公務員 水道委員ノ職務ト收賄罪ノ構成

附屬品ノ納入タルヤ又何處ノ上水道配水鋼管埋設工事ナルヤ何等記載ナク從テ被告人等ノ公務ニ關スルコト見ルヘキモノナク換言スレハ被告人等ヲ犯罪ト認ムルニハ其ノ公務員タル中間町ノ水道用鐵管納入タルコト又同町水道鋼管附屬品ノ納入ヤ其ノ配水鋼管埋設工事ナルコトヲ掲ケタルニ非サレハ職務ニ關スルモノニ非ス即他ノ事業ニ關スルモノナレハ何等犯罪ト爲ラス要之原判決ハ被告ノ瀆職罪ヲ認メシ理由不備ノ違法アルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨第一】

判示中間町ノ水道委員會ナルモノハ町村制第六十九條ニ基キ町長ノ推薦ニ依リ町會ニ於テ選定サレタル被告人等九名ノ水道委員ヲ以テ組織サレタル町長ノ諮問機關ニシテ該水道委員ハ町長ノ指揮監督ノ下ニ町ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨スヘキ職責ヲ有スルモノナルコト町村制第八十二條ノ規定ニ照シ明ニシテ判示第一ノ冒頭ニ於ケル中間町水道委員ノ職務權限ニ關スル判旨亦之ニ外ナラサルモノトス然リ而シテ斯ノ如キ職責ヲ有スル公務員カ判示第一ノ一乃至三ノ如ク或ハ上水道用鐵管トシテ鋼鐵管ノ採用盡力方ヲ懇請セラルルヤ謝金名義ヲ以テ利得センコトヲ企テ之ニ對スル謝金ヲ要求シ約束シ又ハ收受スルカ如キ或ハ該鋼管附屬品ノ納入竝上水道配水鋼管ノ埋設工事ヲ斡旋シテ利得センコトヲ企テ之カ納入又ハ工事ノ請負方ヲ勸誘シテ謝金ヲ要求シ收受スルカ如キ或ハ上水道用トシテ町ニ納入シタル鋼鐵管ノ肉厚ニ關シ契約當事者間ニ紛爭ヲ生シタル際該紛議解決方ノ斡旋ヲ爲シ鋼鐵管ノ納入者ニ對シ之カ謝金ヲ要求シ收受スルカ如キハ孰レモ敍上水道委員會ヲ構成スル水道委員ノ職務ニ關シ收

【要旨第二】

賄ヲ爲シタルモノニ外ナラスシテ被告人大貝龜吉ノ判示行爲カ收賄罪ヲ構成スヘキヤ疑ヲ容レスサレハ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

同第二點原判決ハ被告龜吉ニ對シ重大ナル事實ノ誤認アリ從テ不當ニ多額ノ追徵金ヲ科セシ違法アリ原判決法律適用ノ部ニ於テ被告人龜吉ヨリ金二百圓(四百圓ノ二分ノ一)金五百八十圓(千六百圓ノ分配額)金三百圓(單獨收受ノ分)金二百六十五圓(七百九十五圓餘ノ三分ノ一)金八十三圓三十三錢(二百五十圓ノ三分ノ一)以上五口合計金千四百二十八圓三十三錢ヲ追徵ス可キモノトシ主文ニ於テモ被告龜吉ヨリ同金額ヲ追徵セリ而シテ原判決第一ノ(一)ニ於テ右千六百圓ノ分配トシテ被告龜吉ハ五百八十圓ヲ收受セシ旨認定セルモ右千六百圓ノ分配方法ニ付テハ大野金之助 古野淺平 大貝龜吉ノ三名ノ各平均額四百三十圓ノ外ニ金之助ニハ後日面倒ナル事起リシトキノ取贖ヲ頼ミ一割ノ金額百六十圓ヲ増シ五百九十圓トシ龜吉ニハ同人カ右三名ノ爲ニ立替ヘ居リタル百五十圓ヲ返濟トシテ増シ五百八十圓トシ淺平ハ平均額四百三十圓ヲ分配シタルコトハ右三名ノ被告人トシテノ各豫審調書第一審公判調書中ニ於ケル右三被告人ノ其ノ旨ノ各供述ニ依リ明確ニシテ即被告龜吉ハ自己及金之助 淺平ノ爲立替ヘタル百五十圓ノ返濟ヲ受ケシモノナレハ金之助 淺平ヘノ立替金一百圓ハ同人等兩名ノ收得シタルモノニシテ龜吉ハ兩名ノ返濟ヲ受ケタルモノニ外ナラサルヲ以テ龜吉ノ收受金ハ右千六百圓ノ分配ヲ受ケシ金額ハ四百八十圓ナルコト算數上明ナリ然ルニ原判決ハ前記ノ如ク右分配ヲ受ケシ

金額ヲ五百八十圓ト認メ他ノ四口合計金千四百二十八圓三十三錢ヲ被告龜吉ヨリ追徴ヲ宣セシハ重大ナル著シキ誤認ニシテ從テ右追徴モ過多失當ニシテ結局不法タルヲ免レスト云フニ在レトモ數人共同シテ賄賂ヲ收受シ收賄罪成立シタル後犯人ニ於テ各自其ノ賄賂ヲ分割取得シタルモ之ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テハ共犯者各自ノ分配額ニ應ジテ其ノ價格ヲ追徴スルヲ正當ナリトスルコト最近判例(昭和九年(レ)第六一〇號同年七月十六日第一刑事部判決參照)ノ示ス所ノ如クナリトス此ノ見地ニ基キ所論原判示第一ノ一ノ收賄事實ニ關スル追徴處分ノ當否ヲ按スルニ此ノ點ニ對スル原判決ノ認定ハ被告人等三名ハ共謀ノ上吉永禎介ヨリ判示賄賂金千六百圓ヲ收受シタル上内金五百九十圓ハ之ヲ共犯者大野金之助ニ内金五百八十圓ハ之ヲ同大貝龜吉ニ内金四百三十圓ハ之ヲ同古野淺平ニ夫々分配シタルモ沒收スルコト能ハサルモノト爲シタルコト判文上明白ニシテ記錄ニ徵スルモ敍上ノ認定ニハ重大ナル過誤アルモノトハ認メ難キカ故ニ原判決ニハ所論ノ如キ追徴處分ニ關スル事實誤認ノ不法存在スルコトナシ論旨採ルニ足ラス

被告人大貝龜吉辯護人大塚春富上告趣意書第一點原判決ハ罪トナラサル事實ヲ有罪ト爲シタル違法アリ原判決事實摘示第一冒頭ニ於テ「被告人古野淺平同大貝龜吉原審相被告人大野金之助ハ共ニ遠賀郡中間町町會議員ニシテ昭和五年九月頃ヨリ同町ニ於テ上水道敷設ノ議起ルヤ舉ケラレテ水道調査委員トナリ昭和六年六七月頃同町町會ニ於テ右上水道敷設ノ件確定シ該工事實施ニ關スル事務處辨ノ爲メ

水道委員會設置セラルルヤ選任セラレテ其ノ委員トナリシカ右委員會ハ被告人等其ノ他合計九名ヨリ成リ百圓以上ノ經費支出其ノ他一般水道重要事務ニ關スル町長ノ諮問機關ニシテ兼テ工用材料ノ檢收ニ立會シ工事實況監督ノ職責ヲ有スルモノナル處右被告人等ハ其ノ職務ニ關シ「ト判示シ(一)トシテ「日本鋼管株式會社代理店ナル原審相被告人吉永禎介ヨリ水道用ノ鐵管トシテ鋼鐵管ノ採用盡力方懇請セラルルヤ共謀ノ上謝金名義ニヨリ利得センコトヲ企テ昭和六年十月頃小倉市延命寺町某料亭ニ於テ禎介ト會合シ被告人龜吉ハ被告人淺平等ヲ代表シ禎介ニ對シ鋼鐵管採用方盡力スヘク採用實現ノ上ハ謝金トシテ三名ニ對シ該納入金額ノ五分ニ相當スル金額ヲ交付スヘク又他ノ二名ニ祕シ別ニ自己一人ニ同一分餘ノ謝金ヲ交付スヘク要求シ禎介ノ承諾ヲ得被告人淺平同龜吉ノ兩名ハ同月二十六日遠賀郡折尾町省線折尾驛前某カフェニ於テ禎介ヨリ前記約旨ニ依リ被告人等三名ノ爲ニ金千六百圓ヲ受取り收賄シ尙其ノ際淺平 龜吉ノ兩名ハ禎介ヨリ別途ニ謝金四百圓ヲ受取り收賄シ右四百圓ハ淺平 龜吉兩名ニ於テ折半收得シ千六百圓ハ内五百九十圓ヲ金之助内五百八十圓ヲ龜吉内四百三十圓ヲ淺平ニ於テ夫々取得シ被告人龜吉ハ單獨ニテ更ニ同月二十八九日頃小倉市京町ナル原審相被告人禎介方ニ到リ同人ニ對シ前記謝金一分餘ノ約定ノ履行ヲ迫リ同人ヨリ金三百圓ヲ受取り收賄シ「ト判示セリ此ノ判決事實ヲ精讀スルニ被告等ノ公ノ職務ハ水道委員會ノ委員トシテ同委員會ハ百圓以上ノ經費支出其ノ他一般水道重要事務ニ關スル町長ノ諮問機關ニシテ兼テ工用材料ノ檢收ニ立會シ工事實況監督

ノ職責ヲ有セシモノト認定セリ而シテ被告人等カ相被告人タリシ吉永禎介ヨリ請託ヲ受ケタル事項ハ水道用ノ鋼鐵管ノ採用盡力方ニシテ其ノ盡力ニ對スル謝金トシテ被告人等三名ニテ千六百圓被告人淺平龜吉兩名ニテ四百圓被告人龜吉單獨ニテ三百圓ヲ收賄シタリト云フニアリ然ラハ被告人ノ金錢ノ受領ハ中間町上水道用ノ鋼鐵管ノ採用盡力方ニ關シテ約束收受シタルモノニシテ前示判示ノ公ノ職務ニ關シテ約束收受シタルモノニアラス水道用鋼鐵管ノ採用方ヲ町當局ニ紹介シ其ノ採用方ノ運動盡力ヲ爲スハ町會議員トシテモ右判示ノ水道委員トシテモ職務ノ範圍ニアラサルヲ以テ此ノ採用方ニ付盡力シタル謝金トシテ金錢交付ノ約束收受ヲ爲スモ收賄罪ヲ構成セサルコト明白ナリ原判決ハ「職務ニ關シ」又ハ「受取り收賄シ」ト判示セルモコハ職務ニ關セサル事實ヲ職務ニ關スト誤解シタル結果タル判示ニシテ判示具體的事實ニ照シ相添ハサル判示タルモノナレハ犯罪事實ノ判示トシテ正當ナラサルコト明瞭ナリ然レハ原判決ハ收賄罪トナラサル事實ヲ罪トナシタル違法アルモノト確信ス假リニ水道用鋼鐵管ノ採用ソノモノカ水道委員會ノ職務範圍ナリトセハ其ノ旨ノ判示ヲ要シ其ノ範圍ナリトスル證據ヲ明示スヘキニ拘ハラズ原判決ハ鋼鐵管ノ採用ハ水道委員會又ハ水道委員即被告人等ノ公ノ職務範圍ナリトノ判示ヲ缺クモノニシテ原判決ハ犯罪事實ニ付判示理由ヲ缺クノ違法アルモノト云フヘシ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

苟モ公務員其ノ職務ニ關シ或ル利益ヲ要求シ約束シ又ハ收受シタルトキハ賄賂罪ヲ構成スヘキモノト

ス原判示ニ從ヘハ被告人ハ中間町水道委員會ヲ構成スル水道委員ニシテ水道委員會ハ町長ノ諮問機關ニシテ上水道工事實施ニ關スル重要事項ノ諮問ニ應シ意見答申ヲ爲スノ職責ヲ有スルコト明ナリ而シテ被告人ハ水道委員在職中吉永禎介ヨリ水道用鐵管トシテ鋼鐵管ノ採用盡力方ヲ懇請セラレ謝金名義ヲ以テ利得センコトヲ企テ判示ノ如ク金員ヲ要求シ約束シ收受シタリト云フニ在レハ其ノ行爲ノ職務ニ關スルモノナルコト辯ヲ竣タス蓋シ法ニ所謂職務ニ關シトハ單ナル事實認定ノ問題ニ非スシテ其ノ不正ノ利益ニ關係スルコトカ公ノ機關タル公務員ノ職務上ノ地位ヨリ觀察シテ職務執行ノ公正ヲ疑ハルルモノナリヤ否ヲ標準トシテ決スヘキ價值判斷ノ問題ニ屬スルノミナラス水道委員ノ公職ニ在リ水道工事實施ニ關シテ鋼管ヲ使用スヘキヤ否ヤノ如キハ重要事項トシテ水道委員ニ諮問セラレヘキコト勿論ニシテ水道委員カ其ノ諮問ニ應シ意見ヲ發表シ答申ヲ爲スノ職責アルモノナルコト亦辯ヲ竣タサル所スノ如キ職務上ノ地位ニ在ル公務員カ人ノ請託ヲ容レ鋼鐵管採用方ノ盡力ヲ爲スヘキ旨ヲ約シ謝禮ヲ要求シ約束シ收受スルカ如キハ其ノ行爲自體職務ノ公正ヲ疑フニ足り收賄罪ヲ構成スルコト疑ナケレハナリ若シ夫レ論旨後段假定論ノ如キハ前顯水道委員ノ職務ノ性質ニ照シ當然ノ事項ニシテ判文ニ特ニ註釋ノ判示スルヲ必要トスルモノニ非ス又證據説明ヲ爲スヲ必要トセスサレハ原判決ニハ所論ノ如ク擬律錯誤又ハ理由不備ノ不法アルコトナシ論旨理由ナシ

同第二點原判決理由犯罪事實摘示第一冒頭ハ第一點ニ記載シタル通りナルカ其ノ(二)トシテ「更ニ

被告人等三名ハ共謀ノ上禎介ニ對シ該鋼管附屬品ノ納入竝ニ上水道配水鋼管埋設工事ヲ斡旋シ以テ利得センコトヲ企テ禎介ニ對シ鋼管附屬品ノ納入ヲ爲サシムヘク又又配水鋼管埋設工事ノ利得ヲ得セシムヘク盡力スヘキ旨稱シテ謝金ノ要求ヲ爲シ昭和七年二月二日ヨリ同年四月七日迄ノ間數回ニ互リ小倉市京町ナル禎介方其ノ他ニ於テ謝金等ノ名義ノ下ニ合計金七百九十五圓餘ヲ同人ヨリ受取收賄シト判示シタリ此ノ判示ニヨレハ被告人ノ金錢受領ノ原因ハ鋼管附屬品ノ納入及上水道配水鋼管埋設工事ヲ町當局ニ斡旋盡力ノ謝金ナリシコト明白ニシテ是等事項ノ斡旋盡力カ被告人等ノ町會議員タリ水道委員タル公ノ職務範圍ナルコトノ判示ヲ缺クノミナラス是等ノ事項ハ公ノ職務ニアラサルヲ以テ之ニ關シ金錢ヲ受領スルモ公ノ職務ニ關スル犯罪タラサルモノトス原判決事實理由第一冒頭ノ摘示ニヨレハ水道委員會ノ職務內容トシテ百圓以上ノ經費支出其ノ他一般水道重要事項ニ關スル町長ノ諮問機關ニシテ兼テ工用材料ノ檢收ニ立會シ工事實況監督ノ職責ヲ有スル旨判示スレトモ前記鋼管附屬品ノ納入竝ニ上水道配水鋼管埋設工事採用決定カ水道委員會ノ職務ナリヤ否ヤニツキテハ判示ヲ缺クカ故ニ當然ニ其ノ職務範圍ナリトハ到底認ムルヲ得サルノミナラス本來如斯事項ハ執行機關タル町當局ノ決定スヘキ事項ニシテ水道委員會ノ職務事項ニアラス本件鋼管附屬品ノ納入竝ニ上水道配水鋼管埋設工事採用決定カ水道委員會ノ諮問事項ナリシヤ否ヤモ原判決判示不明ナリ然レハ即チ原判決ハ罪トナラサル事實ニ付收賄罪トナシタル違法アルカ犯罪事實トシテノ摘示不備(犯罪事實理由不備)ノ違

法アルモノト確信スト云フニ在レトモ

原判示ニ依レハ中間町水道委員ハ町長ノ諮問ニ應シ上水道工事ニ關スル重要事項ニ付意見答申ヲ爲スヘキ職務權限ヲ有スルコト明ニシテ被告人カ判示水道委員トシテ在職中所論判示ノ如ク水道工用鋼管附屬品ノ納入竝其ノ配水鋼管埋設工事ヲ斡旋シテ利得センコトヲ企テ吉永禎介ニ對シ判示ノ如ク其ノ納入竝配水工事ノ請負方ヲ斡旋シテ謝金ヲ要求シ判示金員ヲ收受シタル事實ナレハ前點論旨ニ對シ説明シタルカ如ク被告人ノ行爲カ水道委員トシテ職務執行ノ公正ヲ疑ハルルニ足り瀆職罪ヲ構成スヘキヤ辯ヲ埃タス然リ而シテ水道用鋼管ノ附屬品ノ買入或ハ配水鋼管埋設工事カ理事者トシテ町長ノ職務權限ニ屬シ直接水道委員ノ職務權限ニ屬セサルコト所論ノ如シトスルモ水道委員ハ屢次説明シタル如ク理事者タル町長ノ諮問機關ニシテ所論事項ニ付テモ水道工事實施ニ關スル重要事項トシテ町長ノ諮問ヲ受ケ之ニ意見答申ヲ爲スヘキ職責アルモノナレハ職務ニ關係ナキモノト云フヲ得ス原判決ニハ所論ノ如ク擬律錯誤又ハ理由不備ノ不法アルコトナシ論旨理由ナシ

同第三點原判決理由犯罪事實摘示第一冒頭ハ第一點ニ記載シタル通りナルカ其ノ(三)トシテ「原審相被告人禎介ト中間町當局間ニ締結セラレタル鋼鐵管納入契約中該鐵管ノ肉厚ニ付明確ナル協定ナカリシ爲昭和七年二月頃ヨリ右肉厚ノ分率ニ付中間町當局ト禎介トノ間ニ紛争ヲ惹起スルニ至リタルカ被告人等ハ共謀ノ上右紛争解決ノ斡旋ヲ爲シ禎介ヨリ謝金ヲ得ンコトヲ企テ昭和七年四月十一日被告

人龜吉方ニ於テ禎介ニ對シ肉厚問題ヲ有利ニ解決シ遣ルヘキニヨリ運動費トシテ金五百圓ヲ提供セヨト要求シ同人ヨリ同所ニ於テ即日金百圓翌五月四日被告人龜吉方ニ於テ禎介ノ店員小山銀市ノ手ヲ經テ金百五十圓ヲ受取り收賄シタルモノ……ト判示セリ此ノ判示ニヨレハ被告人等ノ受領シタル金錢ハ鐵管肉厚問題ニ付町當局ト禎介間ノ紛争ヲ禎介ニ有利ニ解決斡旋ノ謝金運動費ナルコト明白ニシテ此ノ肉厚問題ノ解決カ被告人等ノ職務ナルコトノ判示ヲ缺クモノナリ町當局ト禎介間ノ紛争ヲ解決スルコトカ當然ニ被告人等ノ水道委員トシテ又ハ町會議員トシテノ職務ニアラサルコトハ明白ナリナルカ故ニ之ヲ犯罪事實ナリト爲サンカ爲ニハ其ノ職務ナルコトノ判示ヲ必要トスヘク又原判決犯罪事實摘示第一ノ冒頭ニ判示セル水道委員會ノ職務範圍中ニ右水道鐵管肉厚ノ分率ニ關スル事項決定ヲ含ムモノナリヤ否ヤ全ク不明ナルノミナラス之ヲ諮問事項トナシタルコトノ判示中認ムヘキモノナシ然ラハ原判決ハ犯罪トナラサル事實ヲ收賄罪ト認メタル違法アルカ又ハ犯罪事實理由不備ノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ

所論水道委員カ町長ノ諮問機關ニシテ所論上水道工事實施ニ付重要事項ノ諮問ニ應シ意見答申ヲ爲スヘキ職責ヲ有スルコト前點論旨ニ對シ説明ノ如クナル以上當該上水道工事ニ關シ町對吉永禎介間ニ締結セラレタル工所用鋼鐵管ノ肉厚ニ關シ紛争ヲ生シタル場合之ヲ如何ニ解決スヘキヤハ水道委員ニ諮問スヘキ重要事項タルヲ失ハス從テ被告人カ公務員タル中間町ノ水道委員ニ在職中所論判示ノ如ク町

對吉永禎介間ノ鋼鐵管納入契約中鋼鐵管ノ肉厚ニ關シ紛争ヲ生シタルニ際シ之ヲ禎介ノ爲有利ニ解決方斡旋ノ上謝金ヲ得ント企テ判示ノ如ク運動費トシテ金員ヲ收受シタルトキハ即チ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノニシテ瀆職罪ヲ構成スルコト疑ヲ容レス然リ而シテ判示ノ如ク水道委員ノ職責ヲ明示シアル以上納入鋼管肉厚ニ關シ契約當事者間ニ紛争ヲ生シタル場合之ヲ如何ニ解決スヘキヤハ上水道工事實施ニ關スル重要事項ニ屬シ之ヲ水道委員ニ諮問スヘキモノナルコト勿論而シテ之ニ對シ水道委員カ意見答申ヲ爲スノ職責ヲ有スルコト辯ヲ埃タサル所ナレハ如斯職務ノ範圍内容ニ付テハ必スシモ判文ニ一々之ヲ明示スルヲ要スルモノニ非スト解スヘキカ故ニ其ノ之ヲ明記セサリシトスルモ判決理由ニ不備アルモノト爲スニ足ラス原判決ニハ所論ノ如ク擬律錯誤又ハ理由不備ノ違法アルコトナシ論旨理由ナシ

同第四點原判決理由事實摘示第一ノ一摘示ニヨレハ……被告人龜吉ハ被告人淺平等ヲ代表シ禎介ニ對シ鋼鐵管採用方盡カスヘク採用實現ノ上ハ謝金トシテ三名ニ對シ該納入金額ノ五分ニ相當スル金額ヲ交付スヘク又他ノ二名ニ補シ別ニ自己一人ニ同一分餘ノ謝金ヲ交付スヘク要求シ禎介ノ承諾ヲ得……ト判示シ尙「被告人龜吉ハ單獨ニテ更ニ同月二十八九日頃小倉市京町ナル原審相被告人禎介方ニ到リ同人ニ對シ前記謝金一分餘ノ約定ノ履行ヲ迫リ同人ヨリ金三百圓ヲ受取り收賄シ」ト判示シタリ仍ツテ此ノ事實ニ對スル原判決ノ摘示スル證據ヲ見ルニ被告人大貝龜吉ニ對スル豫審第二回訊問調書

中小倉市ニ於ケル料亭ニテノ會合ノ際吉永ハ私等ニ鋼管ハ利益少キモノナルカ若シ御盡力ニヨリ鋼管採用ニ爲ルトスレハ三分位ノ御禮ヲスルト申出タルニ大野ハ一割位ハ呉レテモ宜カラウト言ヒ出シタル故吉永ハ私ニ其ノ折合ヲ執ツテ貰ヒタイト申スニ依リ私ト吉永ハ別室ニ行キ色々話シタル結果先方ハ五分出サウ而シテ五分テ話カ出來ルトスレハ別ニ一分何厘カラ私ニ謝禮仕様ト申シタリ夫レテ私ハ其ノ五分ノ事ヲ大野等ニ話シ結局五分ニ纏リタル旨ノ供述記載及被告人吉永禎介ニ對スル豫審第二回訊問調書中十二月二十八日ノ事ナリシ大員カ一人私方ニ來リ約束ノ金ヲ呉レト申シタルニ依リ……仕方ナク私モ承知シテ三百圓出シテ遣リタル旨ノ供述記載等ヲ判示セリ是等原判決摘示ノ證據ニヨレハ右被告人龜吉カ單獨ニテ禎介ヨリ昭和六年十月二十八日頃受領シタル金三百圓ハ原判決第一ノ一事實摘示ノ如ク鋼鐵管採用方盡力スヘク採用實現ノ上ハ謝金トシテ他ノ二名ニ祕シ被告人龜吉一人ニ別ニ同一分餘ノ謝金ヲ交付スヘク要求シ禎介ノ承諾ヲ得タル事實ニアラスシテ鋼鐵管採用方盡力ニ對スル被告人等三名ニ對スル謝金ノ歩合ニ付禎介ハ三分ト云ヒ大野ハ一割ヲ主張シタルニヨリ其ノ折合交渉ヲ特ニ吉永禎介カ龜吉ニ依頼シ大野モ讓歩シ結局五分ト協定成立スルニ至リタルモ其ノ謝禮ノ意味ナリシコト明白ニシテ何等龜吉カ町會議員トシテ又ハ水道委員トシテノ職務ニ關係ナキ金錢ナルコト極メテ明白ナリト云フヘシ然レハ原判決判示證據ニヨレハ右龜吉ノ單獨受領ノ三百圓カ右判示事實ヲ認定シ得サルモノニシテ此ノ點ニ於テ原判決ハ犯罪事實摘示ニ對スル證據理由不備又ハ事實ト證據

ト理由ニ齟齬ノ違法アルカ或ハ犯罪タルヘキ事實ニ付顯著ナル誤認アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

苟モ公務員其ノ職務ニ關シ金員ヲ收受スルトキハ其ノ收受ノ理由如何ニ不拘濫職罪ヲ構成スヘキモノトス所謂原判第一ノ一ノ事實中金三百圓ニ關スルモノハ判示事實自體明ナルカ如ク被告人等三名カ共謀ノ上判示吉永禎介ヨリ水道用鐵管トシテ鋼鐵管ノ採用盡力方懇請セラルルヤ謝金名義ヲ以テ利得センコトヲ企テ被告人龜吉ハ共謀者ヲ代表シ禎介ニ對シ鋼鐵管採用方盡力スヘク採用實現ノ上ハ謝金トシテ三名ニ對シ該納入品金額ノ五分ニ相當スル金額ヲ交付スヘク又他ノ二名ニ祕シ別ニ自己一人ニ同一分餘ノ謝金ヲ交付スヘク要求シ禎介ノ承諾ヲ得其ノ後該約束ニ基ク金員ノ交付ヲ要求シ金三百圓ヲ收受シタル事實ナレハ被告人ノ行爲カ公務員タル水道委員トシテ職務ニ關係ナシト云フヘカラス若シ夫レ所論ノ如ク判示ノ三百圓ハ贈收賄ノ約束ヲ爲スニ當リ當事者間ニ其ノ數額ニ付爭ヲ生シ被告人ハ一面其ノ兩者間ニ介在シ贈賄者ノ爲ニ利益ニ解決シ其ノ條件トシテ別ニ贈賄者禎介ヨリ一定ノ金員ノ交付ヲ要求シ約束シタル末三百圓ヲ收受シタルモノニシテ贈收賄金額ノ協定ニ盡力シタル報酬ニ過キストスルモ水道委員トシテ上水道工事ノ實施ニ關シ町長ヨリ重要事項ノ諮問ヲ受ケ之ニ對スル意見答申ヲ爲スノ職責ヲ有スル被告人カ職務ニ關シ收賄ヲ爲スニ當リ其ノ收賄額ノ協定ニ付盡力シ之ニ對スル報酬ヲ受クルカ如キハ水道委員トシテ職務執行ノ公正ヲ疑ハルモノニシテ其ノ受ケタル金員ノ

性質理由如何ニ不拘職務ニ關スル賄賂ナリト解スルヲ妨ケス論旨理由ナシ

同第五點原判決被告人龜吉ニ對スル犯罪事實トシテ理由第一(一)(二)(三)ノ事實ヲ摘示シ何レモ其ノ職務ニ關シ金錢ヲ受取り收賄シタルモノナリト判示シタリ然ルニ原判決ノ證據摘示ヲ精査スルニ單ニ水道委員會ノ諮問機關トシテ職責ノ内容ヲ抽象的ニ判示シタル事實ニ相當スル相被告人ナリシ淺平ノ原審公庭ニ於ケル供述ヲ採用シ其ノ他上告趣意書第四點ニ述ヘタル證據ヲ除キ右(一)(二)(三)ノ各金錢受領ニ關スル事實ヲ認ムヘキ證據ヲ摘示スレトモ此ノ金錢受領カ公務即チ被告龜吉等ノ町會議員乃至水道委員タル公務員ノ職務ニ關シ受領シタルコト又ハ約束要求シタルコトヲ認ムヘキ證據資料ノ摘示全然ナキモノニシテ原判決ハ收賄罪ノ構成要件タル公務ニ關スル利益ノ點ニ付證據理由ヲ缺クモノニシテ犯罪ニ對スル證據理由不備ノ違法アリト確信スト云フニ在リ

按スルニ收賄罪ノ構成ニ必要トスル金錢其ノ他ノ利益ト其ノ利益カ公務員ノ職務ニ關係ヲ有スルヤ否ヤノ問題ハ事實ノ判斷ニ非スシテ法律上價值ノ判斷ニ屬スルモノトス從テ之ニ對シ法律ノ解釋論ヲ爲スハ格別證據説明ヲ爲シ得ヘキモノニ非サルト同時ニ證據ニ依リテ説明スヘキモノニ非サレハ原判決カ其ノ點ニ付特段ノ説明ヲ爲ササレハトテ證據理由不備ヲ以テ論スヘキ限リニ在ラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

敍上ノ理由ニ基キ本件上告ハ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○瀆職被告事件(昭和九年(レ)第九一號
同年十月九日第四刑事部決定) 事實審理)

【上告人】 被告人 藤井熊太郎 辯護人 (遠山丙市
日下謙吾)

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

判決ノ言渡ヲ爲ササル裁判長ノ署名捺印シタル言渡調書ノ效力

○決定要旨

判決言渡調書ニ裁判長トシテ署名捺印シタル者ト公判廷ニ裁判長トシテ列席シタリト記載セラレアル者トカ別異ナルトキハ該公判調書ハ無効ナルモノトス

判決ノ言渡ヲ爲ササル裁判長ノ署名捺印シタル言渡調書ノ效力

【参照】 刑事訴訟法第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲ス

ヘシ

公判廷ハ判事檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

同法第六十三條 公判調書ニハ裁判長、裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

同法第六十四條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リテ之ヲ證明スル

コトヲ得

○ 事 實

第二審判決言渡調書ニ於ケル記載ハ上告理由中ニ抽出スル所ノ如シ

○ 主 文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

○ 理 由

辯護人遠山丙市上告趣意書第二點原審ハ公判手續ニ於テ法律ニ違反シタル違法アリ刑事訴訟法第六十三條第二項ニハ「裁判長差支アル時ハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シ署名捺印スヘシ」ト規定シ又同法第四百九條ニハ「上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスル

トキニ限り之ヲ爲スコトヲ得」ト規定ス而シテ原審ニ於ケル公判ハ第一回ヨリ第十回迄裁判長ハ石坂修一氏ナリ然ルニ原審第十一回公判調書ヲ見レハ第十一回公判調書被告人藤井熊太郎右瀆職被告事件ニ付昭和九年四月二十三日東京地方裁判所第八刑事部法廷ニ於テ裁判長判事正田光治 判事藤島利郎 判事長谷部茂吉 裁判所書記佐藤熊雄列席ノ上檢事田中己代次立會公判ヲ開廷ス被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受ケス裁判長ハ判決ノ宣言ヲ爲ス旨ヲ告ケ判決主文ヲ朗讀シ同時ニ理由ノ要旨ヲ告ケ且上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知シタリ昭和九年四月二十三日東京地方裁判所第八刑事部裁判所書記佐藤熊雄 裁判長判事石坂修一 是レ明カニ前掲刑事訴訟法第六十三條第二項ニ違反シ且同法第四百九條ニ該當スルモノニシテ此點ヨリ見ルモ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノナリト云ヒ」辯護人日下謙吾上告趣意書第一點原判決ハ裁判所ノ構成竝ニ公判ニ於ケル手續ノ適法ナルヤ否ヤ知ルニ由ナキヲ以テ破毀ヲ免レス公判調書ハ公判ニ立會ヒタル裁判長カ書記ト共ニ署名捺印スヘク而シテ公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リテ證明シ得ヘキコトハ刑事訴訟法第六十三條及第六十四條ニ徴シ明瞭ニシテ其ノ事理ハ苟モ公判調書ナル以上取調ノ公判ナルト判決言渡ナルトニヨリ差異アルコトナシ而シテ公判ニ立會ヒタル裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘキコト刑事訴訟法第六十三條第二項ノ規定スル處ナレハ裁判長ニ差支アル場合ニ於テモ漫然公判ニ關與セサリシ判事ヲシテ署名捺印セシムヘキモノニ非ス從テ公判ニ立會ヒ判決ヲ言渡シタル

判決ノ言渡ヲ爲ササル裁判長ノ署名捺印シタル言渡調書ノ效力

裁判長ト該言渡公判調書ニ署名シタル裁判長トカ別異ナルコト明白ナル以上ハ該公判調書ハ何等公判ニ關與セス權限ナキ裁判長ニ於テ署名シタル無効ノモノニシテ之ニ依リテ何人カ裁判長トシテ列席シ又何人カ裁判長トシテ言渡ヲ爲シタルヤ即チ其ノ公判ニ於ケル裁判所ノ構成及訴訟手續ノ適法ナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキモノニシテ果シテ其ノ言渡カ適法ニ爲サレタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキモノトス
 ヲテ本件記録ヲ査スルニ第一五八八丁十一回公判調書ニハ裁判長正田光治 判事藤島利郎 判事長谷部茂吉 裁判所書記佐藤熊雄列席ノ上檢事田中己代次立會公判ヲ開廷スト記載シアリ 裁判長トシテ正田光治列席シタルコト右調書前半ニ於テ明白ナルニ不拘同調書ノ末尾ニハ判事石坂修一カ裁判長トシテ署名捺印シ居リ何等右公判ニ關與セス從テ判決ヲ言渡ササルモノト思料セラルル判事ノ署名捺印ナルヲ以テ右第十一回公判調書ハ無効ナリト謂ハサルヘカラス然ラハ第十一回公判ニ於ケル裁判長カ石坂修一カ正田判事ナリヤ即チ裁判所ノ構成及訴訟手續ノ適法ナルヤ否ヤヲ認識スルニ由ナシ而シテ右違法ハ判決ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキコト明白ナルカ故ニ原判決ハ當然破毀サルヘキモノトス
 參考判例一、御院昭和二年(れ)第九〇四號同年九月十日第三刑事部決定二、御院大正十五年(れ)第一〇三四號同年八月二十八日刑事第四部決定三、御院大正十四年(れ)第二一〇號同年三月二十七日第一刑事部判決尙斯ル場合ニ刑事訴訟法第四百十一條ノ適用アルニ非サルヤトノ說ナキニシモ非スト雖同條ハ判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナル場合ト規定シテ敍上所論ノ如ク裁判所ノ構成並其ノ公判ニ

於ケル手續ノ適法ナルヤ否ヤ從テ判決言渡カ適法ナリヤ否ヤノ如ク判決ノ效力ニ影響ヲ及ホス場合ニ適用スヘキモノニ非サルコト極メテ明ナリト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ公判調書ニハ公判廷ニ列席シタル裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘキモノニシテ又公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明シ得ヘキモノナルコトハ刑事訴訟法第三百二十九條第六十三條第六十四條ノ規定ニ照シ明瞭ナリ然レハ公判調書ニ裁判長トシテ署名捺印シタルモノト公判廷ニ裁判長トシテ列席シタルト記載セラレアル者トカ別異ナルコト其ノ調書ニ依リ明白ナルトキハ裁判長トシテ公判廷ニ列席シ從テ當該公判調書ニ署名捺印スヘキ權限アル者ハ何人ナルカ不明ナリト云フヘク斯ル公判調書ハ無効ノモノニシテ之ニ依リ其ノ公判ニ於ケル裁判所ノ構成及訴訟手續ノ適法ナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキモノト爲ササルヘカラス記録ヲ査閱スルニ原審第十一回公判調書ニハ裁判長判事正田光治 判事藤島利郎 判事長谷部茂吉 裁判所書記佐藤熊雄列席ノ上檢事田中己代次立會公判ヲ開廷シ裁判長ハ判決ノ宣告ヲ爲シタル旨ノ記載アリテ而モ同調書ノ末尾ニ裁判長判事石坂修一ノ署名捺印存スルコト明ナレハ公判廷ニ列席シテ本件判決ノ宣告ヲ爲シタル裁判長ノ何人ナルカ從テ右調書ニ署名捺印スヘキ權限アル裁判長ノ何人ナルカ不明ニ歸シ右公判調書ハ無効タルヲ免レサルヲ以テ原審第十一回公判ニ於ケル裁判所ノ構成及訴訟手續ノ適法ナルヤ否ヲ認識スルニ由ナキモノトス而シテ右ノ違法ハ本件事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ論旨ハ理由アリ依テ爾餘ノ各論旨

判決ノ言渡ヲ爲ササル裁判長ノ署名捺印シタル言渡調書ノ效力

ニ對スル説明ヲ省キ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス
檢事松阪廣政關與

14311 (180)

○治安維持法違反被告事件(昭和九年(九)第九七五號 棄却)
(同年十月九日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 後藤壽夫 辯護人 (辻守太郎 鈴木力三 義三郎 男)

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

日本共產黨ト國際共產黨トノ關係及其ノ目的ノ公知性

○判決要旨

日本共產黨カモスコニ本部ヲ有スル國際共產黨ノ日本支部ナル
コト及同黨力暴力革命ニ依リ我國存立ノ大本タル君主國體ヲ變革

シ無産者階級獨裁ノ政權ヲ樹立シ且私有財産制度ヲ否認シ共產主
義社會ヲ建設センコトヲ目的トスル非合法ノ結社ナルコトハ裁判
所ニ顯著ナル事實ナルヲ以テ證據ニ依リ之ヲ認めタル理由ヲ説明
スルノ要ナキモノトス

【參照】 治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又
ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以
上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲
ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者結社ニ加入シタル
者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ
處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之
認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由又ハ刑ノ加重減免ノ事由タル事實上ノ主張ア
リタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

日本共產黨ト國際共產黨トノ關係及其ノ目的ノ公知性

14311 (181)

日本共産黨ハモスコロニ本部ヲ有スル國際共産黨ノ日本支部ニシテ暴力革命ニ依リ我國存立ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無產者階級獨裁ノ政權ヲ樹立シ依テ私有財産制度ヲ否認シ共産主義社會ヲ建設セントコトヲ目的トスル秘密結社ナルトコロ

被告人後藤壽夫ハ第五高等學校ヲ經テ大正十二年三月東京帝國大學法學部政治科ニ入學シ新人會等ニ加入シテ社會科學ノ研究ニ從事シ漸次共産主義ヲ信奉スルニ至リ爾來文藝作家トシテ其ノ意向ヲ展ヘ全日本無產者藝術聯盟並所謂ナツプ所屬ノ日本無產者作家同盟ニ順次加盟シ尙右在學中大正十五年三月所謂京大學聯事件ニ連座シテ治安維持法違反ノ罪ニ依リ起訴セラレ昭和四年十二月十二日大阪控訴院ニ於テ禁錮二年ニ處セラレ之ニ對シ上告ヲ爲シ昭和五年五月二十七日上告棄却ノ結果右裁判確定シ昭和五年七月以降其ノ刑ノ執行ヲ受ケ了リタルモノナルカ之ヨリ先昭和三年九月中當時ナツプ方面ニ於ケル同黨ノ活動資金調達ノ責任者タリシ藏原惟人ヨリ同黨活動資金ノ醸出方ヲ依頼セラレ同黨カ前示ノ如キ目的ヲ有スル結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ其ノ頃ヨリ翌昭和四年一月頃迄ノ間前後五回ニ舊東京府豊多摩郡杉並町高圓寺六十五番地ナル同被告人ノ當時ノ居宅ニ於テ右藏原惟人ニ合計金五十圓同年九月初頃ヨリ翌昭和五年一月末頃迄ノ間前後四回ニ前同所四十番地ナル同被告人ノ當時ノ居宅ニ於テ同シクナツプ方面ノ集金責任者タル大河内信威(昭和四年十月中旬ヨリ右藏原ニ代ル)或ハ永田一脩ニ合計金百七十圓總計二百二十圓ヲ夫々交付シ以テ同黨ニ活動資金ノ供與ヲ爲シ

以テ同黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ改正治安維持法第一條第一項後段並同條第二項ニ該當シ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ刑ニ從ヒ有期懲役ヲ選擇シ犯情憫諒スヘキモノアリト認メ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ則リ酌量減輕ヲ爲シタル上其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘキモノトス

尙第二審判決ハ其ノ證據説明ノ部ニ於テ日本共産黨カ判示ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトハ公知ノ事實ナリト記述シ同黨カモスコロニ本部ヲ有スル國際共産黨ノ日本支部ナリトノ事實ニ付テノ證據ヲ說示スル所ナシ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人今村力三郎上告趣意書第二點原判決ハ證據理由不備ノ違法アリ原判決ハ事實理由ノ冒頭ニ於テ「日本共産黨ハモスコロニ本部ヲ有スル國際共産黨ノ日本支部ニシテ暴力革命ニ依リ我國家存立ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無產者階級獨裁ノ政權ヲ樹立シ依テ私有財産制度ヲ否認シ共産主義社會ヲ建設セントコトヲ目的トスル秘密結社ナルトコロ云々」ト認定シ其ノ證據理由ノ部ニ「日本共産黨

カ判示ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトハ公知ノ事實ニシテト説示シタリ然レトモ日本共産黨ナルモノノ目的ハ如何ナルモノナリヤハ同黨ノ目的政策綱領ハ公表ヲ許ササルモノナルヲ以テ一般ニ知ラルルノ理ナク我國國民ノ大多數ニ於テハ日本共産黨ノ存在スラ知ラサル状態ナルニ原判決ハ此事實ヲ無視シ日本共産黨カ判示ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトハ公知ノ事實ナリト説示シタルハ證據理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

日本共産黨カ原判示ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトハ裁判所ニ顯著ナル事實ナリト云フヲ妨ケサルヲ以テ特ニ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明スルノ要ナシ原判決力之ヲ公知ノ事實ナリト説示セルハ畢竟此ノ趣旨ニ外ナラサルモノト解スヘキヲ以テ證據理由不備ノ違法アルコトナシ論旨理由ナシ

辯護人鈴木義男上告趣意書第三點原判決ハ其ノ事實理由ノ冒頭ニ於テ「日本共産黨ハモスコトニ本部ヲ有スル國際共産黨ノ日本支部ニシテ暴力革命ニ依リ我國家在立ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無產者階級獨裁ノ政權ヲ樹立シ依テ以テ私有財産制度ヲ否認シ共產主義社會ヲ建設センコトヲ目的トスル秘密結社ナルトコロ云々」ト認定シタリ然ルニ其ノ證據説明ノ部ニハ「日本共産黨カ判示ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトハ公知ノ事實ニシテ」同黨ノ目的ニ付テノ認識ノ點ハ被告人壽夫第三回訊問調書中判示同旨ノ供述記載」ト説明スルノミニシテ原判決認定ノ如ク日本共産黨ハモスコトニ本部ヲ

有スル國際共産黨ノ日本支部ナリトノ證據ハ毫モ之ヲ舉示スル所ナシ尤モ原判決ハ其ノ證據説明ノ部ニ「爾餘ノ事實ハ凡テ被告人後藤壽夫ニ對スル豫審第二回訊問調書中判示同旨ノ供述記載」ト説明シアルヲ以テ之カ證據ナリトセンカ同豫審調書ヲ閱スルニ日本共産黨ハモスコトニ本部ヲ有スル國際共産黨ノ支部ナリトノ供述記載一モ存スルトコロナシ然ラハ原判決ハ此ノ點ニ於テ證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルカ又ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

日本共産黨カモスコトニ本部ヲ有スル國際共産黨ノ日本支部ナルコトハ裁判所ニ顯著ナル事實ナルヲ以テ判決中特ニ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説示スルノ要ナケレハ原判決力其ノ證據ヲ舉示セザリシトスルモ違法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○業務上過失船舶破壞被告事件(昭和九年(れ)第一〇四八號 棄却)

(昭和九年十月十五日第二刑事部判決)

一四三八 (188)

【上告人】 被告人 石神英行 辯護人 都竹要次郎

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

入港船ノ注意義務

○判決要旨

入港船ノ船長ハ常ニ港内ニ注意シ出港船ノ進路ノ障害トナルヘキ危険ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ義務アルモノトス

【參照】 開港々則施行規則第十條 汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船

ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進路ヲ避クベシ

同第十一條 汽船ハ港界内及港界附近ニ於テハ他船ニ危害ヲ及ホササル程度ニ速力

ヲ減ジテ航行スベシ

船舶ハ港界内ニ於テハ帆ヲ減シ又ハ曳船ヲ用キテ航行スベシ但シ航路内横濱港東

水堤燈臺及北水堤燈臺附近門司港界内及長崎女神内ニ於テハ縫航スベカラス

同第十三條 航路ヲ横切ラムトスル船舶ハ航路ヲ航行スル他船ノ進路ヲ避クベシ

航路ニ於テ行達ヒタル船舶ハ互ニ航路ノ右側ヲ航行スベシ

船舶ハ航路ニ於テ他船ヲ追越スベカラス

同第十五條 船舶ハ防波堤埠頭又ハ繫泊船等ノ一端ヲ右舷ニ見テ通航スルトキハ之

ニ近寄り左舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ遠ザカリテ航行スベシ

海上衝突豫防法第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中

流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スベシ

同法第二十九條 本法ハ點燈信號又ハ見張ノ意リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置

ニ必要ナル注意ノ意リヨリ生シタル結果ニ付船主船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レ

シメサルモノトス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ百日間勞務場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ甲種船長ノ海技免狀ヲ受有シ明治海運株式會社所有汽船明海丸(總噸數三千九百九十三噸)ニ船長トシテ乗組ミ其ノ業務ニ從事シ居リタルモノナルトコ昭八八年二月二日午後四時五分頃石炭四千四百貳噸ヲ搭載シテ小樽港ヨリ横濱港外ニ到著シ同港東水堤燈臺(白燈臺)ヨリ南五十四度東約千米ノ地點ニ假碇泊シタルカ間モナク横濱稅關港務部ヨリ同港内第二十六番繫船浮標ニ繫留スヘキ旨指定ヲ受ケタルヲ以テ同港内ニ入港センカ爲同日午後四時十五分頃右假碇泊所ヨリ拔錨シ船首ヲ北々西ニ向ケ時速約三浬ニテ進行シ間モナク左轉シテ船首ヲ同港北水堤燈臺(西水堤燈臺)トモ稱シ紅燈臺ヲ

入港船ノ注意義務

一四三九 (187)

リ)ニ向ケタル頃同港内第七番浮標ニ繫留シ居リタル大阪商船株式會社所有汽船山陽丸(總噸數八千三百六十五噸船長平野清人)カ船名旗ヲ掲揚シ右浮標ヲ離レテ將ニ進行ヲ開始セントスルヲ認メタルカ斯ル場合入港船ノ船長ハ常ニ港内ニ注意シ出港船ノ進路ノ障害トナルヘキ危險ノ發生ヲ未然ニ防止シ殊ニ出港船ト防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ甚シク危險ナルヲ以テ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進路ヲ避ケ以テ衝突等危險ノ發生ヲ防止スヘキ業務上ノ義務アルニ拘ラス被告人ハ右山陽丸カ出港船ニシテ港門ニ向ケ進行シ來ルコトアルヘキヲ慮ラス尙モ進行ヲ續ケ同港北水堤燈臺ヲ少シク右舷ニ望ミ得ル地點ニ迄進行シタル際初メテ右山陽丸カ同港ヲ出港セント右東、北兩水堤燈臺間ノ港門ニ向ヒ進行シ來ルモノナルコトニ氣付キ依テ右狀態ニ於テ兩船カ進行ヲ繼續スルニ於テハ茲ニ兩船ハ港門附近ニ於テ出會衝突ノ虞アルニ至リタルヲ以テ入港船明海丸ノ船長タル被告人ハ前記ノ如ク危險防止ノ義務アルニ拘ラス當時山陽丸カ未タ同港内第七番浮標ト第八番浮標トノ間ヲ進行シ居リテ解纜後幾程モナク從テ速力モ微々タルモノナルヘク然ラハ山陽丸カ港門ニ接近スル以前ニ於テ明海丸カ安全ニ入港シ得ヘシト輕信シ不注意ニモ前記速力ヲ以テ漫然進行ヲ續ケタルトコロ山陽丸ノ速力ハ被告人ノ豫期ニ反シテ速ク兩船ノ距離甚シク接近シタルヲ以テ被告人ハ茲ニ於テ衝突ヲ避ケンカ爲同四時二十五分頃機關士ニ對シ急速力前進ヲ命シ以テ山陽丸ノ進路ヲ急速ニ横斷セントシタルモ時既ニ遅ク最早同船ノ進路ヲ横斷シ得ラレサルコトヲ認メ直チニ機關ヲ急速力後退ニ掛ケ衝突ヲ免レントシタ

ルモ及ハス同日午後四時二十六分右港門ヨリ約二十米内方ナル港内ニ於テ明海丸ノ船首ヲ山陽丸ノ右舷側ニ番船附近ニ衝突セシメ因テ同船ノ右舷側甲板ニ水面上ヨリ約二十呎ノ高サニ達スル幅員約十呎深サ約一呎五吋ノ大凹傷等ヲ生セシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百二十九條第二項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ百日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人都竹要次郎上告趣意書第一點ハ原判決ニハ事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ本件ニ付一件記録證據竝ニ原審ニ於ケル被告ノ供述證人平野清人ノ證言ニ徵スレハ(一)明海丸カ横濱港外約一公里ノ假泊地ヨリ港内ニ向ケ出發(明海丸ハ假泊ナルヲ以テ拔錨ト同時ニ前進ス)シタルハ昭和八年二月二日午後四時十五分ニシテ山陽丸カ港内約一千五十米ノ第七號浮標ヨリ出港シ初メタルハ少クトモ之ヨリ四、五分後ノ四時二十分頃ニシテ又衝突時刻ハ四時二十六分ナリシコト(山陽丸ニ於テハ四時十七分出發ト謂ヘトモ此ノ時刻ハ浮標纜ヲ解放シタルトキノ時間ニシテ實際同船カ微速漸進

ヲ起シ外見上移動ヲ認メ得ル迄ニハ少クトモ二、三分ヲ要スルヲ以テ實際ノ山陽丸出帆時刻ハ被告主張ノ四時二十分頃ト認メサルヘカラス(二)明海丸ハ全速力ニテモ八海里ノ速力ヲ有スルニ過キス此際ノ平均速力カ三海里餘ナリシコトハ算數上明カナリ然ルニ山陽丸ハ所謂優秀船ニシテ微速力ニテモ尙且ツ八海里ヲ出スヘク又衝突前ニハグングン急速力ニテ港口ニ接近シ來リタルコト(三)明海丸カ最初山陽丸ノ移動ヲ認メタルトキハ同船ハ起重機モ下サス荷役道具モ片付ケス一向出帆用意完備セル様子無ク而モ港口トハ直角ナル北方ニ向ヒ進行シツツアリ出港船ニアラスシテ港内移動船ナリト思惟セラルル状態ニ在リタルコト(四)明海丸カ山陽丸ノ出港船タルコトヲ認メタルハ衝突前二、三分前距離港門ヨリ二百五十米位ノ所ニシテ其ノ時山陽丸ハ猶港口ヨリ八、九百米ヲ離レタル第七號ト第八號ノ浮標ノ間ヲ徐航シツツアリタルコト(五)明海丸ハ衝突前ニ投錨シタルモ山陽丸ハ投錨セサリシコト(六)衝突地點ハ兩防波堤ノ中央線ヨリ四十間位内側ニテ赤燈臺ニ近ク同燈臺ヨリ約四十間ヲ距テタル箇所ナリシコト(七)山陽丸ハ衝突前左轉シタル爲左側防波堤ノ基石ニ接觸シ左舷船腹ヲ損傷シタルコト等ハ争ヒ無キ事實ナリ右ノ事實ニヨリ本件衝突ノ原因ヲ究明スレハ(一)相手船山陽丸カ海上衝突豫防法第二十九條海員ノ常務タル注意義務ヲ怠リ且ツ開港々則施行規則第十條ノ規定ヲ濫用シ既ニ港口間際ニ迫リ入港シツツアル明海丸ヲ明認シナカラ出港船ハ常ニ入港船ヲシテ避讓セシメ得ルモノト誤解シ敢テ無謀ノ出港ヲ企テタルコト而モ起重機等ヲ其ノ儘トシ外見上出港船ナルヤ否ヤ判明セ

サル状態ニテ進行シタルコト(二)山陽丸カ右規則第十一條ニ反シ全速力ニ近キ高速力ヲ利用シテ明海丸ヨリモ先ニ出港セムトシタルコト(三)山陽丸カ同規則第十三條第十五條海上衝突豫防法第二十五條ニ違反シ水道ノ左側ヲ航行シ且ツ衝突直前ニ左轉シタルコト(四)衝突ヲ避クル爲投錨セサリシコトノ運用上ノ四大過失ニ基因スルモノニシテ即チ山陽丸カ港口附近ニ差シカカレル入港船明海丸ヲ認メナカラ敢テ出港ヲ企テタルハ第一ノ過失ナルモ若シ山陽丸ニシテ規則第十一條ニヨリ低速力ニテ進行シタリトセハ兩船港口ニテ出會スル筈無ク又兩船カ港口附近ニテ出會シタリトスルモ山陽丸ニ於テ海上交通上ノ根本原則タル右側通行ヲ勵行シタリトセハ本件衝突發生セス又左側ヲ通行シタル場合ニ於テモ臨機措置トシテ投錨ヲ爲シ其ノ進行ヲ停止セハ必ス衝突ヲ避ケ得タリシモノナリ然ルニ山陽丸ハ右何レノ方法ヲモ講セサリシ爲明海丸トノ衝突ヲ避ケ得サリシモノニシテ明海丸ニハ何等過失ナシ然ルニ原判決カ本件ハ偏ヘニ被告明海丸船長カ開港々則施行規則第十條ニ違反シ出港船タル山陽丸ヲ待避セスシテ入港セムトシタル業務上ノ過失ニ基クモノト認定シタルハ全ク事實關係ヲ誤認シタルモノト認ムヘキ顯著ナル事由アルモノト謂フヘシト云フニアレトモ

海上衝突豫防法第二十五條第二十九條開港々則施行規則第十一條第十三條第十五條ハ一般航行ノ船舶ニ於テ遵守スヘキハ勿論ナリト雖港口出入ノ際ニハ開港々則施行規則第十條ハ特ニ之ヲ嚴守スルヲ要シ苟モ防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進行ヲ避クヘキモノト

ス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人ハ汽船明海丸ノ船長トシテ乗組ミ横濱港ニ入港セン爲時速約三哩ニテ進行シ同港北水堤燈臺ニ船首ヲ向ケタル頃同港内第七番浮標ニ繫留シ居リタル山陽丸カ船名旗ヲ掲揚シ右浮標ヲ離レテ將ニ進行セントスルヲ認メタルカスル場合入港船ノ船長ハ常ニ港内ニ注意シ出港船ノ進路ノ障害トナルヘキ危険ノ發生ヲ未然ニ防止シ殊ニ出港船ト防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ甚シク危険ナルヲ以テ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進路ヲ避ケ以テ衝突等危険ノ發生ヲ防止スヘキ業務上ノ義務アルニ拘ラス被告人ハ右山陽丸カ出港船ニシテ港門ニ向ケ進行シ來ルヘキコトアルヲ慮ラス尙モ進行ヲ續ケ同港北水堤燈臺ヲ少シク右舷ニ望ミ得ル地點迄進行シタル際初メテ右山陽丸カ同港ヲ出港セント右東北兩水堤燈臺間ノ港門ニ向ヒ進行シ來ルモノナルコトニ氣付キ依テ右狀態ニ於テ兩船カ進行ヲ繼續スルニ於テハ兩船ハ港門附近ニ於テ出會衝突ノ虞アルニ至リタルヲ以テ入港船明海丸ノ船長タル被告人ハ前記ノ如ク危険防止ノ義務アルニ拘ラス當時山陽丸カ未タ同港内第七番浮標ト第八番浮標トノ間ヲ進行シ居リテ解纜後幾程モナク從テ速力モ微々タルモノナルヘク然ラハ山陽丸カ港門ニ接近スル以前ニ於テ明海丸カ安全ニ入港シ得ヘシト輕信シ不注意ニモ前記速力ヲ以テ漫然進行ヲ續ケタルトコロ山陽丸ノ速力ハ被告人ノ豫期ニ反シテ速ク兩船ノ距離甚シク接近シタルヲ以テ被告人ハ衝突ヲ避ケンカ爲急速力前進ヲナシ以テ山陽丸ノ進路ヲ急速ニ横斷セントシタルモ時既ニ遅ク最早同船ノ進路ヲ横斷シ得ラレサルコトヲ認メ直ニ急速力後退ニテ衝突ヲ免レントシタ

ルモ及ハス明海丸ノ船首ヲ山陽丸ニ衝突セシメ因ツテ同船ニ大回傷等ヲ生セシメタルモノナリト云フニアルヲ以テ原判決カ被告人ニ業務上ノ過失アリタルモノトシテ處斷シタルハ相當ニシテ記録ヲ精査スルモ原判決ノ此認定ニハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難キヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○贓物牙保被告事件

(昭和九年(九)第五五四號事實審理)
 同年十月二十日第三刑事部判決 破毀自判

【上告人】

被告人

守屋

豊

辯護人

星島二
 深前谷
 深町梅
 町真平
 茂次郎

【第一審】

岡山區裁判所

【第二審】

岡山地方裁判所

盜品ノ賣却豫約ノ周旋ト竊盜罪ノ從犯

○ 判 示 事 項

盜品ノ賣却豫約ノ周旋ト竊盜罪ノ從犯

○ 判 決 要 旨

物品竊取ヲ決意シタル者ノ依頼ニ應シ竊取前該物品ノ賣却周旋ヲ爲スハ竊盜罪ノ從犯ナリトス

【參照】 刑法第六十二條第一項 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス
同法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲
ニ處ス

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月及罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十五日間被告人ヲ勞役場ニ留置ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ右懲役刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ岡山縣吉備郡總社町ノ肩書居宅ニ於テ精米業兼穀物商ヲ營メル者ナル處犯意繼續ノ上

第一、昭和八年七月二十九日頃同町運送業丸總事難波雅雄方雇人ナル原審相被告人木口喜三郎カ其ノ店主雅雄保管ニ係ル小麥百五十七俵ヲ竊ニ取出シ他ニ賣却セントセルニ際リ其ノ情ヲ知リナカラ右

喜三郎ノ依頼ヲ受ケテ其ノ賣先ヲ周旋シ其ノ結果同日頃岡山市富田町米穀商片山音吉ト右喜三郎トノ間ニ同人カ竊取セシ小麥百五十七俵ノ受渡竝其ノ代金九百八十圓ノ授受ヲ了セシメテ右賣買ヲ周旋シ

第二、更ニ同年八月十九日頃右木口喜三郎カ前記難波雅雄保管ニ係ル小麥七十九俵ヲ竊ニ取出シ他ニ賣却セントセルニ際リ其ノ情ヲ知リナカラ右喜三郎ノ依頼ヲ受ケテ其ノ賣先ヲ周旋シ其ノ結果同日頃前記片山音吉ト右喜三郎トノ間ニ同人カ竊取セシ小麥七十九俵ノ受渡竝其ノ代金四百九十餘圓ノ授受ヲ了セシメテ右賣買ヲ周旋シ

以テ右各贓物ノ牙保ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十六條第二項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期金額範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月及罰金五十圓ニ處シ右罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置期間ハ同法第十八條ニ則リ之ヲ定メ尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ右懲役刑ニ算入スヘキモノトス

○ 主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人豊ヲ懲役八月ニ處ス

盜品ノ賣却豫約ノ周旋ト竊盜罪ノ從犯

第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ本刑ニ算入ス
公訴裁判費用ハ全部被告人ノ負擔トス

○理由

辯護人星島二郎 深谷茂 前田梅次 深町良平上告趣意書第四點ノ論旨理由アルコトハ前掲當院ノ決定ニ於テ説明スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ審按スルニ

被告人豊ハ岡山縣吉備郡總社町總社運送店ノ雇人木口喜三郎ニ對シ金融周旋方ヲ依頼シ同人ハ之ニ應シ奔走シタルモ果サズ折柄同人ニ於テモ金員ノ必要アリタルヨリ敢テ前記運送店ノ倉庫ニ在ル小麥ヲ竊取シ他ニ賣却シテ調金センコトヲ企圖シタルモ自ラ他ニ賣却スルコトノ頗ル困難ナルヲ思ヒ昭和八年八月中前後二回ニ互リ被告人ニ其ノ情ヲ告ケテ之カ賣却方ヲ依頼シタル處被告人ハ其ノ都度之ニ應シ岡山市富田町片山音吉ト自己ノ商品トシテ執レモ小麥百五十七俵ノ賣買契約ヲ締結シタル上喜三郎ニ其ノ旨ヲ告ケ同人ヲシテ竊盜ノ犯意ヲ強固ナラシメ同一意思ノ發動ノ下ニ二回ニ互リ前記運送店ノ倉庫内ニ在リタル同店主保管ニ係ル各小麥百五十七俵ヲ竊取スルニ至ラシメタリ

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第六十二條第一項第二百三十五條第五十五條ニ該當スルヲ以テ同法第六十三條第六十八條第三號ニ則リ刑法第二百三十五條ノ刑ヲ減輕シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役

八月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ本刑ニ算入シ公訴裁判費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部之ヲ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス
以上ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○治安維持法違反被告事件 (昭和九年(レ)第一〇六八號 棄却)

(同年十一月一日第一刑事部判決)

【上告人】

被告人 瀧内禮作 原審辯護人 鈴木義男
被告人 福田力之助 辯護人 鈴木義男
高屋市二郎 關敏

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

治安維持法第五條ノ利益供與罪

○判決要旨

治安維持法第五條ノ利益供與罪

治安維持法第五條ノ利益供與ノ罪ハ國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモ未タ結社ヲ構成スルニ至ラサル者ニ對シ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與スルニ依リ成立スルモノトス

【参照】治安維持法第五條 第一條第一項第二項又ハ前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者モ亦同シ

同法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罪ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人瀧内禮作ヲ懲役三年ニ被告人福田力之助ヲ懲役二年ニ處ス被告人瀧内禮作ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス被告人福田力之助ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中證人山本モモニ支給シタル分ハ被告人瀧内禮作ノ負擔トシ證人會田マサニ支給シタル分ハ被告人福田力之助ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人瀧内禮作ハ東北帝國大學法文學部在學中タル昭和二年十二月高等試驗司法科ニ合格シ昭和三年三月同大學ヲ卒業同年四月二十七日司法官試補ヲ命セラレ東京地方裁判所東京區裁判所及同檢事局ニ於テ事務修習ノ上昭和四年十一月二十九日判事ニ任セラレ豫備判事トシテ東京地方裁判所ニ勤務シ昭和六年五月二十九日山形地方裁判所兼同區裁判所判事ニ補セラレ爾來同地方裁判所ニ奉職シ更ニ昭和七年十月一日札幌地方裁判所判事ニ轉シ昭和八年三月十七日迄同裁判所ニ在職シタルモノ被告人福田力之助ハ元小學校訓導タリシカ大正十四年中判檢事登用試験ニ合格シ大正十五年四月司法官試補ヲ拜命昭和二年十二月判事ニ任セラレ同時ニ豫備判事トシテ仙臺地方裁判所ニ勤務シ昭和三年三月福岡地方裁判所ニ轉勤シ同年十一月山形地方裁判所判事ニ補セラレ更ニ昭和七年十二月二十日同地方裁判所鶴岡支部判事ニ轉シ昭和八年三月二十三日迄同裁判所ニ奉職シ居リタルモノナルトコロ

第一、被告人瀧内禮作ハ司法官試補トシテ東京地方裁判所ニ勤務シ同僚爲成養之助ト相識ルヤ其ノ影

響ヲ受ケテ左翼思想ノ研究ニ携ハリ昭和五年夏頃ヨリ同人及東京地方裁判所書記西館仁 坂田正次等ト同裁判所内部ノ同志(當時被告人ハ豫備判事爲成養之助ハ司法官試補タリ)ヲ會員トシ清水コト宮石三郎指導ノ下ニ社會科學研究會ヲ組織シ之カ研究ニ從事スルニ至リ遂ニ共產主義思想ヲ抱懷シ日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ革命的手段ニヨリ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリアート獨裁ノ政府ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ノ實現ヲ爲サンコトヲ目的トスル祕密結社ナルコトヲ知リナカラ同黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ランコトヲ企テ

(イ) 自己ノ據出スル金員カ右日本共產黨ノ活動資金ニ供セラルルノ情ヲ知リ乍ラ昭和五年十月頃ヨリ昭和七年七月頃迄毎月金三圓乃至五圓ヲ東京地方裁判所所在中ハ東京市内ニ於テ前記西館仁又ハ宮石三郎ニ交付シ昭和六年六月山形地方裁判所赴任後ハ同所ヨリ東京市ニ於ケル西館仁又ハ當時東京地方裁判所判事タリシ尾崎陸ノ許ニ送金シ同人等ヲ介シテ該金員ヲ同黨ニ其ノ活動資金トシテ提供シ

(ロ) 昭和六年六月山形地方裁判所赴任後同地方ニ於ケル左翼的同志ノ獲得ヲ志シ昭和七年三月頃ニ至リ自ラ指導者トナリ原審相被告人常井直俊同白井十四雄ト共ニ社會科學研究會ヲ組織シ爾來同年十月札幌地方裁判所ニ轉補セララル迄ノ間山形市内千歳公園附近ニ於ケル當時ノ自己ノ下宿先那須安治郎方其ノ他ニ於テ屢同人等ト右研究會ヲ開催シ同黨中央機關紙「赤旗」及「無産者

政治教程」其ノ他左翼出版物ヲ教材トシテ革命的理論ノ研究ヲ進メツツ右被告人等ニ對シ階級意識ノ昂揚竝同黨ノ主義政策ノ宣傳煽動ニ努ムルト共ニ其ノ間右常井 白井兩名ヨリ黨機關紙其ノ他左翼出版物代金名義ノ下ニ毎月金一圓宛ヲ徵收シ尙同僚タリシ被告人福田力之助ヲ勸誘シテ同黨援助者タラシメ同人ヨリ右期間内毎月金三圓乃至十圓ヲ徵收シ其ノ都度該金員ヲ東京市ニ於ケル前示西館仁又ハ尾崎陸ニ送付シ又ハ山形市内ニ於テ同黨員柴田和夫ニ交付シ同人等ヲ介シ同黨ニ其ノ活動資金トシテ提供シ

(ハ) 昭和七年八月二十五日頃上京ノ際東京市四谷區新宿不二屋喫茶店ニ於テ同黨中央委員會家屋資金局地方部長渡邊惣助ヨリ同黨員ニシテ同地方部員柴田和夫ヲ紹介セラレ其ノ翌日頃同市澁谷區神南町十二番地山本マコ方ニ於テ右柴田ト會合シ山形地方ニ於ケル工場、農村及軍隊其ノ他一般ノ左翼運動ニ關スル情勢ヲ報告シ且同人カ家屋資金局地方部ノ組織擴大ノ爲近ク山形地方ニ出張スル際ノ連絡方法等ニ付協議ヲ爲シタル上同年九月十三日頃右柴田カ前記家屋資金局地方部ヨリ前記任務ヲ帶ヒテ山形市ニ派遣セララルヤ之ヲ迎ヘ同人ヲ同市七日町五百五十五番地會田彦太郎方ナル當時ノ自己ノ住居ニ前後約四日間帯在宿泊セシメ同人ノ黨活動ニ多大ノ便宜ヲ與ヘ

(ニ) 前記柴田和夫カ山形市帯在中同人ヨリ爾後同黨家屋資金局地方部ノ同地方ニ於ケル責任者タルコト及同黨資金網ノ擴大ニ關スル方針竝黨中央部トノ連絡方法等ニ付指示セラレタルモ其ノ後

間モナク札幌地方裁判所へ轉任スルコトナリタルヲ以テ同年十月上旬中被告人福田力之助ヲ同志トシテ原審相被告人常井直俊及白井十四雄ニ紹介シタル上同人等ト山形市内又ハ同市外馬見ヶ崎河原其ノ他ニ於テ數回會合シ同人等ニ對シ前示柴田和夫ヨリノ指命ヲ傳ヘ尙自己轉任後ハ右被告人白井十四雄ヲ同地方ニ於ケル自己ニ代ルヘキ暫定的責任者タラシムルコト及爾後同黨ノ爲ニスル活動方針ニ付協議決定スルト共ニ一面其ノ旨ヲ前記柴田和夫ニ文書ヲ以テ報告シ

第二、被告人福田力之助ハ被告人瀧内禮作カ昭和六年六月中山形地方裁判所ニ著任スルヤ之ト相識リ次第二親交ヲ結ヒ同人ノ思想的影響ヲ受ケ同人ヨリ諸種ノ左翼的文獻又ハ第二無產者新聞其ノ他月刊左翼文書ヲ借受ケ之ヲ閱讀スルニ及ヒテ漸次共產主義思想ニ共鳴スルニ至リ日本共產黨カ前記目的性質ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ同黨ヲ支持センコトヲ決意シ

(イ) 自己ノ醸出スル金員カ右日本共產黨ノ活動資金ニ供セラルル情ヲ知リ乍ラ昭和七年三月頃ヨリ同年九月九日迄ノ間毎月三圓乃至十圓ヲ被告人瀧内禮作ニ交付シ同人ヲシテ前記ノ如ク東京市ニ於ケル西館仁又ハ尾崎陸ノ下ニ送付セシメ同人等ヲ順次介シテ該金員ヲ同黨ニ其ノ活動資金トシテ提共シ

(ロ) 昭和七年八月二十六日東京ノ際被告人瀧内ノ斡旋ニヨリ東京市神田區駿河臺下附近某喫茶店ニ於テ前記黨員柴田和夫ト會見シ同年九月十三日頃同人カ前掲ノ如ク山形市ニ派遣セラルルヤ同

月十六、七日迄ノ間同市外馬見ヶ崎河原其ノ他ニ於テ被告人瀧内等ト共ニ數回柴田ト會見シ同人ヨリ瀧内同様同地方ニ於ケル同黨資金網擴大ノ必要ニ付指示ヲ受ケ此ノ際ノ協議ニ基キ爾後同黨中央部ヨリノ受信場所トシテ同市地藏町六十二番地ナル當時自己ノ住居ヲ提供シ其ノ後同年十月下旬迄ノ間數回同中央部ヨリ同所ニ郵送シ來レル通信文書ヲ受理シ之ヲ被告人瀧内ニ文付シ又ハ其ノ指示スルトコロニ從ヒ適宜處理シ

(ハ) 同年十月被告人瀧内禮作カ札幌地方裁判所ニ轉補セラルルコトナルヤ同月上旬中同人及原審相被告人常井直俊同白井十四雄ト前示山形市外馬見ヶ崎河原附近及其ノ他ニ於テ數回會合シ瀧内轉任後ハ暫定的ニ白井十四雄ヲ同黨家屋資金局地方部ノ同地方責任者タラシムルコト其ノ他爾後ノ活動方針ニ關シ協議決定シ

(ニ) 同年十月下旬右家屋資金局地方部ヨリ前記柴田和夫ニ代リ同黨員原田コト美作太郎カ地方巡回「オルガナイザー」トシテ山形市ニ派遣セラルルヤ自ら斡旋シテ同人ヲ同市七日町五百五十五番地會田彦太郎方ニ數日間滞在宿泊セシメ其ノ間同人ト山形市内ニ於テ屢會見シ同地方ニ於ケル左翼運動ノ一般的情勢ヲ報告シ且右被告人常井直俊同白井十四雄等ニ連絡會見セシメ其ノ結果被告人白井十四雄ヲシテ前記家屋資金局地方部ノ同地方責任者タラシムルコトヲ決定セシメ右美作太郎ノ黨活動ニ付種々斡旋盡力シ

以テ被告人兩名ハ何レモ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行動ヲ爲シタルモノナリ
 法律ニ照スニ各被告人ノ判示所爲ハ國體變革ヲ目的トスル結社ノ目的遂行行爲ヲ爲シタル點ニ於テ昭
 和三年勅令第二百二十九號ヲ以テ改正セラレタル治安維持法第一條第一項後段ニ私有財産制度ノ否認ヲ
 目的トスル結社ノ目的遂行行爲ヲ爲シタル點ニ於テハ同法第一條第二項ニ各該當スルコロ何レモ一
 個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ夫々刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ重
 キ前者ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中各被告人ニ對シ何レモ有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ
 被告人瀧内禮作ヲ懲役三年ニ被告人福田力之助ヲ懲役二年ニ處シ刑法第二十一條ニヨリ被告人瀧内禮
 作ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ被告人福田力之助ニ對シ同未決勾留日數中九十日ヲ夫
 々右本刑ニ算入スヘク訴訟費用中山本七ニ支給シル旅費日當ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ
 ヨリ被告人瀧内禮作ヲシテ又證人會田マサニ支給シタル旅費日當ハ同法條ニヨリ被告人福田力之助ヲ
 シテ各負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人瀧内禮作辯護人鈴木義雄 高屋市二郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由ノ部ニ於テ「被告人

瀧内禮作ハ日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ革命的手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度
 ヲ否認シプロレタリアト獨裁ノ政府ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ノ實現ヲ爲サンコトヲ目的ト
 スル秘密結社ナルコトヲ知り乍ラ同黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ランコトヲ企テ「イ」若干金員ヲ西
 館仁 宮石三郎 尾崎陸ヲ介シテ同黨ニ活動資金トシテ交付シ「ロ」山形市ニ於テ社會科學研究會ヲ開催
 シ常井 白井 福田等ノ寄附金ヲ西館仁 尾崎陸 柴田和夫等ヲ介シテ同黨ノ活動資金トシテ提供シ「ハ」
 柴田和夫カ山形市ニ出張スルヤ滞在宿泊セシメテ黨活動ニ便宜ヲ與ヘ「ニ」被告人カ札幌轉任後ニ於
 ケル東京地方責任者ヲ定メ活動方針ヲ協議シタルモノトシテ治安維持法第一條第一項後段及同條第二
 項ニ間擬シタリ然レトモ上掲「ハ」ノ事實ハ被告人カ友情ヨリ出テタル行爲タルコトハ記録上明ニシ
 テ「ニ」ノ行爲モ全ク社會科學研究會「必セシモ共產黨ノ爲ニスルモノニアラス」ノ爾後ノ方針ニ付
 キ談合シタルニ止マリ被告人ニ於テ黨ノ目的遂行ノ爲ニスル意圖ナカリシコトハ記録ニ照シテ明ナリ
 トス而シテ「イ」「ロ」ノ資金提供ハ被告人ニ於テハ全ク無産階級開放運動ニ同情スルノ餘リ唯一ノ無
 産黨ト信スル日本共產黨ノ運動資金ニ微細ノ金ヲ寄附シタルニ過キスシテ共產黨ノ國體變革、私有財
 産制度否認等ノ方面ニ明確ナル目的意思ナカリシコトハ被告人ノ供述並上申書ニ依リテ明ナリト云フ
 ヘシ故ニ被告人ノ行爲ハ黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト云フハ當ラス假ニ百歩ヲ讓リテ日本共產黨ノ
 目的綱領ヲ知り之ニ若干ノ援助ヲ爲スノ意思アリトスルモソハ全ク黨外ニアリテ金品ヲ供與シタルニ

止マリ自ラ卒先シテ黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行動ニ從事シタルニアラサルカ故ニ治安維持法第五條ヲ以テ律セラルルハ格別同法第一條ヲ以テ間擬スルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト謂フニアレトモ

原判決カ證據ニ依リ認定シタル被告人瀧内禮作ノ原判示第一ノ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ノ各行爲ハ國體ノ變革及私有財産制度否認ヲ目的トスル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ該當スルモノト認ムヘキモノニシテ原判決カ之ヲ治安維持法第一條第一項後段第二項ニ間擬シタルハ正當ト謂フヘク同法第五條ハ國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモ未タ結社ヲ構成スルニ至ラサル者ニ對シ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與スル行爲ニ關スル規定ニシテ原判示ノ如キ事實ニ付テ適用セラルヘキモノニ非ス所論ハ畢竟原判決ノ認定セサル事實ニ基キ又ハ原判決ト異ル獨自ノ見解ヲ以テ原判決ノ擬律ヲ非難スルモノニシテ採用スルヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事 榎田忠美 關與

【要旨】

○業務上過失致死被告事件 (昭和九年(レ)第一一五四號 棄却)
(昭和九年十一月五日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 平山 滋 辯護人 緒方 弘

【第一審】 四日市區裁判所 【第二審】 安濃津地方裁判所

○判示事項

工場内高壓電線ノ切替作業ト送電等ニ關スル指揮監督者ノ注意義務

○判決要旨

工場内ニ於ケル原動機ノ運轉送電及其ノ中止等ヲ指揮監督スル業務ニ従事スル者ハ場内高壓電線ノ切替作業ヲ開始スルニ當リテハ電流ノ遮斷セラレ居ルヤ否ヲ確知シタル後從業者ヲシテ工事ニ著手セシメ以テ之ニ對スル感電其ノ他ノ災害ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務ヲ負フモノトス

【參照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

工場内高壓電線ノ切替作業ト送電等ニ關スル指揮監督者ノ注意義務

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金八十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ四十日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ三重縣三重郡富洲原町所在東洋紡績株式會社富田工場ノ原動部職員トシテ同工場内ニ於テハ原動機ノ運轉、送電及中止等ヲ指揮監督スル業務ニ從事中昭和八年一月十四日同場内第五號電柱ノ第一號高壓電線ノ切替工事ヲ四日市驛前福岡電氣商會ノ現場監督廣田光雄等ヲシテ爲サシメタルカスル場合被告人ノ如キ送電及其ノ中止等ヲ指揮監督スル者ハ須ラク作業ヲ開始スルニ先チ電流ノ遮斷セラレ居ルヤ否ヤヲ確知シタル後工事ニ著手セシメ以テ從業者ニ對スル感電其ノ他ノ災害ヲ未然ニ防止スヘキ義務アルニ拘ラス被告人ハ右第一號線ニ電流ノ通シ居レルヲ知り同日前七時四十分頃其ノ部下ニ對シ右送電ヲ中止スヘク命シタレトモ同日午前八時頃右第五號電柱下ニ於テ右廣田光雄ヨリ送電ノ有無ヲ問ハルルヤ被告人ハ果シテ送電カ中止セラレタリヤ否ヤヲ確知スルコトナク漫然既ニ部下ノ者ニヨリ中止セラレタルモノト速斷シ中止セラレ居ル旨言明シタル爲光雄ノ傍ニテ其ノ言ヲ聞知セル同人配下ノ電工石見善治ハ直ニ右第五號電柱ニ登リ其ノ第一號線ノ切替ヲ爲サントシテ該電線ニ觸レタルトコロ同電線ノ電流ノ爲感電即死スルニ至リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金八十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條第一項

第四項ニ依リ四十日間勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ其ノ全部ヲ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人緒方弘上告趣意書第一點原判決ハ被告人ハ三重縣三重郡富洲原町所在東洋紡績株式會社富田工場ノ原動部職員トシテ同工場内ニ於ケル原動機ノ運轉、送電及其ノ中止等ヲ指揮監督スル業務ニ從事中昭和八年一月十四日同場内第五號電柱ノ第一號高壓電線ノ切替工事ヲ四日市驛前福岡電氣商會ノ現場監督廣田光雄等ヲシテ爲サシメタルカスル場合被告人ノ如キ送電及其ノ中止ヲ指揮監督スル者ハ須ク作業ヲ開始スルニ先チ電流ノ切斷セラレ居ルヤ否ヤヲ確知シタル後工事ニ著手セシメ從業者ニ對スル感電其ノ他ノ災害ヲ未然ニ防止スヘキ義務アルニ拘ラス被告人ハ右第一號電線ニ電流ノ通シ居レルヲ知り同日前七時四十分頃其ノ部下ニ對シ右送電ヲ中止スヘク命シタレトモ同日午前八時頃右第五號電柱下ニ於テ右廣田光雄ヨリ送電ノ有無ヲ問ハルルヤ被告人ハ果シテ送電カ中止セラレタリヤ否ヤヲ確知スルコトナク漫然既ニ部下ノ者ニヨリ中止セラレタルモノト速斷シ中止セラレ居ル旨言明シタル爲メ光雄ノ傍ニテ其ノ旨ヲ聞知セル同人配下ノ電工石見善治ハ直チニ右第五號電柱ニ登リ其ノ第一

號電線ノ切替ヲ爲サントシテ該電線ニ觸レタルトコロ勿チ同電線ノ電流ノ爲感電即死スルニ至リタルモノナリト判示シ被告人ノ原審公判ニ於ケル供述取寄ニ係ル安濃津地方裁判所昭和八年(ワ)第十四號損害賠償請求事件ノ被告本人平山滋ニ對スル訊問調書謄本及被告人ニ對スル昭和八年九月八日附檢事ノ聽取書中ノ供述ヲ採テ以テ斷罪ノ資料トセラレタリ然レトモ原判決ハ不當ニ法律ヲ適用シテ被告人ニ有罪ヲ認定シタル不法アルモノトス即チ左記事實ヲ綜合考覈スルトキハ本件被告人ハ原動機ノ運轉、送電及其ノ中止等ノ監督指揮ニ當リテハ通常用フヘキ注意義務ヲ履踐シタルモノニシテ石見善治ノ致死ハ全然之ヲ豫見スルコト能ハサリシ事情存スルモノニシテ被告人ニハ過失ヲ以テ律スヘカラサルモノト信ス(1)陣田正一ニ對スル事故發生ノ前日送電中止ヲ命シタルコト即チ被告人ハ本件事故發生日タル昭和八年一月十四日判示第一工場ノ第五號電柱第一號電線ノ切替工事ヲ爲スニハ從前ヨリ判明シ居リタル爲其ノ前日タル一月十三日ニ至リ當時變電所番タル陣田正一ニ對シ翌十四日ハ午前七時ヨリ前記第一號線ノ送電ヲ中止スヘク命シ置キタル事實ハ被告ノ終始一貫シテ主張セル事實ニヨリ明白ナル所ナリトス然ルニ陣田正一ハ問「證人ハ事件ノ起キタ前日平山滋カラ明日ハ第一號線ノ切替工事ヲスルカラ送電セヌ様ニト電話テ命セラレテ居タノテハナイカ」答「其ノ事ハシツカリ記憶アリマセヌ」問「證人ハ其ノ日第一號線ノ切替工事ヲスルト言フコトヲ前カラ聞イテ居タカ」答「其ノ當時證人ハ其ノ事ヲ存シマセンテシタ」(第一審公判調書)ト供述スルモ次項(2)ニ詳述セルト綜

合スル時ハ其ノ證言全ク支離滅裂ニシテ自己ノ責任ヲ回避セントスル虛構ナル陳述ナリトス而テ凡ソ高壓電線ノ切替工事ノ如キ人畜ニ最モ危険ヲ及ホスカ如キ工事ハ會社ノ操業中ニ爲スコト能ハス常ニ日曜日ニ於テ之ヲ施行スルハ會社ノ慣習トナリ居リ一月十四日亦日曜日ニシテ同日第一號電線ノ切替工事ノ請負人タル現場監督廣田光雄等カ從前ヨリノ繼續工事ヲ爲スヘキハ同人モ之ヲ熟知シ居タルモノニシテ其ノ監督者タル被告人ヨリ變電所番タル同人ニ對シ送電ノ中止ヲ命セサルカ如キコト絶對ニアリ得ヘカラサル事實ニ屬ス(2)陣田正一カ一旦中止シタル送電ヲ被告人ノ指揮ニヨラス擅ニ再送電ヲ專行シタルコト同人ハ前記ノ如ク被告人ヨリ其ノ前日タル十三日午後三時頃翌十四日ハ午前七時ヨリ第一號電線ノ送電ヲ中止スヘキ旨命セラレタルニ依リ同日出勤スルヤ同時刻ニ至リ送電ヲ中止シタルトコロ同人ハ「……夫レカラ五分モ經タヌ中ニ修繕部ノ方カラ是非ヤラネハナラス仕事カアルカラ送電シテ呉レ」(第一審公判同人訊問調書)トノ申込ヲ受クルヤ其ノ指揮監督者タル被告人ノ指令ヲ仰クコトナク專横ニモ直ニ此ノ申込ニ應シ再ヒ第一號線ニ送電ヲ開始シタルモノトス而シテ同人ハ此ノ再送電ヲ獨斷專行シタル事實ニ關シ責任轉嫁ニ苦心シ或ハ被告人ノ命ナルカ如ク(四日市區裁判所證據保全申請事件ノ同人訊問調書參照)或ハ廣田光雄ヨリ電話アリシニヨル(第一審公判證人訊問調書參照)トナスモ固ヨリ其ノ根據ナシ即チ被告人ノ出勤セルハ午前七時半過キニシテ當時既ニ電流通シ居タル爲之カ中止ヲ命シタル程ナレハ被告人カ其ノ以前再送電ヲ命スヘキ理ナシ又廣田光雄ノ電話ニ

關シテモ同人ノ「其ノ日證人ハ變電所ヘ電話ヲ掛ケテ平山ノ了解ヲ得テアルカラ第一號電線ノ電流ヲ切ツテ吳レト言ウタ事モナク其ノ後變電所カラノ電話ニカカリ第一號電線ニ付未タ仕事ニ掛ツテ居ラヌカラ送電シテ貫ツテモヨイト言ヒ今度右送電ヲ中止シテ貫フ時ハ平山ノ許可ヲ得テ尙修繕工場ト打合セラシテカラ頼ムト云フ様ナ事ヲ謂ツタ事モアリマセヌ」(取寄ニ係ル安濃津地方裁判所昭和八年(ワ)第四十四號事件同人訊問調書)トノ證言ニヨリ之ヲ窺知シ得テ充分ナリ而シテ廣田光雄ハ單ニ「其ノ日ノ朝午前七時頃電話テ今日ハ第一號電線ハ切ツテアルカ」ト照會シタルニ對シ同人ハ「第一號電線トS線カ電流カ通シテ居ル」(同人第一審公判調書)旨回答シタル事實ニ徵スレハ却テ此ノ兩者間ノ問答當時ニ於テハ既ニ同人ハ修繕部ヨリノ申込ニヨリ再送電ヲ獨斷專行シタル後ナリシコト極メテ顯著ナル事實ニシテ被告人ノ指揮ニ據ラサリシコトハ一點疑念ノ餘地ナキトコロナリ(3)被告人ハ送電中止ニ付通常用フヘキ注意事務ヲ履踐シタルモノニシテ本件事故ノ發生ヲ豫見シ得ヘカラサリシモノトス被告人ハ前記陣田正一ニ對シ前日ヨリ送電中止方ヲ命シ置キタルヲ以テ當日ハ當然中止セラレ居ルモノト信シ居タルモノニシテ陣田正一カ被告人ノ指揮ニ據ルコトナク再送電ヲ開始シタルカ如キ事實ハ毫モ之ヲ知ルニ由ナカリシモノトス然ルニ同日朝午前七時半頃出勤シタルトコロ中央モーター室ノ標識燈カ點燈シ居リ第一號線ニ送電シ居レルコト判明シタルニヨリ驚キ直チニ變電所番タル陣田正一ニ對シ送電ヲ中止セシムヘク電話シタルトコロ通セサリシニヨリ同室ニ在リタル電工荒木

淺雄ニ陣田ノ出勤ノ有無ヲ問ヒタルニ出勤シ居ル旨言明シタルヲ以テ更ニ電話シタルモ遂ニ通話スル能ハサリシナリ茲ニ於テ被告人ハ荒木ニ對シ電話ヲ以テ陣田ニ第一號電線ノ送電ヲ中止スヘク命シ置キ第二工場モーター室ニ赴キタル所其ノ南出入口附近ニ於テ臨時雇ナル川村新七ニ出會シタルニ同人ヨリ荒木ノ電話ヲモ通セサル旨申出テタルヨリ被告人ハ同人ニ對シ荒木カ自身變電所ニ赴キ第一號線ノ送電ヲ中止セシムル様萬一變電所番不在ノ節ハ自ら中止スヘキ旨命シタル上第二工場内精梳綿室ニ赴キタルモノナリ然ルニ事實ハ荒木自身變電所ニ赴カスシテ川村ヲシテ代リ赴カシメタルニ陣田正一ハ送電中止ノ命ニ應セサリシモノナリ斯ノ如ク被告人ハ自ら直接ニ或ハ部下ノ者ヲシテ本件第一號線ノ送電中止ニ關スル萬般ノ處理ヲ講シタルモノニシテ通常用フヘキ注意義務ヲ完全ニ履踐シタルモノニ外ナラス只被告人ニ過失ノ責ムヘキモノアラハ川村新七ヨリ其ノ結果ヲ確メサリシ一點ニ存ス然レトモ是被告人ノ過失ニアラス理由左ノ如シ(イ)被告人ノ原動機ノ運轉、送電及其ノ中止ニ關スル指揮監督ハ絶對的ナリ蓋シ原動機ノ運轉電流ノ送停ハ直チニ人畜ニ危害ヲ及ホス虞アルハ勿論會社業務ノ全般ニ重大ナル影響ヲ有スルモノナレハ凡ソ其ノ職務ヲ有スルモノノ極メテ重大ナル責任アルト同時ニ之ノ指揮監督モ亦絶對的支配力ヲ有セサルヘカラス換言スレハ其ノ指揮監督者ノ電流送停等ニ關スル意思表示ハ一箇ノ命令ニシテ一方の意思表示ノ相手方ニ傳達スルコトニヨリテ完成スルコト恰モ軍隊上下ノ指令ノ行ハルルカ如シサレハ凡テ其ノ部下タル者ハ其ノ指揮命令ヲ受ケタル以上自己ノ意

思ニヨリ該指令ヲ取捨選擇スルヲ得ス堅ク其ノ指令ヲ遵守スヘキモノトス殊ニ東洋紡績株式會社ハ高壓電氣ヲ使用スル會社ナルニヨリ電氣事業法ノ適用ヲ受クルモノナル所同法施行法第七十條ニ於テハ出火暴風其ノ他非常ノ場合ニ於ケル送電ノ遮斷ヲ規定スルヨリ見ルモ如何ニ其ノ事業ノ嚴肅ニシテ而モ其ノ業務ハ直截ナルカヲ窺知シ得ルノミナス同事業法第三十七條ハ事業者ハ従業員等ノ業務ニ關スル犯則行爲ニ對シテモ所罰セラレ且又事業者ニ對スル諸多ノ制裁規定ヲ設ケ居ルヨリスルモ従業員等ニ犯則者ナカラシムルト同時ニ危險發生ノ防止ヲ爲サシムルニハ一ニ監督者ノ指揮命令ヲ絕對的ナラシムルヲ必要トセルヲ暗示スルモノトス而シテ斯ル事務其ノモノノ本質ヨリ生スル指令ノ實行ハ其ノ久シキニ互ルニ從ヒ其處ニ自ラ慣行ノ馴致セラルルハ勿論ニシテ斯ル慣行モ亦自ラ絕對的普遍性ヲ生スルハ言フ俟タサルトコロナリトス而シテ之被告人カ原審公判ニ於テ「一體私カソレ迄切ル様ニ命シタル場合變電所ノ方テ電流ヲ切ラナカッタト云フ事ハ一度モナカッタノテアリマス」ト供述シ又實際大正十一年東洋紡績株式會社富田工場ニ勤務以來本件事務發生ニ至ル迄約十二年間嘗ツテ之ニ類似ノ事故發生セサルハ勿論其ノ以前モナク又本會社以外ニテ嘗ツテ其ノ例ヲ聞カサル所以ナリトス故ニ本件ニ於テ被告人カ電工荒木ニ對シ陣田ニ送電中止方リ傳達ヲ命シ若シ陣田在ラサル時ハ荒木自ラ之ニ代リ切電シ來ル様命シタルハ恰モ被告人自ラ陣田ニ電話ヲ以テ其ノ旨傳達シタルト何等異ルトコロナク其ノ傳達ハ一ノ指令的ノ性質ヲ有シ敢テ陣田ノ確答ヲ待ツノ義務ナキハ勿論ニシテ更ニ被告人カ

荒木ニ對スル指令カ數分後當然實行セラレタルモノト信シタルニ何等不注意ノ責ヲ負フヘキ理由ナシ殊ニ本件ノ場合ノ如キ陣田カ其ノ朝一旦送電ヲ中止シタルヲ修繕工場ノ苦情ニヨリ再ヒ勝手ニ送電シタル事情ノ如キ被告人ノ全ク關知セサル所ナレハ被告人ハ標識燈ノ點燈セルヲ見テ荒木ヲシテ陣田ニ電話セシメタル當時陣田ニ異見アルカ如キ全然豫見セス夢想タニセサリシ處ナレハ電話通セス荒木ヲシテ陣田ノ所ニ遺シタルモ全ク電話器代用的輕キ氣持ナリシナルヘク荒木モ亦被告人ト同様ニ陣田ニ異見ヲ豫見セス夢想タモセサリシニヨリ之ヲ川村ニ命シタルモノナルヘシ然ルニ事實ハ不幸ニシテ其ノ指令行ハレス川村之ヲ陣田ニ傳ヘタルニ陣田應セス川村之ヲ荒木ニ復命シタルモ荒木之ヲ被告人ニ復命スルコトヲ遲延シタル(第一審公判荒木訊問調書)等諸多ノ事情相續キ其ノ間手違ヲ生シテ本件石見善治ノ致死ノ結果ヲ生スルニ至リシナリ然シテ之等諸多ノ原因凡テ被告人以外ニ在リ殊ニ陣田カ被告人ノ命ニ從ハスシテ切電スルニ逡巡シタルハ恰モ其ノ命ニ據ラスシテ任意ニ送電シタルト同一轍上下ノ統制ヲ紊ルノ最モ甚シキモノニシテ又本件中此ノ行爲ト後述石見善治ノ過失サヘナカリセハ斷シテ本件ハ發生セサリシモノトス而シテ之等ノ諸多ノ事情(致死原因條件ノ競合)カ悉ク偶發的ニシテ被告人ノ全然豫見シ得ヘカラサリシ事情ナリシハ四圍ノ情狀ヨリ明白ナルトコロナレハ之ヲ以テ被告人ニ過失ノ責ヲ負ハシムヘキニアラサルハ勿論ナリ(ロ)過失ノ有無ニ關スル眞ノ爭點ハ(イ)ノ點ニアラスシテ寧ロ被告人カ廣田ニ對シテ送電ハ中止シタル旨言明セル際陣田ニ對スル指令傳達後

ノ所要時間ヲ顧慮セリヤ否ヤノ點ナリトス然ルニ此ノ點ニ關シテ記録上明ナルハ第一工場内中央モーター室(電話室)ト變電所トノ距離ハ約二丁餘ナル事實ニシテ(四日市區裁判所昭和八年(ヤ)第一七〇號證據保全申請事件實地檢證調書昭和八年十月十四日檢事作成實況見分書等參照)從ツテ荒木又ハ川村カ變電所ヘ到ル所要時間ハ通常二、三分ヲ出テサルハ爭ナキ所ナルヘシ而シテ一面被告人カ廣田ニ出會ヒ第五號電柱下ニ於テ切替工事ヲ説明セルハ陣田ニ送電中止ヲ命シテヨリ約二十分ヲ經過セル後ナリシ事實モ原判決ノ凡ソ認ムル所ナレハ若シ本件ニ於テ被告人ノ陣田ニ對スル命令カ順當ニ傳達セラレタランニハ發令後二、三分ニシテ當然送電ハ中止セラレ居ルヘク被告人カ尙其ノ後十數分モ經過セル時ニ際シ廣田ニ對シ送電中止ノ事實ヲ言明シタルモ何等過失ノ問フヘキモノナシ又更ニ陣田カ送電中止ニ對シ異見ヲ陳ヘ川村カ之ヲ被告人ニ復命スヘキ場合ニ於テモ若シ川村荒木等ニ於テ之ヲ忠實ニ履行セハ時間的ニ見ルモ約往復五、六分ヲ出テスシテ其ノ日ノ特別事情ハ當然被告ニ復命セラレタルヘク此ノ場合ニ於テモ被告人カ廣田ニ言明セル時間ト尙十數分ノ餘裕アリ然ルニ其ノ間荒木ヨリ何等ノ復命ナカリシ爲被告人カ陣田ノ送電中止ヲ確信シ其ノ間陣田ノ異見アリシヲ考慮セサリシ事實ニ對シテモ何等過失ノ責ヲ求ムヘキモノニアラサルナリ從テ以上(イ)(ロ)ノ理由ニヨリ本件ニ關シテハ如何ナル理由ニヨルモ被告ニ對シ過失ノ責ヲ求ムヘキ理由ナク求ムヘキ責アリトスレハ凡ソ被告人以外ニアルコト事理極メテ明白ナルモノトス然ルニ原判決ハ被告人ハ「漫然部下等ノ者ニヨ

【要旨】

リ中止セラレタリト速斷シ一タル旨認定シ被告人ニ過失ヲ認定セラレタルハ不當ニ法律ヲ適用シタル不法モ甚シキ判決ナリト謂フヘク此ノ點ニ於テ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニアレトモ工場内ニ於ケル原動機ノ運轉、送電及其ノ中止等ヲ指揮監督スル業務ニ従事スル者ハ高壓電線ノ切替作業ヲ開始スルニ當リテハ須ラク先ツ電流ノ遮斷セラレ居ルヤ否ヤヲ確知シタル後從業者ヲシテ工事に著手セシメ以テ之ニ對スル感電其ノ他ノ災害ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルモノニシテ斯ル場合ニ電流ノ遮斷ナキニ拘ラス之レアルヘシト輕々ニ判斷シ從業者ヲシテ工事に著手セシムルカ如キハ右ノ義務ニ違背スル措置ナリト認ムヘク其ノ際單ニ部下ノ者ニ對シ送電ノ中止ヲ命シタル一事ヲ以テ直ニ右ノ義務違背ヲ除却スルモノニ非サルナリ本件ニ於テ原判決ノ認メタル事實ヲ其ノ證據ト相俟ツテ稽フルトキハ被告人ハ東洋紡績株式會社富田工場ノ原動部職員トシテ同工場内ニ於ケル原動機ノ運轉、送電及其ノ中止等ヲ指揮監督スル業務ニ従事中同工場内第五號電柱ノ第一號高壓線ノ切替工事ヲ四日市驛前福岡電氣商會ノ現場監督廣田光雄等ヲシテ爲サシムルニ當リ被告人ハ右第一號電線ニ電流ノ通シ居レルヲ知リタルヲ以テ被告人ハ同工場勤務ノ電工荒木淺雄ニ對シ變電所ヘ送電中止ノ傳達方ヲ命シタルトコロ荒木淺雄ハ更ニ同工場臨時雇川村新三郎ヲ使トシテ其ノ旨ヲ傳ヘシメタルニ變電所番人陣田正一ハ之ニ應セサリシカ被告人ニ於テ未タ其ノ通知ヲ受ケス從ツテ被告人ハ果シテ送電カ遮斷セラレタリヤ否ヤヲ確知スルコトナカリシニ拘ラス右第五號電柱下ニ於テ廣田光雄ヨリ送電

ノ有無ヲ問ハルヤ漫然既ニ部下ノ者ニ依リテ遮斷セラレタルモノト速斷シ事實ニ反シテ其ノ旨言明シタル爲之ヲ聞知シタル廣田光雄配下ノ電工石見善治ハ直チニ右第五號電柱ニ登リ第一號電線ノ切替ヲ爲サントシテ該電線ニ觸レタルヨリ忽チ同電線ノ電流ノ爲感電即死スルニ至リタリト謂フニ在リ由是觀之前掲業務上ノ注意義務ヲ負フトコロノ被告人カ高壓電線ニ電流ノ通シ居レルヲ知リナカラ單ニ部下ニ對シ之カ中止ヲ命シタルニ止リ送電カ果シテ中止セラレタリヤ否ヤヲ確知スルコトノ用意ヲ缺キ漫然其ノ中止アリタルモノト輕信シ以テ工事ニ著手セシメタル從業者ヲシテ感電死ニ至ラシメタルモノニシテ是レ正ニ被告人ニ於テ其ノ業務上遵守スヘキ注意義務ヲ怠リタルモノト謂フヘク原審カ右ノ事實ニ依リ被告人ニ業務上ノ過失アリト爲シ之ヲ刑法第二百一十一條ニ問擬處斷シタルハ正當ナリ而シテ本件事故發生前日被告人カ變電所番人ニ對シ翌日送電ヲ中止スヘク命シタル爲事故發生當日一旦送電中止セラレタルコト及其ノ後右番人ノ獨斷專行ニヨリ再送電セラレタルコト所論ノ如クナリシトスルモ本件作業前被告人ニ於テ右第一號電線ニ電流ノ通シ居レル事實ヲ知リタルコト原判決認定ノ如クナル以上右ノ所論事實アリタル故ヲ以テ到底被告人ノ本件注意義務違背ヲ除却シ得ヘキニ非サルナリ之ヲ要スルニ縷々敘述スルトコロノ論旨ハ偏ニ原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ立脚シ又ハ原審ノ採用セサル證據ヲ云爲シテ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ノ認定ヲ非議シ以テ被告人ニ何等業務上ノ過失ナシト速斷スルモノニ外ナラサルナリ然レハ則原判決ニハ所論法律ヲ不當ニ適用

シタル違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美 關與

○強盜傷人住居侵入被告事件

(昭和九年(れ)第一〇六五號
同年十月十九日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 梅村 勳造 辯護人 安齋林八郎
【第一審】 横濱地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

家宅侵入ト竊盜ノ著手

○判決要旨

竊盜ノ目的ヲ以テ家宅ニ侵入シ屋内ニ於テ金品物色ノ爲簞笥ニ近
寄リタルトキハ財物ニ對スル事實上ノ支配ヲ侵スニ付密接ナル行
爲ヲ爲シタルモノニシテ竊盜罪ノ著手アリタルモノトス

【参照】 刑法第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ
家宅侵入ト竊盜ノ著手

侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十年ニ處ス原審ノ未決勾留日數中百八十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ノ日本刀一振ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大工職ニシテ親方關喜三郎ヨリ日給二圓ノ手間賃ヲ支給セラレ辛ウシテ一家四名ノ生計ヲ立テ居タルカ五十圓餘ノ負債ヲ生シ益々困窮ニ陥リタルヲ以テ其ノ窮境ヲ脱セン爲昭和八年五月二日ノ夜親方關ヨリ受取リタル手間賃十五圓ヲ以テ賭博ヲ爲シタルモ却テ内金十四圓餘ヲ損失シ愈々金策ノ途絶エタル結果遂ニ妻ノ遠縁ナル横濱市中區本牧町和田百二十一番地薪炭商岡崎金次郎方ニ侵入シテ金員ヲ竊取セント決意シ同月四日午前零時半頃日本刀一口(昭和八年地押第一二〇號ノ三)ヲ携ヘテ右金次郎方裏手ヨリ屋内ニ忍入り同人及其ノ妻キンノ就寢セル同家六疊間ニ到リ金圓物色ノ爲其ノ北東隅ノ三重箆箆ニ近寄リタル際金次郎カ眼ヲ覺マシ誰何シタルニヨリ逮捕ヲ免ルル爲其ノ場ニ於テ右日本刀ヲ以テ同人ニ斬付ケ更ニ物音ニ眼ヲ覺マシ起上リテ蒲團ヲ被セテ被告人ヲ捕押ヘントシタルキ

ンニモ亦同様ノ目的ヲ以テ斬付ケ因テ金次郎ノ顔面其ノ他數箇所ニ治療約八十日ヲキンノ頸部其ノ他數箇所ニ治療約六十日ヲ要スル各切創ヲ負ハシメタリ而シテ金次郎及キンニ對スル右強盜傷人ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百十條ニ強盜傷人ノ點ハ同法第二百三十八條第二百四十條前段第五十五條ニ夫々該當スルトコロ以上ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ強盜傷人ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處スヘク原審ノ未決勾留日數中百八十日ハ同法第二十一條ニ則リ右本刑ニ算入スヘク押收ノ日本刀ハ本件強盜傷人ノ行爲ニ供シタル物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人安齋林八郎上告趣意書第一點被告ニ對シ強盜傷人ノ罪アリト認メタルハ不當ナリ一、右判決理由ニヨレハ被告ハ竊盜ノ目的ヲ以テ岡崎金次郎ノ家宅へ侵入シタルモノナルモ未タ竊盜ノ所爲ニ著手

シタル事實アリト認ムルヲ得ス從テ金次郎夫婦ヲ傷ケタルハ單ナル傷害罪ニ止マル一、竊盜ノ目的ヲ以テ家宅ニ侵入スル場合ニ於テ侵入ノ行爲ハ同時ニ竊盜ノ著手ニ非スシテ家宅侵入ト竊盜行爲ハ刑法第五十四條第一項後段ニ於ケル牽聯犯タルヲ以テ竊盜行爲ハ家宅侵入ノ外更ニ其ノ行爲ヲ爲スヲ要ス而シテ竊盜行爲ハ財物奪取ノ行爲ニシテ他人ノ支配ヲ犯シ之ヲ自己ノ支配ニ移スノ行爲ナレハ他人ノ支配ヲ犯スノ所爲ニ直接ナル行爲ヲ爲ス場合ニ於テ竊盜ノ著手トナル一、原判決理由書ヲ案スルニ其ノ判決理由中「同家六疊ニ至リ金員物色ノ爲其ノ北東隅ノ三重簞筒ニ近寄りタル際金次郎眼ヲ覺マシトアルヲ見レハ原判決ハ右ノ事實ヲ以テ竊盜ノ著手ナリト解シタルモノナルヘキモ右事實ハ未タ竊盜ノ著手ニ非ス何トナレハ被告カ右六疊ニ在ル簞筒ノ中ヨリ金員ヲ奪取スルタメ之ニ向テ歩ヲ進メタルハ未タ金員奪取ノ直接ナル行爲ナリト云フヲ得サルノミナラス是家宅侵入ノ延長ニ過キサルモノトス若シ右ノ如キ事實ヲ以テ竊盜ノ著手ナリト云フヲ得ハ寧ろ家宅侵入ノ行爲ハ同時ニ竊盜行爲ノ著手ナリト論セサルヲ得サルニ至ルヘシ何ントナレハ竊盜ノタメニ家宅ニ侵入スル場合ニ於テハ其ノ侵入ハ同時ニ財物奪取ノ第一歩ナレハナリ一、朝鮮高等法院ニ於テハ昭和四年(れ)第一五號事件ニ於テ占有論ニ立脚シ竊盜ノ目的ヲ以テ家宅侵入ヲ爲シタル時ハ侵入行爲ハ同時ニ竊盜ノ著手ナリトノ判決ヲ爲シタルコトアルモ右ハ刑法第五十四條第一項前段ノ適用ニシテ一個ノ行爲カ數個ノ罪名ニ觸ルルノ義ニ該當シ大審院從來ノ判例タル牽聯犯ト其ノ趣旨ヲ異ニス一、之ヲ要スルニ家宅侵入ト竊盜行

爲トヲ牽聯犯ト解スル立場ヨリ論スレハ家宅侵入行爲ノ外更ニ竊盜行爲ニ著手スルヲ要シ竊盜著手ノ行爲タルヘキモノハ財物奪取ニ關スル直接ノ行爲タルヲ要スルコト明ナリ而シテ被告カ金次郎方ノ六疊座敷ヲ通行スル間ハ財物奪取ニ直接ノ關係ナキハ勿論家宅侵入行爲ノ延長ニ過キサルヲ以テ被告ハ未タ竊盜行爲ニ著手セサルモノトス上告辯護人ノ所見ニヨレハ本件ニ於ケル竊盜著手行爲ハ少ナクトモ被告カ六疊間ノ三重簞筒ニ手ヲ觸ルルノ時ナリト論スルヲ至當ト信ス采シテ然ラハ被告ハ未タ竊盜行爲ニ著手セサル間ニ金次郎夫婦ニ傷害ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ刑法第二百四條ニ該當スヘキ單ナル傷害罪ニ過キス從テ之ヲ準強盜傷害罪トシテ所罰セル原判決ハ不當ナリ一、尙被告勳造ノ心理狀態ヨリ見ルモ被告勳造ハ判決表示ノ如ク當時金員ノ必要アリ爲ニ金員竊取ノ目的ヲ以テ金次郎方へ侵入シ金員ハ六疊間簞筒内ニ仕舞置カルルモノト信シ右簞筒ノ方面ニ歩ヲ移シタルモノナレハ被告カ簞筒ニ近寄りタル行爲ハ家宅侵入ノ時ヨリノ繼續行動ナルコト明ナリ從テ被告カ右簞筒ニ近寄りタル事實ハ竊盜ノ著手ト見做スヘキ特種ノ行爲ニ非サルモノトス敍上理由ニ由リ被告ニ對シ竊盜ノ著手アリト認メ之ヲ準強盜傷人罪ト論シタル原判決ハ明ニ不當ナリトスト云フニ在レトモ

【要旨】

家宅侵入ノ行爲ハ竊盜罪ノ構成要素ニ屬セス單ニ其ノ遂行手段ニ外ナラサルカ故ニ家宅ニ侵入シタルノ一事ヲ以テ竊盜罪ノ著手ト謂フ能ハサルハ勿論ナリト雖竊盜ノ目的ヲ以テ家宅ニ侵入シ他人ノ財物ニ對スル事實上ノ支配ヲ犯スニ付密接ナル行爲ヲ爲シタルトキハ竊盜罪ニ著手シタルモノト謂フヲ得

ヘシ故ニ竊盜犯人カ家宅ニ侵入シテ金品物色ノ爲簞笥ニ近寄リタルカ如キハ右事實上ノ支配ヲ侵スニ付密接ナル行爲ヲ爲シタルモノニシテ即チ竊盜罪ノ著手アリタルモノト云フヲ得ヘク其ノ際家人ニ誰何セラレ逮捕ヲ免ルル爲人ヲ傷ケタルトキハ準強盜傷人罪ヲ以テ論スヘキコト更ニ絮説ヲ要セス原判示ニ依レハ被告人ハ金員竊取ノ目的ヲ以テ岡崎金次郎方ニ忍入り同人及其ノ妻キンノ就寢セル同家六疊間ニ到リ金圓物色ノ爲其ノ北東隅ノ三重簞笥ニ近寄リタル際金次郎カ眼ヲ覺マシ誰何シタルヨリ逮捕ヲ免ルル爲其ノ場ニ於テ日本刀ヲ以テ右兩人ニ斬付ケ各切創ヲ負ハシメタル趣旨ナルヲ以テ準強盜傷人罪ニ該當スルコト洵ニ明ナリ論旨理由ナシ (其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○有價證券虛偽記入行使私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使業務上橫領詐欺詐欺未遂背任商法違反被告事件

(昭和九年(九)第一〇七四號
同年十月二十三日第四刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 栗田盛吉 辯護人 赤井幸夫
【第一審】 名古屋地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

欺罔手段ト共ニ眞實ナル手段ノ併用セラレタル場合ニ於ケル事實ノ判示方

○判決要旨

欺罔手段ト共ニ眞實ナル手段力併用セラレタル場合ニ於テ眞實ナル手段ノ判示ヲ省略シ單ニ欺罔手段ニ因ル財物騙取ノ事實ノミヲ判示シテ詐欺罪ヲ認定スルモ違法ニ非ス

【參照】 刑法第二百四十六條第一項 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

欺罔手段ト共ニ眞實ナル手段ノ併用セラレタル場合ニ於ケル事實ノ判示方

○事實

一四八〇 (一一〇)

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル證第四號乃至第七號ノ名古屋不動産株式會社ノ五十株券十六枚證第五十六號ノ同會社五十株券二枚及證第七十五號ノ同會社五十株券二枚(別所秀次郎名義)十株券十枚中ノ各虛偽記入ノ部分ハ之ヲ沒收ス訴訟費用中證人田村久吉淺井吉左衛門ニ支給シタル分ハ被告人盛吉第一審共同被告人堀敬造ノ證人佐藤信一ニ支給シタル分ハ被告人盛吉第一審共同被告人蕪木昌夫ノ證人武市兼松河原直春松井正廣ニ支給シタル分ハ被告人盛吉原審共同被告人工藤繁次郎同古川與三郎ノ其ノ餘ノ證人及鑑定人ニ支給シタル分ハ被告人盛吉原審共同被告人工藤繁次郎同古川與三郎及第一審共同被告人窪崎民次郎ノ夫々連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人盛吉繁次郎與三郎ハ秀次郎事別所精一ト共ニ土地建物及其ノ附屬物ニ關スル賣買貸借其ノ他管理經營金融其ノ他之ニ附隨スル業務一切ヲ目的トスル資本金十萬圓(一株ノ金額五十圓總株式二千株第一回ノ拂込金一株ニ付金十二圓五十錢)ノ名古屋不動産株式會社ノ設立ヲ計畫シ被告人盛吉與三郎及右別所精一原審共同被告人窪崎民次郎外三名發起人兼創立委員トナリ尙被告人盛吉ハ中途ヨリ創立委員長トナリ被告人繁次郎ハ同會社設立ニ關シ助力ヲ約シ共ニ昭和五年七月八月頃ヨリ創立事務ニ執掌シ同年十月二十八日ノ同會社ノ創立總會ニ於テ別所精一ハ取締役社長被告人盛吉ハ事務取締

役ニ被告人繁次郎及右民次郎ハ取締役ニ被告人與三郎ハ監査役ニ夫々選任セラレ被告人盛吉ハ同會社ノ業務一切ヲ統轄シ被告人繁次郎ハ同會社ノ會計係トシテ現金ノ保管出納等會計事務ヲ擔當シ居リタルモノナルトコロ

第一、被告人盛吉繁次郎與三郎及別所精一ハ共謀ノ上同會社創立總會ヲ開催スルニ當リ第一回ノ拂込ノ完了セサルニ拘ラス虛偽ノ報告ヲ爲シテ之ヲ欺罔シ以テ總會ヲ終了ノ上登記ヲ了シ會社設立ノ目的ヲ達セント企テ

(一) 昭和五年十月二十八日名古屋市中區鶴舞公園内ノ名古屋公會堂ニ於テ同會社ノ創立總會ヲ開催シ被告人盛吉及與三郎ハ發起人トシテ總會ニ出席シ被告人盛吉ハ創立委員長トシテ發起人ヲ代表シ同會社設立ノ目的ヲ以テ同會社ノ總株式二千株中千百七十五株ノ第一回ノ拂込金一株ニ付十二圓五十錢合計金一萬四千六百八十七圓五十錢ニ付テハ其ノ拂込ナキニ拘ラス恰モ其ノ拂込完了セルモノノ如ク虛偽ノ報告ヲ爲シ其ノ際被告人繁次郎ハ創立總會ニ於テ検査役ニ選任セラレ同人ハ被告人盛吉ノ報告ノ虛偽ナル事實ヲ知リナカラ右盛吉ノ報告ハ相違ナキ旨虛偽ノ報告ヲ爲シテ同總會ヲ欺罔シ因テ該總會ヲ終了シテ同會社設立ノ目的ヲ遂ケ

(二) 次テ同年十一月五日名古屋區裁判所登記官吏ニ對シ前記ノ如ク第一回ノ株金拂込完了セサルニ拘ラス全株式ニ付一株金十二圓五十錢宛ノ第一回ノ株金拂込完了シタル旨記載シタル登記申請

書ヲ提出シ虚偽ノ申立ヲ爲シ同官吏ヲシテ商業登記簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ

第二、被告人繁次郎ハ被告人盛吉ト共謀ノ上昭和六年二月十六日及同年三月二十五日頃ノ二回ニ被告人繁次郎ニ於テ會社會計係トシテ業務上保管セル會社所有ノ現金合計三百圓ヲ名古屋市中區西瓦町十三番地ノ一ナル右會社本店ニ於テ擅ニ被告人盛吉ニ對シ同人ノ株式短期取引ノ損失金ノ補填等ノ爲ニ支出シテ之ヲ横領シ

第三、被告人盛吉 繁次郎及與三郎ハ共謀ノ上昭和六年三月中旬頃右會社本店ニ於テ會社會計係トシテ業務上保管ニ係ル同會社所有ノ金二百圓ヲ擅ニ右與三郎ノ個人ノ用途ノ爲ニ右與三郎ニ支出シテ横領シ

第四、右會社ハ其ノ營業開始以來其ノ利益ヲ以テハ經常費ヲスラ償フニ足ラス從テ缺損相次キ利益ナカリシカ

(一) 被告人盛吉 繁次郎 與三郎ハ右別所精一及原審共同被告人窪崎民次郎ト共謀ノ上恰モ利益アリシ如ク假裝シテ所謂蛸配當ヲ爲サント企テ昭和六年十一月二十三日名古屋市南區東築地南陽館ニ於テ開催セラレタル定時總會ニ於テ被告人盛吉ハ議長トナリ其ノ決算期タル昭和六年十月末日ニ於テハ同會社ハ多額ノ缺損アリ殆ント會社ノ現金並預金ハ存在セザリシニ拘ラス當期ニ於テハ

利益金五千二百七十五圓二十四錢アリ且金二萬六千二百三十九圓ノ現金又ハ預金アルモノノ如ク虚偽ノ報告ヲ爲シ被告人與三郎ハ監査役トシテ之ヲ承認シテ全會一致ニテ一割ノ配當ヲ可決セシメ商法第九十五條及同會社定款第三十二條等ノ規定ニ違反シ昭和六年十二月初頃ヨリ昭和七年一月二十日頃迄ノ間ニ既ニ拂込ヲ爲シタル同會社株主安達千代外二十八名ニ對シ株式拂込金ノ一割ニ相當スル金額合計金五百三十七圓五十錢ノ利益配當ヲ爲シ

(二) 次ニ同會社ハ前示ノ如ク其ノ營業ノ利益ヲ以テシテハ經常費スラ之ヲ償フニ足ラス其ノ營業ヲ繼續スルコト到底困難トナリシニ拘ラス別所精一ノ獻策ニ依リ東京市本所區吾妻橋一丁目三番地ノ一ニ支店ヲ設置スルコトトナリ之カ資金ニ窮シタル結果茲ニ右五名共謀ノ上社員採用ニ名ヲ藉リ應募者ヲ欺罔シ身元保證金名義ノ下ニ金員ヲ騙取シ之ヲ營業資金ニ充テント企テ昭和六年七月二十五日頃ヨリ昭和七年三月二十六日頃迄ノ間ニ於テ同會社ノ資産狀態並營業狀態ニ於テハ之カ返還ヲ爲スコトハ到底不可能ナルコトヲ知悉シナカラ別紙第二表(身元保證金名下騙取金關係表)記載ノ如ク同會社名古屋本店又東京市本所區吾妻橋一丁目三番地ノ一東京支店ニ於テ佐々木徳三郎外二十五名ニ對シ右會社ノ基礎ハ鞏固ニシテ相當利益アリ身元保證金ハ本人ノ爲ニ同會社ニ於テ嚴重ニ保管シ退社ニ際シテハ直ニ返還スヘキ旨申欺キ同人等ヲ誤信セシメ同人等ヨリ其ノ頃二十數回ニ同會社ノ本支店等ニ於テ社員ノ身元保證金名義ノ下ニ現金合計六千二百五十圓及

一四八四 (三)
國庫債券、勸業債券、復興債券等額面金千四百八十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(三) 同會社ハ其ノ名古屋本店並東京支店ニ於テ土地家屋ノ所有者ヨリ(一)所有者ハ會社カ其ノ管理經營上委託物件ヲ第三者ニ貸貸スル事ヲ承諾スルコト(二)會社ハ其ノ名ヲ以テ毎月貸貸料ヲ集金シ翌月十一日ヨリ十六日迄(東京支店ニテハ十六日ヨリ一週間)ノ間ニ管理手数料(名古屋本店ニテハ百分ノ五但シ昭和七年二月ヨリ百分ノ八トナル東京支店ニテハ百分ノ十)ヲ控除シ支拂フコト(三)貸貸料ノ取立ニ關スル一切ノ責ハ會社ニ於テ引受ケ委託物件ニ對スル貸貸料ノ取立貸貸物ノ貸付明渡等其ノ他管理ニ關スル一切ノ行爲ハ會社ノ承諾ヲ要スルコト(四)委託物件ノ保繕ニ關スル諸費用及訴訟催告等ノ手續費用ハ委託者ノ同意ヲ得タルモノヲ除キ會社ノ負擔トスル旨ノ約定ニテ土地家屋ノ管理ノ委託ヲ受ケ居リタルカ同會社ノ資産狀況前示ノ如クニシテ營業困難ノ悲境ニ陥リシヨリ右委託ニ基キ取立テタル貸貸料ヲ會社資金ニ流用シ之カ窮境ヲ脱セント企テ茲ニ右五名共謀ノ上右貸貸料ヲ會社費用ニ費消スルニ於テハ期限ニ至ルモ到底之カ支拂ヲ爲スコト能ハサルコトヲ知悉シナカラ同會社ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キ昭和六年十月下旬頃ヨリ昭和七年四月一日頃ニ至ル間數百回ニ互リ別紙第一表ノ一、二(名古屋本店及東京支店扱家賃地代取立金關係表)ノ如ク名古屋本店ニ於テハ委託者竹村賢定外約二百四十五名ノ爲ニ取立テタル合計九千二百六圓七十七錢東京支店ニ於テハ委託者戸叶武雄外百二十四名ノ爲ニ

取立テタル合計金四千五百五十七圓八十五錢合計一萬三千三百六十四圓六十二錢ヲ何レモ同會社ノ爲ニ擅ニ其ノ營業費等ニ費消シテ右委託者等ニ對シ期限ニ至ルモ之カ支拂ヲ爲ス能ハス遂ニ同人等ニ同額ノ損害ヲ蒙ラシメ

第五、(一) 被告人盛吉 別所精一ハ同會社ノ虛偽記入ノ株券ヲ發行シ會社ノ金融ヲ圖ラント企テ原審共同被告人蕪木昌夫ト共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ昭和六年十一月中旬頃同會社東京支店ニ於テ同會社株式五十株券用紙二十五枚ヲ利用シ株主ノ氏名トシテ別所秀次郎ナル活字ヲ押捺シ其ノ他ノ要部ニハ各々相當事項ヲ記入シ其ノ後被告人盛吉ニ於テ專務取締役印ヲ押捺シタル上其ノ拂込欄ニ何レモ一株ニ付金十二圓五十錢ノ第一回株金合計金六百二十五圓ノ拂込ヲ完了シタル旨ノ虛偽ノ記載ヲ爲シテ順次株券二十五枚(内十六枚ハ證第四號乃至第七號)ノ虛偽記入ヲ完成シ

(二) 被告人盛吉ハ昭和七年二月中旬頃右會社名古屋本店ニ於テ秋山千代治ニ對シ前記第五ノ一記載ノ虛偽記入ニ係ル別所秀次郎名義ノ同會社五十株券中四枚(證第七號)ヲ恰モ真正ナルモノノ如ク裝ヒ之ヲ金借ノ擔保トシテ同人ニ一括シテ交付行使シ因テ同人ヲ欺罔シタル上貸借名義ノ下ニ金二千圓ヲ騙取セントシタルモ同人ニ於テ所持ナカリシ爲其ノ目的ヲ遂ケス

(三) 被告人盛吉ハ更ニ虛偽記入ノ株券ヲ行使シ丹羽坂一ヲ欺罔シ金員ヲ騙取シ之ヲ會社資金ニ流用セシコトヲ企テ(イ)昭和七年二月二十日同被告人ノ當時ノ住居タリシ名古屋市南區熱田東町

字玉ノ井三十八番地ニ於テ丹羽坂一ニ對シ第一回ノ株金拂込ナキニ拘ラス之ヲ完了セル旨虛僞ノ記入ノナサレタル株主島崎八助名義同會社十株券三枚古川與三郎名義十株券五枚永田淺吉名義十株券二枚(以上證第七十五號中ノ十株券十枚)ヲ真正ナルモノノ如ク裝ヒ之ヲ金借ノ擔保トシテ同人ニ一括交付シテ行使シ(ロ)同年同月二十二日同所ニ於テ同人ニ對シ前同様虛僞記入ノ別所秀次郎名義ノ同會社ノ五十株券四枚ヲ擔保ニ金千圓ノ貸與方ヲ申入レ同日同所ニ於テ之ヲ一括シテ交付シテ行使シ(ハ)更ニ同年同月二十五日同所ニ於テ同人ニ對シ前同様虛僞記入ノ別所秀次郎古川與三郎名義ノ同會社ノ五十株券四枚ヲ真正ナルモノノ如ク裝ヒテ金借ノ擔保トナシテ一括シテ交付シテ行使シ因テ同人ヲ欺罔シタル上其ノ都度同所ニ於テ(イ)ニ付テハ金五百圓(ロ)ニ付テハ各千圓ヲ受取リテ騙取シ

第六、同會社ハ前示ノ如ク業運振ハス營業資金ニ窮セル折柄被告人盛吉及別所精一ハ昭和六年十二月頃豊田卯三郎ヨリ宇都宮市鹽谷不動產株式會社カ其ノ所有ニ係ル栃木縣上都賀郡日光町字七里所在ノ檜及杉ノ山林ヲ賣却スル旨ヲ聞知シ之ヲ名古屋不動產株式會社ニ於テ買受ケ其ノ木材ヲ賣却シ同會社ノ更正ヲ計ラントシタルモ之カ資金無キノミナラス之カ金融ヲ得ル運動費スラハカリシヨリ昭和七年一月頃被告人繁次郎ヲシテ大口多シニ對シ山林買受ノ運動費トシテ三千圓ノ金借ヲ申込マシメタルトコロ大口多シハ山林ノ賣買ヲ信用セス仍テ茲ニ右鹽谷不動產株式會社ノ代表者佐藤信一

名義ノ該賣買ニ因ル手附金五萬圓ノ領收書ヲ偽造シ之ヲ行使シテ現實山林賣買ノ契約ヲ締結シタルカ如ク裝ヒ金借名義ノ下ニ金員ヲ騙取セント企テ右兩名共謀ノ上

(一) 昭和七年二月下旬頃行使ノ目的ヲ以テ同會社東京支店ニ於テ情ヲ知レル原審共同被告人蕪木昌夫ヲシテ鹽谷不動產株式會社ナル偽造印及佐藤ナル有合印ヲ他ヨリ購入セシメ右偽造會社印ヲ使用シ同會社代表者佐藤信一ノ氏名ヲ冒用シ其ノ名下ニ右佐藤ナル有合印ヲ押捺シテ同會社代表者佐藤信一名義名古屋不動產株式會社代表者栗田盛吉宛ノ右山林賣買ノ手附金トシテ金五萬圓ヲ領收シタル旨ノ領收書一通ヲ偽造シ

(二) 次テ昭和七年三月一日被告人盛吉ハ名古屋市西區東方町一丁目四番地大口多シ方ニ於テ同人ノ事實上ノ養子ナル工藤五三郎ニ對シ該山林ニ付賣買契約成立シ既ニ金五萬圓ノ手附金ヲ支拂ヒタルニヨリ殘代金調達ノ運動費トシテ金二千圓ヲ貸與セラレ度キ旨申入レ右偽造ニ係ル領收書カ恰モ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ呈示シテ行使シ以テ同人及右多シ方ヲシテ其ノ旨誤信セシメ尙右二千圓ニ付其ノ辨濟期ニ至ルモ辨濟ノ意思ナキニ拘ラス同年三月末日ニハ必ス返濟スヘキ旨申欺キ因テ同人及右大口多シ方ヲシテ其ノ旨誤信セシメ翌二日右多シ方ニ於テ貸借名義ノ下ニ利子金二百六十圓ヲ控除シタル金千七百四十圓ヲ受取リテ之ヲ騙取シ

第七、被告人盛吉ハ原審相被告人堀敬造ト共謀ノ上名古屋市中區廣路町淺井吉左衛門ヲ欺罔シ金員ヲ

騙取セント企テ

(一) 昭和六年十一月二十五日頃前示南陽館ニ於テ右敬造ハ淺井吉左衛門ニ對シ被告人盛吉所有ノ名古屋市南區熱田東町玉ノ井所在宅地百十坪地上家屋木造瓦葺二階建居宅建坪二階共總計十五坪七合外四棟カ既ニ名古屋海運株式會社ニ金八千圓酒井治吉ニ金千三百五十圓ノ擔保トシテ抵當權設定登記ノ爲シアルニ拘ラス該事實ヲ祕シ無疵ノモノナルカ如ク申欺キ之ヲ擔保トシテ金三千圓ノ貸與方ヲ申入レ因テ同人ヲ欺罔シタル上貸借名義ノ下ニ同月二十八日頃同人宅ニ於テ金三千圓ヲ受取リテ之ヲ騙取シ

(二) 次テ同年十二月中旬頃右敬造ハ右淺井ノ勤務先ナル名古屋市鍋屋上野町市水道課ポンプ室ニ於テ前示抵當不動産ヲ賣渡擔保トシ且虛偽記入ニ係ル前記第五ノ一記載ノ別所秀次郎名義ノ五十株券八枚(證第四號)及第一回ノ拂込完了セル旨ノ虛偽記入ニ係ル栗田九馬二名義ノ五十株券二枚(證第五十六號)ヲ恰モ眞正ナルモノノ如ク裝ヒテ之ヲ増擔保トシテ金二千圓ノ貸與方ヲ申入レ右別所秀次郎名義ノ株券八枚ハ其ノ頃淺井宅ニ於テ一括シテ交付シ因テ同人ヲ欺罔シタル上其ノ頃淺井方ニ於テ貸借名義ノ下ニ金二千圓ヲ受取リテ之ヲ騙取シ右栗田久馬二名義ノ株券ハ其ノ翌日頃右敬造方ニ於テ淺井ニ一括シテ交付シテ行使シ

(三) 右敬造ハ右淺井吉左衛門カ右第七ノ一二ノ各擔保物タル建物ハ無疵ニシテ且株券ハ眞正ナルモノナリト誤信セルヲ利用シテ淺井ニ對シ右擔保物件ハ確實ノモノナル旨申向ケ同年十二月上旬頃右淺井ニ對シ東方電力株式會社五十株券(全額拂込済)一枚ノ貸與方ヲ更ニ昭和七年三月中旬頃金三百五十圓ノ貸與方ヲ申入レ因テ其ノ頃貸借名義ノ下ニ敬造方ニ於テ二回ニ右株券及金員ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタルモノナリ

(第八、省略)

而シテ被告人盛吉ノ判示第二及第三ノ業務上横領第四ノ(三)ノ背任第五ノ(一)ノ有價證券ノ虛偽記入第五ノ(二)(三)及第七ノ(二)ノ虛偽記入ノ株券行使第四ノ(二)第五ノ(三)第六ノ(二)第七ノ詐欺及第五ノ(二)ノ詐欺未遂ノ各行爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人盛吉ノ判示第一ノ(一)ノ會社設立ノ目的ヲ以テ株主總會ヲ欺罔シタル所爲ハ刑法第六十條商法第二百六十一條第一項第一號ニ判示第一ノ(二)ノ所爲中商業登記簿ノ原本不實記載ノ點ハ刑法第六十條第五百七十七條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十條第一項第五百五十七條第一項ニ判示第二第三ノ業務上横領ノ所爲ハ同法第六十條第二百五十三條第六十五條第五十五條ニ判示第四ノ(一)ノ法令定款ニ違反シ利益配當ヲ爲シタル所爲ハ同法第六十條商法第二百六十一條第一項第三號ニ判示第四ノ(三)ノ背任ノ所爲ハ刑法第六十條第二百五十五條ニ判示第五ノ(一)ノ有價證券虛偽記入ノ所爲ハ同法第六十條第六十二條第二項第一項第五十五條ニ判示第五ノ(二)

(三)及第七ノ(二)ノ各虚偽記入ノ有價證券行使ノ所爲ハ各同法第六十三條第一項ニ該當スルトコロ各行使ノ所爲ハ一個ノ行使ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ各重キ判示第五ノ(二)ニ付テハ内一枚ノ別所秀次郎名義ノ五十株券判示第五ノ(三)ノ(イ)ニ付テハ内一枚ノ別所秀次郎名義ノ十株券(ロ)ニ付テハ内一枚ノ別所秀次郎名義ノ五十株券(ハ)ニ付テハ内一枚ノ別所秀次郎名義ノ五十株券判示第七ノ(二)ニ付テハ内一枚ノ別所秀次郎名義ノ五十株券(ハ)ニ付テハ内一枚ノ別所秀次郎名義ノ五十株券ヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ判示第六ノ(一)ノ私文書偽造ノ所爲ハ同法第六十條第五十九條第一項ニ其ノ行使ノ所爲ハ同法第六十條第六十一條第一項第百五十九條第一項ニ判示第五ノ(二)ノ詐欺未遂ノ所爲ハ同法第六十條第二十四條第六十條第二十五條ニ判示第六ノ(二)第七ノ詐欺ノ所爲ハ同法第六十條第二十四條第六十條第一項ニ判示第五ノ(三)ノ詐欺ノ所爲ハ同法第二百四十六條ニ該當スルトコロ右詐欺及詐欺未遂ハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ尙商業登記簿原本不實記載ト其ノ行使トノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ重キ不實記載ノ商業登記簿原本ノ行使ノ刑ニ從ヒ又連續一罪タル有價證券虚偽記入ト其ノ行使及詐欺私文書偽造ト其ノ行使及連續一罪タル詐欺トノ間ニハ夫々順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ各適用シ結局最モ重キ虚偽記入有價證券行使ノ刑ニ從ヒ以上ハ併合罪ニ係ルヲ以テ各商法違反不實記載商業登記簿原本ノ行使及背任ノ各罪ニ

付夫々懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ則リ其ノ最モ重キ虚偽記入有價證券行使ノ罪ノ刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘク右被告人ニ對シテハ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入シ押收ニ係ル證第四號乃至第七號ノ虚偽記入株券ハ本件判示第五ノ(一)ノ犯罪ニ因リテ生シタル物ニシテ又證第五十六號第七十五號ノ虚偽記入株券ノ虚偽記入ノ部分ハ本件判示第五ノ(三)第七ノ(二)ノ行使罪ノ組成物ニシテ何レモ何人ノ所有ヲモ許スヘカラサルモノナルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第三號第二項ニ則リ證第四號乃至第七號ハ全部證第五十六號第七十五號ハ其ノ虚偽記入ノ部分ノミヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文掲記ノ如ク夫々被告人等ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

原判決中被告人盛吉ニ關スル部分ヲ破毀ス
被告人盛吉ヲ懲役二年ニ處ス

但第一審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス

押收ニ係ル證第四號乃至第七號ノ名古屋不動産株式會社ノ五十株券十六枚證第五十六號ノ同會社五十株券二枚及證第七十五號ノ同會社五十株券二枚(別所秀次郎名義)十株券十枚中ノ各虚偽記入ノ部分

許同手段ト共ニ眞實ナル手段ノ併用セラレタル場合ニ於ケル事實ノ判示方

ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用申證人田村久吉淺井吉左衛門ニ支給シタル分ハ被告人盛吉第一審共同被告人堀敬造ノ證人佐藤信一ニ支給シタル分ハ被告人盛吉第一審共同被告人無木昌夫ノ證人武市兼松河原直春松井正廣ニ支給シタル分ハ被告人盛吉原審共同被告人工藤繁次郎同古川與三郎ノ其ノ除ノ證人及鑑定人ニ支給シタル分ハ被告人盛吉原審共同被告人工藤繁次郎同古川與三郎及第一審共同被告人窪崎民次郎ノ夫々連帶負擔トス

○理由

辯護人亦井幸夫上告趣意書第三點原判決ハ其ノ事實理由第七ノ(二)ニ於テ「次テ同年(昭和六年)十二月中旬頃右敬造ハ右淺井ノ勤務先ナル名古屋市鍋屋町市水道課ボンブ室ニ於テ前示抵當不動産ヲ賣渡擔保トシ且虛偽記入ニ係ル前記第五ノ一記載ノ別所秀次郎名義ノ五十株券八枚及第一回ノ拂込完了セル旨ノ虛偽記入ニ係ル栗田九馬二名義ノ五十株券二枚ヲ恰モ真正ナルモノノ如ク装ヒ之ヲ増擔保トシテ金二千圓ノ貸與方ヲ申入レ右別所秀次郎名義ノ株券八枚ハ其ノ頃淺井宅ニ於テ一括シテ交付シテ行使シ因テ同人ヲ欺罔シタル上其ノ頃淺井方ニ於テ貸借名義ノ下ニ金二千圓ヲ受取リテ之ヲ騙取シ右栗田九馬二名義ノ株券ハ其ノ翌日頃右敬造方ニ於テ淺井ニ一括シテ行使シテ判示シタリ然レトモ其ノ證據説明ニ說示セラルルトコロヲ見ルニ右貸借ニ付擔保ニ供セラレタルモノハ右虛偽記入ニ係ル

別所秀次郎名義ノ五十株券八枚及栗田九馬二名義ノ五十株券二枚ノ外真正ニ成立セル工藤繁次郎名義ノ五十株券四枚同十株券十枚アルコト極メテ明ナリトス(證人淺井吉左衛門ニ對スル第三回豫審訊問調書ノ判示記載參照)果シテ然ラハ原判決ハ此ノ點ニ於テモ理由齟齬ノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニアレトモ

【要旨】

詐欺罪ハ欺罔手段ニ依リ財物ヲ騙取スルコトニ依リテ成立シ苟モ財物騙取ノ手段トシテ欺罔手段ノ用ヒラレタル以上ハ其ノ欺罔手段ト共ニ眞實ナル手段カ併用セラレタルト否トハ同罪ノ成立ニ影響アルコトナシ然レハ欺罔手段ト共ニ眞實ナル手段カ併用セラレタル場合ニ於テモ苟モ該欺罔手段ト財物交付トノ間ニ因果關係アル以上縱令眞實ナル手段ノ判示ヲ省略シ單ニ該欺罔手段ニ因ル財物騙取ノ事實ノミヲ判示シテ詐欺罪ヲ認定スルモ違法ニ非ス從ツテ本件ニ於テモ亦縱令所論ノ如ク判示擔保トシテ提供セラレタル株券中ニ判示虛偽記入ノ株券ノ外所論真正ニ成立セル株券アリタリトスルモ之カ爲本件詐欺罪ノ成立ニ影響スルコトナキヲ以テ原判決カ被告人ニ於テ右真正ニ成立セル株券ヲモ共ニ提供シタル事實ノ判示ヲ省略シタリトスルモ之カ爲原判決ニ所論ノ如キ違法アリト謂フヲ得ス論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ原判決中被告人ニ係ル部分ハ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ之ヲ破毀シ原判示事實ヲ法律ニ照スニ被告人盛吉ノ判示第一ノ一ノ會社設立ノ目的ヲ以テ創立總會ヲ欺

欺罔手段ト共ニ眞實ナル手段ノ併用セラレタル場合ニ於ケル事實ノ判示方

罔シタル行爲ハ刑法第六十條商法第二百六十一條第一項第一號ニ判示第一ノ二ノ行爲中商業登記簿ノ原本不實記載ノ點ハ刑法第六十條第一百五十七條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十條第一百五十八條第一項第一百五十七條第一項ニ各該當シ判示第二第三ノ橫領ノ行爲ハ同法第六十條第六十五條第一項第二百五十三條第五十五條ニ該當スル所身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アル場合ナルヲ以テ同法第六十五條第二項ニ依リ同法第二百五十二條第一項ノ刑ニ從フヘク判示第四ノ一ノ法令定款ニ違反シ利益配當ヲ爲シタル行爲ハ同法第六十條商法第二百六十一條第一項第三號ニ判示第四ノ三ノ背任ノ行爲ハ刑法第六十條第二百四十七條第五十五條ニ判示第五ノ一ノ有價證券虛偽記入ノ行爲ハ同法第六十條第六十二條第二項第一項第五十五條ニ判示第五ノ二、三及第七ノ二ノ虛偽記入ノ有價證券行使ノ行爲ハ同法第六十三條第一項第五十四條第一項前段第五十五條ニ判示第六ノ一ノ私文書偽造ノ行爲ハ同法第六十條第六百五十九條第一項ニ判示第六ノ二ノ右偽造私文書行使ノ行爲ハ同法第六十條第六百六十一條第一項第六百五十九條第一項ニ判示第五ノ二ノ詐欺未遂ノ行爲ハ同法第六十條第二百四十六條第一項第二百五十條ニ判示第四ノ二第六ノ二第七ノ詐欺ノ行爲ハ同法第六十條第二百四十六條第一項ニ判示第五ノ三ノ詐欺ノ行爲ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スル所右詐欺未遂及詐欺ハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ尙商業登記簿原本不實記載ト其ノ行使トノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ重キ不實記載ノ商業登記簿原本ノ行使ノ刑ニ從ヒ又連續一

罪タル有價證券虛偽記入ト其ノ行使及連續一罪タル詐欺私文書偽造ト其ノ行使及連續一罪タル詐欺トノ間ニハ夫々順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ各適用シ結局最モ重キ虛偽記入有價證券行使ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキ所以上ハ併合罪ニ係ルヲ以テ各商法違反不實記載商業登記簿原本ノ行使及背任ノ各罪ニ付夫々懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ則リ其ノ最モ重キ虛偽記入有價證券行使ノ罪ノ刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ニ係ル證第四號乃至第七號ノ虛偽記入株券證第五十六號第七十五號ノ虛偽記入株券ノ虛偽記入ノ部分ニ付テハ孰レモ同法第十九條ニ則リ證第四號乃至第七號ハ全部證第五十六號第五十七號ハ其ノ虛偽記入ノ部分ノミヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文掲記ノ如ク夫々被告人等ヲシテ負擔セシムヘキモノトス
 仍テ主文ノ如ク判決ス
 檢事松阪廣政關與

○收賄被告事件 (昭和九年(九)第八七一號 事實審理)

同年十一月十五日第二刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 有吉半祐 辯護人 (大松久利市)

【第一審】 福岡地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

公立中學校長ノ校務ノ範圍——生徒用教科書販賣店ノ指定ト收賄罪

○判決要旨

- 一 公立中學校長力其ノ生徒用教科書販賣店ヲ指定スルコトハ校務ニ關スル事項ナリトス【要旨第一】
- 二 公立中學校長力其ノ生徒用教科書販賣店ノ指定ニ關シ其ノ謝禮トシテ財物ノ贈與ヲ受ケタルトキハ收賄罪ヲ構成ス【要旨第二】

【參照】 大正六年勅令第五號公立學校職員制第四條第三項 師範學校長ハ奏任トス中

學校、高等女學校及實業學校ノ學校長ハ奏任官ノ待遇トス但シ實科高等女學校、女子實業學校及實業補習學校ノ學校長ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トス

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以上以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

○事實

當院ハ辯護人大八木喬輔 松久利市上告趣意書第二點ハ其ノ理由アルモノト認メ事實審理ヲ爲ス旨ノ決定ヲ爲シ事實審理ヲ爲シ左ノ如ク判決ヲ爲シタリ

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人半祐ヲ懲役二月ニ處ス

但シ一年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

被告人ヨリ金百八十五圓ヲ追徵ス

公立中學校長ノ校務ノ範圍 生徒用教科書販賣店ノ指定ト收賄罪

訴訟費用中證人伊藤勇ニ支給シタル分ハ被告人半祐ト原審相被告人波多野準 波多野義喜トノ連帶負擔證人大庭開造ニ支給シタル分ハ被告人半祐ト原審相被告人波多野義喜トノ連帶負擔證人田淵稻次郎ニ支給シタル分ハ被告人半祐ト原審相被告人元野木慎太郎トノ連帶負擔證人有吉トヨニ支給シタル分ハ之ヲ二分シ其ノ一ハ被告人半祐ト原審相被告人波多野準 波多野義喜トノ連帶負擔トシ其ノ餘ノ分ハ被告人半祐ト原審相被告人元野木慎太郎トノ連帶負擔トス

○理由

本件上告ノ理由アルコトハ昭和九年九月二十七日當院ノ爲シタル決定ニ於テ説示スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十四條ニ依リ更ニ當院ニ於テ審理スルニ

被告人半祐ハ大正十五年九月以降昭和八年四月二十八日休職トナル迄福岡縣立嘉穂中學校長トシテ在職シ同校所屬職員ヲ監督シ從テ其ノ所屬職員ノ任免ニ關シ縣知事ニ對シ之カ内申ヲ爲スヘキ權限ヲ有スルノミナラス同校校務掌理方法トシテ生徒用教科書販賣店ノ選擇指定ヲ爲スヘキ權限ヲモ有シ居リタルモノナルトコロ

(第一乃至第五ノ事實省略)

第六 昭和八年一、二月頃同校五學年用教科書ノ販賣指定書籍店主田淵稻次郎ニ於テ翌年度分ニ付テハ他ノ學年用教科書ノ販賣指定ヲモ爲サレ度旨申出テ之ニ對シ從來四學年用以下全部ノ教科書ノ販

賣指定書籍店ナル合資會社元野木書店代表社員タル原審相被告人元野木慎太郎ニ於テ從前通りト爲サレ度旨懇請シ來リタルヲ以テ被告人ニ於テ從前通りト爲シタルカ同年二月下旬頃前同所ニ於テ慎太郎ヨリ其ノ謝禮トシテ提供セル福岡市所在玉屋百貨店發行金額五十圓ノ商品券一枚ヲ其ノ情ヲ諒シテ之カ贈與ヲ受ケ

以テ自己ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノニシテ以上ハ意思繼續ニ出テタルモノトス證據ヲ按スルニ

被告人半祐ハ判示期間判示中學校ノ校長トシテ在職シ所屬職員ノ任免ニ關シ縣知事ニ内申シ來リタル事實並判示中學校ノ教科書ニ關シ其ノ販賣ヲ指定セラレタル書籍店カ判示第六ノ如ク二店アリタル事實ハ被告人ノ當廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ徴シ明白ナルノミナラス大正六年勅令第五號公立學校職員制第四條第三項ニ依レハ學校長ハ地方長官ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督スル旨規定セルカ故ニ所屬職員ノ任免ニ關シ知事ニ對シ之カ内申ヲ爲スヘキ權限ヲ有スルノミナラス學校長カ擔任教諭ノ意見ヲ聽キ其ノ生徒用教科書ヲ特定發表スルコト並其ノ發表セル教科書ニ關シ學校當局及生徒ノ爲其ノ購買部數ヲ調ヘテ之ヲ書籍店ニ通知シテ取寄セシメ各生徒ヲシテ之ヲ購買セシメ以テ教授ニ支障ナカラシムル様取計フコトハ右規定ニ所謂校務ニ關スルモノト謂フヘク從テ右教授ニ支障ナカラシムル様取扱ヒ得ル適當ナル書籍店ヲ指定シ又ハ之ヲ變更スル等ノ事務ハ學校長ノ職務ト關係アルヲ以テ

判示ノ如ク冒頭ノ事實ヲ認定ス

次ニ(第一乃至第五ノ事實ニ對スル證據説明省略)
判示第六事實ハ

被告人半祐ノ當廷ニ於ケル判示田淵稻次郎ヨリ人ヲ以テ判示ノ如ク云ヒ來リ又一方判示元野木慎太郎ノ方ヨリ駒山伴藏ヲ以テ判示ノ如ク申シ來リタリ依テ結局右二軒ノ書籍店ヲ呼ヒ今度モ從來通リトスルト云ヒ遣リタル旨ノ供述

被告人半祐ニ對スル豫審第六回訊問調書中其ノ供述トシテ教科書販賣書籍商ノ指定モ校長カ最後ノ決定ヲスルコトトナリ居レリ嘉穂中學校ノ教科書納入指定書籍商ハ田淵稻次郎及元野木慎太郎ノ兩名ニシテ數年前ヨリ五年生ノ教科書丈ハ元野木ヨリ田淵へ譲ラセタルナリ處カ昭和八年一、二月中田淵ノ方カラ五年以外ノ教科書ニ付テモ納入指定ヲ受ケ度キ旨申出テ來リタルカ駒山伴藏來リ既ニ新學年ノ時期モ迫リ元野木モ其ノ心準備ヲシテ居ルノテアルカラ昭和八年度ハ從來通リト云フコトニシテハ如何トノコトナリキ依テ自分モ御考へ通リテ良カラウト思フト云ヒタルニ駒山ハ校長カ二軒ノ本屋ヲ呼ヒ出シ其ノ趣旨ヲ申渡サレルカ穩當タラウト云ヒタル故田淵元野木兩名ヲ呼寄セ今年度ハ從前通り納入セシメル旨申渡シタリ何テモ二月下旬カ三月上旬頃妻カ元野木カラ商品券カ來テ居ルト申シタルコトアリ右申ス通り教科書ノ納入ニ付從來通リト云フコトトシタル爲其ノ謝禮ノ意味テ持參シタルモノト思フ旨ノ記載

ノト思フ旨ノ記載

被告人慎太郎ニ對スル豫審訊問調書中其ノ供述トシテ判示同旨ノ記載

ニ徴シ認ムルヲ得ヘク意思繼續ノ點ハ日時ヲ接近シテ同種ノ行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認めヘキヲ以テ判示事實全部ノ證明アリタルモノトス

【要旨第二】

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處シ犯情輕キカ故ニ同法第二十五條ニ依リ一年間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫シ尙被告人ノ收受シタル判示ノ賄賂ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルカ故ニ同法第九十七條第二項ニ則リ其ノ價格合計金百八十五圓ハ之ヲ被告人ヨリ追徴シ訴訟費用中主文掲記ノ分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ被告人ト原審相被告人等ヲシテ主文掲記ノ如ク負擔セシムヘキモノトス

而シテ被告人半祐ニ對スル本件豫審終結決定書記載ノ事實中當院カ認定シタル以外ノ事實ニ付テハ其ノ犯行ノ證明ナキモ當院カ認定シタル分ト連續犯ノ關係アルモノトシテ起訴セラレ公判ニ付セラレタルモノナレハ其ノ分ニ付テハ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲ササルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○放火被告事件(昭和九年(九)第一二三一號
同年十一月十五日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 松澤嘉輔 辯護人 (名)岩松合 孟
山口貞孝 昌雄

【第一審】 長野地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

刑法第八條ニ所謂建造物ト其ノ使用ノ主タル目的

○判決要旨

刑法第八條ニ所謂建造物ハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在
スルモノナルヲ以テ足り其ノ建造物使用ノ主タル目的如何ハ要件
ニ非ス

【參照】 刑法第八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物(汽車、
電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者)ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八年ニ處ス訴訟費用ハ全部被告人ノ
負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ燕温泉ナル名稱ノ下ニ長野市大字長野箱清水二千四百四十九番地ニ於テ料理店及浴場營業ヲ經
營シ居ルモノニシテ昭和四年中既存ノ建物ノ裏手北方約八間ヲ距テ同大字二千五百五十二番地ノ地上ニ
間口十五間一尺奥行六間ナル木造瓦葺二階建家屋一棟ヲ新築シ從來ノ建物ヲ舊館ト呼ビ右新築家屋ハ
之ヲ新館ト稱シ爾來右新館ノ階下東南隅十疊ノ一室ヲ被告人及妾大出ふじノ住居ニ使用シ居リ昭和八
年十月上旬頃更ニ同一階ノ下方地階中央部ニ於テ浴場及客室ノ増築ヲ計畫シテ大工水野惣治ニ之ヲ請
負ハシメ同年十一月十七日頃迄ニ同所ニ於テ浴室及階段ノ間ヲ除キ其ノ他ノ浴室六疊ノ間浴場ノ脱衣
場及三疊控ノ間等ノ各室ヲ略完成シ唯其ノ壁ノ部分ニ於テ其ノ片面ヲ殘スノミトナリ居リタルカ近來
不況ノ爲營業不振トナリ加フルニ借財嵩ミ縣稅及市稅等ノ納入スラ之ヲ滯リ之カ爲右新築建物竝其ノ
敷地ニ付差押ヲ受ケ居リタルモ其ノ支拂意ノ如クナラザリシ折柄昭和八年十一月十七日午後十一時頃
ヨリ所用ノ爲被告人方ノ附近ナル料理店松竹事飯島恒一方ニ赴キ飲食ノ上翌十八日午前一時頃歸宅シ

刑法第八條ニ所謂建造物ト其ノ使用ノ主タル目的

更ニ新館十疊ノ居室ニ於テ冷酒ヲ飲ミ酩酊シ居リタル際偶々右新館ニ付帝國海上火災保險株式會社トノ間ニ保險金額二萬圓ノ火災保險契約ノ締結シアルコトヲ想起シ茲ニ右ふじノ不在ヲ伴ヒトシ該新館ノ建物ニ放火シテ之ヲ燒燬シ前記保險會社ヨリ保險金ヲ取得シ以テ借財ノ整理ニ充當シ一時ヲ糊塗セシコトヲ決意シ同日午前一時過頃右新館地階内ニ立入り當時増築工事中ノ前記地階六疊間ニ在リタル鉋屑(其ノ前日大工津金勝司等カ同室ニ於テ板削リ作業ヲ爲シ其ノ儘殘シ置キタルモノ)ヲ一抱持チ右六疊ノ間ノ北方ニ於テ三疊控ノ間ヲ距テ之ト隣リタル浴場ノ脱衣部屋ニ到リ同室ノ南側ニテ右三疊控ノ間トノ間ナル壁際ニ右鉋屑ヲ置キ更ニ浴場ノ外側ヨリ長サ約六尺前後ノ板數枚ヲ右脱衣部屋ニ持來リ之ヲ右壁際ニ立掛ケ該板ニテ鉋屑ヲ蔽ヒタル上所携ノ燐寸ヲ擦リテ鉋屑ニ點火シ因テ新館地階ノ右増築中ノ部分ニ燃エ移ラシメ之カ爲遂ニ同建物一棟ヲ全燒スルニ至ラシメ以テ被告人及妻ふじノ現ニ住居ニ使用スル建造物ニ放火シテ之ヲ燒燬シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第百八條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八年ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山口貞昌上告趣意書第一點ハ原判決ハ「被告人ハ燕溫泉ナル名稱ノ下ニ料理店及浴場營業ヲ經營シ居ル者ニシテ昭和四年中既存建物ノ裏手ニ木造瓦葺二階建家屋一棟ヲ新築シ從來ノ建物ヲ舊館新築家屋ヲ新館ト稱シ新館階下東南隅十疊ノ一室ヲ被告人及妻大出ふじノ居室ニ使用シ云々ふじノ不在ヲ伴ヒ該新館ニ火ヲ放チ以テ被告人及妻ふじノ現ニ住居ニ使用スル建造物ヲ燒燬シタルモノト認メ是ニ刑法第百八條ヲ適用處斷シタリ然レトモ(一)刑法第百八條ニ所謂「人」トハ犯罪者以外ノ他人ヲ指稱スルモノナレハ原判決カ本件被告人嘉輔ノ住居ニ使用スル家屋ヲ同人カ燒燬シタル所爲ヲ本罪ニ問擬スルハ失當ナリ(二)又同條所定人ノ住居ニ使用スル建造物ナリヤ否ハ該建造物使用ノ主タル目的ニ因リ之ヲ定ムヘキモノトス然ルニ本件新館ハ所謂客室ニシテ來遊浴客ノ休憩又ハ食事等ニ使用スルヲ以テ主タル目的トナスコト明白ナレハ假令此ノ一室ヲ被告及其ノ妻ノ居室ニ使用スルモ是ニ因リ直ニ該家屋全部ヲ人ノ住居ニ使用スル建造物ナリト稱スルヲ得ス(三)且被告ノ妻大出ふじハ偶々放火當時ニ於テ不在ナリシモノニ非ス實妹病氣看護ノ爲昭和八年十一月十日其ノ郷里茨城縣ニ歸省シ何時被告宅ニ來ルヤ歸期不明ノ場合ナレハ該家ヲ以テ現ニ大出ふじノ住居ニ使用スル建造物ナリト謂フハ失當ナリ要之原判決ハ事實ヲ誤認シ律擬齟齬ニ陥リタル違法アリト思料スト云フニアレトモ記録ニ徵スルモ原判決ノ事實認定ニ付テハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アル

コトナシ而シテ其ノ事實中論旨ニ必要ナル部分ハ論旨所掲ノ如ク被告人ハ燕温泉ナル名稱ノ下ニ料理店及浴場營業ヲ經營シ居ルモノニシテ昭和四年中既存建物ノ裏手ニ木造瓦葺二階建家屋一棟ヲ新築シ從來ノ建物ヲ舊館新築家屋ヲ新館ト稱シ新館階下東南隅十疊ノ一室ヲ被告人及妾大出ふじノ住居ニ使用シ云々妾ふじノ不在ヲ俾トシ該新館ニ火ヲ放チ以テ「被告人」及妾ノ現ニ住居ニ使用スル建造物ヲ燒燬シタルモノト判示セルモノニシテ該末段ノ「被告人」ノ表示ハ只犯罪構成要件ニ屬セサルコトヲ判示シタルニ止マリ固ヨリ被告人ノ犯行ニ影響アルモノニ非ス又右事實ニ依レハ新館ノ一室ハ現ニ被告人及大出ふじノ住居ニ使用シ居リタルモノナレハ其ノ他ハ所謂客室ニシテ來遊浴客ノ休憩又ハ食事等ニ使用スルヲ以テ主タル目的トナスモ尙現ニ大出ふじノ住居ニ使用スル建造物ナリト謂フヘク建造物使用ノ主タル目的ニヨリテ左右セラルヘキモノニ非ス蓋シ刑法第百八條ニ所謂建造物ハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現住スルモノナルヲ以テ足り夫レ以上其ノ建造物使用ノ主タル目的如何ヲ以テ其ノ要件トナササレハナリ又現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物タル以上放火當時其ノ人ノ現在スルコトヲ必要トセサルコト之亦同條前段ノ規定ノ解釋上疑ヲ容レスサレハ本件放火當時大出ふじカ不在ナレハトテ同條ニ問擬スルニ妨ケナク尙ふじノ歸期不明ナルコトハ原判決ノ認メサルトコロナリ然ラハ原判決カ被告人ニ對シ刑法第百八條ヲ以テ問擬シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ノ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事松阪廣政關與

○請願令違反被告事件(昭和九年(九)第一一〇五號 破毀自判)

(昭和九年十一月十七日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 松井龜太 辯護人 稻本錠之助
 赤井幸夫
 【第一審】 東京地方裁判所
 【第二審】 東京控訴院
 本津地方裁判所

○判示事項

請願令第十六條ノ罪ノ成立——同令第十七條ノ罪ノ成立——被疑者トシテ勾留中ノ者ニ對スル證人訊問

○判決要旨

一請願令第十六條ノ罪ヲ構成スルカ爲ニハ犯人力行幸啓ノ際其ノ

請願令第十六條ノ罪ノ成立 同令第十七條ノ罪ノ成立 被疑者トシテ勾留中ノ者ニ對スル證人訊問